

 第7回全国高等学校
総合文化祭の記録

創造

かがやけ 青春!



あいさつ



山口県知事

平井 龍

若さと希望にみちあふれる全国高校生の皆さんを山口県にお迎えし、私は心から歓迎申し上げます。

本県は、三方を海に囲まれた美しい自然風土と、中世に開花した大内文化や、明治維新発祥の偉業などの歴史と伝統を有し、私どもはこれらを県民の誇り

りとしているところであります。

現在、本県では活力ある「あたたかいふるさとづくり」を県政の目標とし、特に「心の豊かさ」を大切にした文化の時代の諸施策を推進し、また「明日を創造する活力ある人づくり」に力を注いでおるところであります。

このときに当たり、全国の若き高校生の皆さんたちが、情熱あふれる芸術文化活動の成果を発表し、広く高校生相互の友情の輪を広げる場として、第7回全国高等学校総合文化祭を本県で開催されますことは誠に意義深く、喜びに耐えない次第であります。

私たちは、夏の盛りの3日間、「友情 創造 かがやけ青春」をスローガンに、全国の高校生の優れた演奏、演技や、展示作品に接するのでありますが、未来を担う高校生諸君がこの総合文化祭において、今までの高校生活を通じて努力された芸術文化活動の成果を力一杯発表され、青春時代の思い出の1ページを飾られるよう心から期待するとともに、この大会を明日からの新しい飛躍の出発点とされるよう念願するものであります。

なお、このたびの山陰水害のため、本文化祭出演予定の島根県の2校が出演できなくなりましたことは、誠に残念であり、皆様方と共にお見舞い申しあげ、一日も早く立ち直られるよう心からお祈りいたす次第であります。

終わりに、文部省、文化庁はじめ関係各位の御指導、御協力をいただき、本文化祭が盛大に開催されますことに、心からお礼を申し上げますとともに、皆さんの洋々たる発展を祈念しまして私のごあいさつといたします。

昭和58年8月2日

(第7回全国高等学校総合文化祭 総合開会式記念式典におけるあいさつ)

高校教育の活性化を目指して

第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会委員長
山口県教育委員会教育長



井上謙治

「友情 創造 かがやけ青春」のスローガンのもと、第7回全国高等学校総合文化祭は、8月2日から3日間、山口・宇部・防府市の3市7会場で開催され、折からの酷暑にも負けず、6部門10種目の高校芸術文化活動の成果が披露され、無事盛会のうち

に、閉幕することができました。

心の豊かさが求められる今日、学校における芸術文化活動の振興は、教育的にも極めて重要であるとの見地から、本県は本文化祭が高校生の創造的能力の開発と、若人の情熱高揚の一契機となり、さらにこれが、高校教育の活性化につながることを期待し、中・四国地方で初めての開催を引き受けたのでした。

以来、本文化祭引き受けの趣旨に基づき、この文化祭が平素のままの文化クラブ・部活動の発表と交流の場として、質実ながら高校生らしい情熱あふれたものとなるように、自由かつ新たな発想を交えながら準備に努めて参りました。

おかげをもちまして、全国から654校、約8,300人にのぼる生徒の出演・出品があり、記録的な暑さの中にもかかわらず、各会場で繰り広げられた高校生の燃えあがる若きエネルギーの発散は、生徒も教職員も、さらに多数の一般市民をも感動の渦に巻き込んだのであります。

本文化祭で、出演出品の生徒諸君が展開した情熱と連帯感の高まりに加え、主管校を中心とした引き受け地区の高校をあげて、教師が示された熱意と、生徒がその自主的活動をとおして得られた体験とは誠に得難いものといえましょう。

とりわけ開催の準備過程で得られた生徒の厳しい精進への姿勢、達成感と自信とは、己が青春の一ページを彩り、明日からの生活の糧となるに違いありません。なお、一般市民にとりましても、高校教育への理解を深める機会をもたらしたものと確信しております。

これらの成果は、一過性に終わらせることなく、今後に向かって継続させ、発展させていく必要があると考えます。

終わりに多大の御支援、御協力をいただいた文化庁、会場地各市をはじめ関係各位に対し、深く感謝申し上げるとともに、全国高等学校総合文化祭の今後のますますの発展を祈念し、概況報告のごあいさつといたします。

第7回全国高等

友情 創造

かがた



▲総合開会式記念式典 山口市民会館

総合開会式

高等学校総合文化祭

青春!



知事あいさつ▶



▲記念映画「文化への創造」



▼歓迎のあいさつ

▲ハツとした舞台転換



▼熱唱「男なら」



▲総務係席

◀受付係席

▼会場いっぱいの参会者





▲記念パレード出発 県庁前広場

▼山口県勢のパレード





▲炎天下のパークロードで

▼手づくりの観覧席で



▼暑 / なんのその

▼新築中の県庁舎を背に(岐阜県チーム)





▲歓迎ひろば—いま青春

◀踊り踊れ巻き踊り



▼沖縄ゆんだ





▲大きな幟で大歓迎



▲わたがしは いかが

▼三河御殿万歳





▲「世の中って色々なことがあるんですよ」

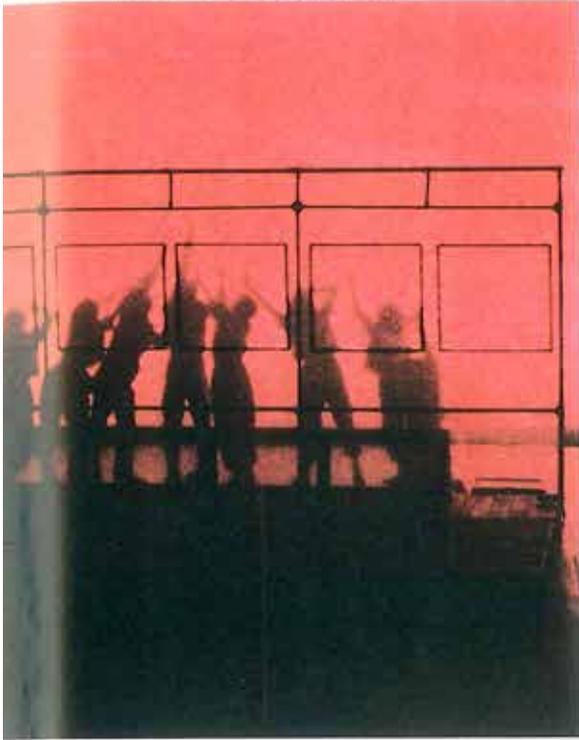
◀ 捨山節考



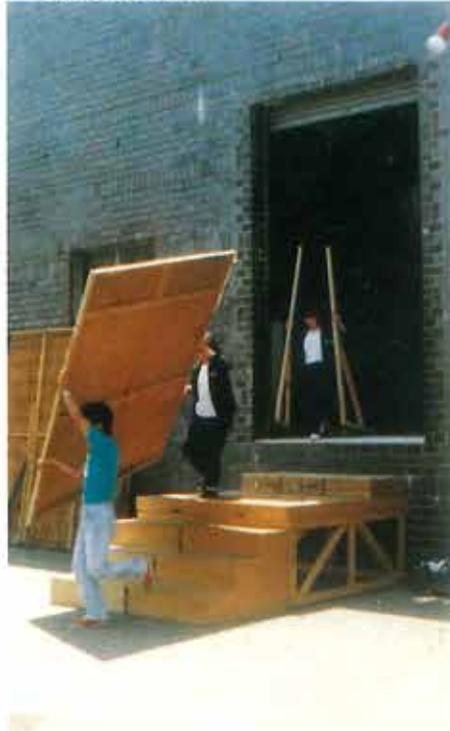
▼ 赤ずきん一ザ・紙芝居



▼夜空を駆ける / ちんちん電車



▼裏方さん大活躍



演劇



▼落書きコーナー大盛況





▲舞台から熱演



▲会場から熱唱

合唱

▼青春は輝くべきだ





▲ホールをゆるがす大合唱

▼山口県女声合唱団「別離より」

▼オペラ フィガロの結婚





▲熱演モデルバンド

吹奏楽・管弦楽

▼夢をのせて 交歓広場



▶本番前の大移動



▲学校紹介でリラックス

▼音作り



▼いい音色





▲開会式

マーチングバンド バトントワーリング



◀岩田工業高校のメンバー

▼宣誓





▼美しいドリル



▼カラフルなコスチューム





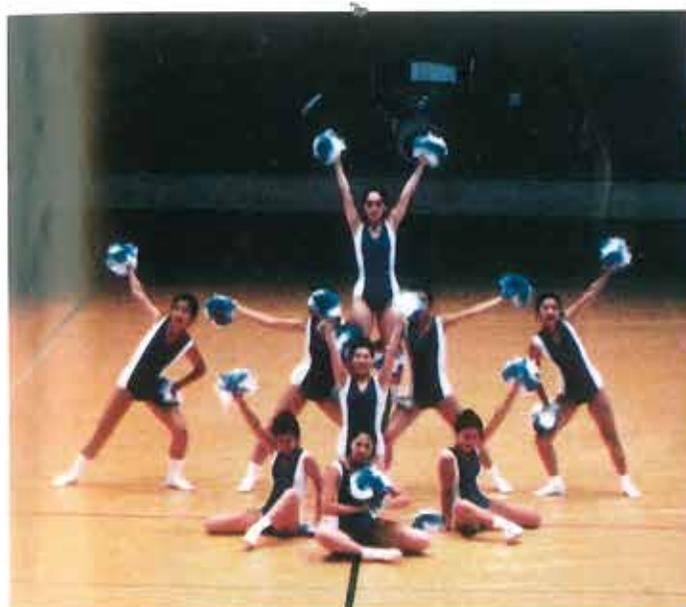
▲バトントワーリング山口県合同チーム

▼創意のレオタードと手作りのボンボン





▲会場 山口県体育館



▲きまったあ！



▲おわったあ！



▶人文字「山口」



邦楽

▲聴じていいね！



▲琴は自分の手で





▲郷土芸能は邦楽部会で



▲日本の調へ



▲調絃室風景



▲さあ、始まるよ



▶書道吟



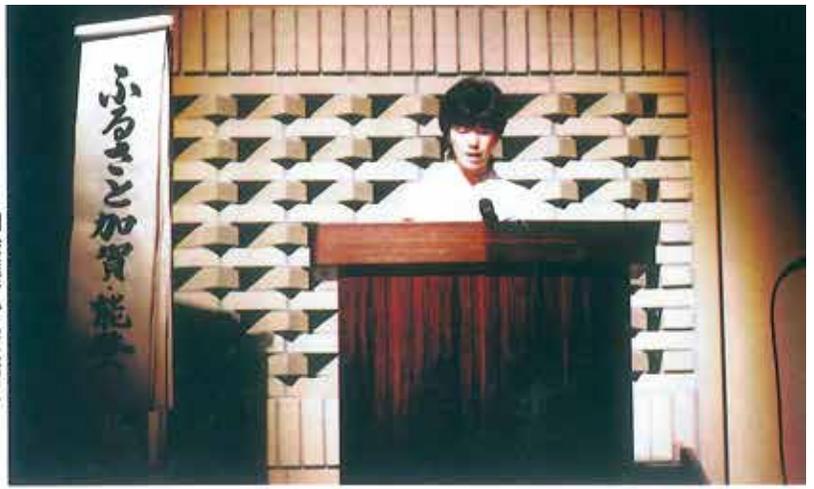
吟詠 剣詩舞

◀構成吟 剣舞



▶駐車場係です

▶司会進行で学校紹介



▲手話で剣舞



▶詩舞

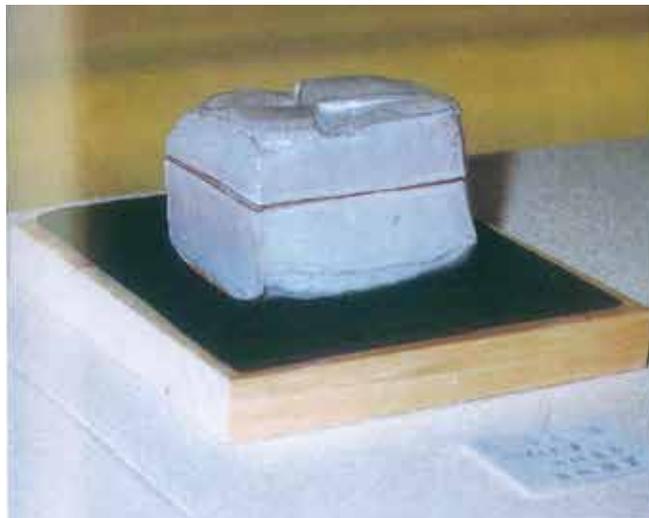


▲開会を飾るパフォーマンス

美術・工芸



▲作品の前で指導講評



▲習作 萩焼



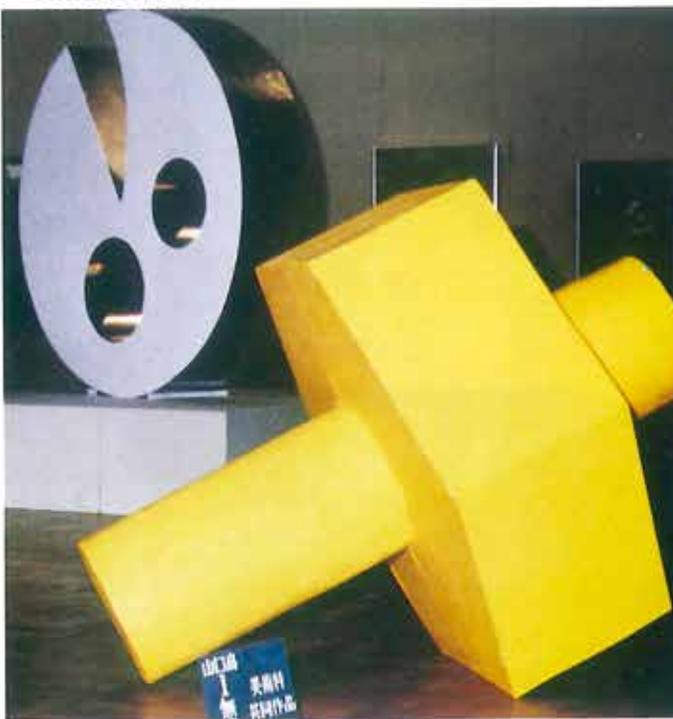
▲ときをつける

立体作品初出品▶

▼受付風景



▼さずがじゃねえ





▲テープカット



▲前衛風作品も加わって

書道

▼墨痕 りんり





▲講師の指導



▲調評会

▼自作の前でハイポーズ!



▼ようおいでました





▲講師の鋭い目



▲私の友達のかな？



◀瞬間の美しさ

写真

▼会場を飾る花





▲関門橋と早乙女



◀いろいろなアングル

▼呈茶で歓待





▲記念楯



▲腕章 参加章



▲演劇コンクール 賞状とトロフィー

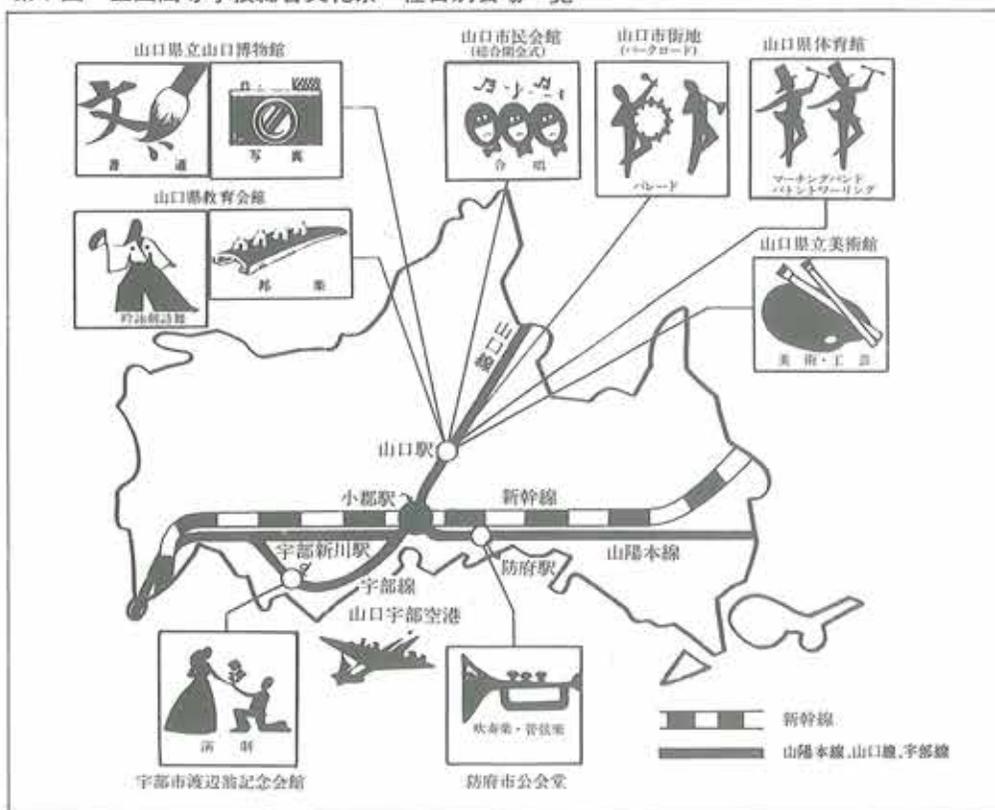


▲美術・工芸 書道 写真部門感謝状

第7回 全国高等学校総合文化祭 日程

種 目	会 場	期 日		
		8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)
総合開会式 (式典、パレード、歓迎ひろば)	山口市市民会館・県庁 前パークロード・ 県立美術館北側広場	15:00~18:30		
演 劇	宇部市渡辺翁記念会館	10:00~16:40	9:30~16:40	9:00~15:00
合 唱	山口市市民会館		9:30~16:30	
吹奏楽・管弦楽	防府市公会堂		9:00~18:00	9:00~12:30
マーチングバンド パトントワーリング	山口県体育館		9:45~16:45	
邦楽・吟詠剣詩舞	山口県教育会館	吟詠剣詩舞 9:30~15:00		邦 楽 9:00~17:25
美 術・工 芸	山口県立美術館	9:30~16:00	9:30~16:00	9:30~16:00
書 道・写 真	山口県立山口博物館	9:30~16:00	9:30~16:00	9:30~16:00

第7回 全国高等学校総合文化祭 種目別会場一覧



も く じ

あいさつ	山口県知事	平 井 龍	
あいさつ	実行委員会委員長・山口県教育委員会委員長	井 上 謙 治	
グラビア			4
日程及び会場			33
も く じ			34
運営の目標と基本			36
部門別実施内容			
総合開会式			40
記念式典			40
報 告			41
記念パレード			44
報 告			45
歓迎ひろば			48
報 告			49
演 劇			54
講 評			56
報 告			59
合 唱			64
講 評			68
報 告			70
吹奏楽・管弦楽			72
講 評			76
報 告			79
マーチングバンド・バトントワーリング			82
講 評			84
報 告			87
邦 楽			90
講 評			94
報 告			95
吟詠・剣詩舞			98
講 評			100
報 告			101
美術・工芸			104
講 評			106
報 告			108

書道	110
講評	112
報告	113
写真	116
講評	118
報告	120
生徒の声	122
経過報告	128
(付)事務局日記抄	132
山口県高等学校芸術文化祭のあゆみ	134
まとめ	135
高校総文を顧みて	
(資料)	
第7回全国高等学校総合文化祭種目別会場期日及び参加状況	139
(付) 年次別参加校数及び参加人員	
◇ 種目別参加校数(都道府県別)	140
◇ 種目別参加人数(点一覧(都道府県別))	141
◇ 県内学校別参加者数	142
◇ 開催に当たっての基本的事項	144
◇ 開催要項	145
◇ 実行委員会設置要項	146
◇ 実行委員会事務局設置規程	147
役員名簿	
実行委員会委員	148
専門部会部員等	150
運営委員・主管校役員	
生徒役員	
準備委員会委員	159
事務局員	160
準備室員	
全国高等学校総合文化祭年次別、種目別参加状況	161
第4回全国都道府県高等学校文化連盟連絡協議会の報告	162
報道記事から	165
スローガン・シンボルマーク・ポスター	169
テーマソング	170
総合プログラム・各部門プログラム等	171
あとがき	172

運営の目標と基本

運営の目標と基本

1 高校の活性化に向けて

高校におけるクラブ・部活動は、豊かな人格形成に大きく影響する。特に心の豊かさが求められる今日、高校における芸術文化活動の振興は、教育的に極めて重要となっている。

このような見地から、広く県内の高校生が各部門にわたり、全国的ハイレベルにある芸術文化活動に接することにより、若人の情熱を発揚し、その創造的能力開発の一契機となることを期待し、あわせて、近年ともすれば薄れがちとなっている友情や連帯感をとり戻し、全国高校生との交流を深める場として、わが山口県は、第7回全国高等学校総合文化祭の開催を引き受けることとした。

以上のような高校総文開催の趣旨にかんがみ、山口高校総文の運営の基本を、「できるだけ多くの参加を」、「生徒の手によって」、「簡素で質実」に置き、全国の高校生を「ふれあう心で広がる友情の輪」で迎えることとした。

なお、昨57年度から実施された新教育課程の「ゆとりのある充実した学校生活」を目指すためであったことは言うまでもない。

2 できるだけ多くの参加を

文化、スポーツいずれの分野でも、全国大会となると、これに参加することは容易なことではない。県教育委員会は、本県で大会が開かれるこの機会に、県内の多くの学校、多くの生徒が参加できることを最重点として考えた。

しかしながら、山口県は、中心となるべき大都市がなく、中小都市が瀬戸内沿岸を東西に長く散在している地理的特性を持っており、県内各地から1か所に多くの人を集めることが極めて困難であるとともに、県庁所在地たる山口市内の高校は公私立4校に過ぎず、大会運営要員の生徒の確保も難しい事情がある。このため、従来の高校総文のほとんどが県庁所在地で行われていた例を破り、本県では、宇部市及び防府市でも開催することとし、少しでも県内広い範囲の地域からの参加や鑑賞がしやすくなることを考えた。

また、高校総文への出演参加は、通常1校1チームの型をとっているが、開催県とは言え、多数のチームを参加させることは、経費的にも時間的にもおのずから限度があるので、数校から選抜した生徒をもって県チームを編成して出演する方式をとることとした。この方式により、参加校を拡大するとともに合同練習を重ねる過程で参加各校における技量のレベルアップを図り、さらに各校間の相互理解、生徒間の連帯感、友情の醸成もあわせ期待したところである。吹奏楽における18校111人のモデルバンド、5校110人の管弦楽団、8校350人の混成混声合唱団、3校64人の合同バトンチーム、7校27人の邦楽合奏などがこれである。ただし、美術工芸、書道、写真部門については、展示壁面と展示効果との関係を考え、県内出品作品は、全国からの出品作品に遜色のないものと厳選主義で臨んだ。

運営の目標と基本

各県への出演作品の参加要請は、今回の高校総文が中・四国では初めての大会であることにかんがみ、ブロックの文化課長会議の席でとくにお問い合わせのほか、九州各県および先催県、後催県に対しても、電話による懇請を続けることとした。

観客動員については、各種広報媒体を利用して参加の呼びかけを行うとともに、特に中学生及びその父兄に対しては、高校入学後における学校生活のあり方を示す指針として、できるだけ鑑賞するよう、中学校関係の会合を利用し、またリーフレット配布も行ってPRに努めることとした。

3 高校生の手によって

高校総文は、その趣旨にかんがみ、出演・作品はもちろん、その運営についても高校生の活躍の場でなければならない。したがって、実行委員会の組織も教職員と生徒が一体となって動きやすいように現場重視の簡明な体制をとることとした。

実行委員会は、専門部会と事務局に大別し、専門部会は、各担当部門の運営企画からその準備、そして大会実施に至るまでの一切の業務を処理することとし、事務局はこれを支援し、各部会間の連絡調整及び関係機関との折衝等に当ることとした。

専門部会の構成は、部会長、部員、運営委員及び生徒役員とし、この生徒役員は、運営補助員ということだけでなく、部会長である校長のもとに専門部員や運営委員の先生方の指導を受けながら、先生と共に運営に当たるという意味で名付けたものである。そして、生徒の主体性を確保するために主管校制をとり、生徒役員は、主管校の生徒をもって充て、協議連絡しやすい校内において、計画及び準備の段階から運営に参画できる体制をとった。ただし、演劇部会の生徒役員は、舞台、照明等の操作技術の関係もあって、数校から適任者を選抜するものとした。

なお、専門部会は、「演劇」、「合唱」、「吹奏楽・管弦楽」、「マーチングバンド・バトントワーリング」、「邦楽・吟詠剣詩舞」、「美術工芸・書道・写真」の6部会とし、これに総合開会式を担当する「オープニング班」を加えることとした。

高校総文の華ともいべき総合開会式も、主役は生徒だという考えから、記念式典、記念パレード及び歓迎ひろばの3本立てとし、記念式典は、映画による山口県の風土と県内高校生の高校総文準備状況の紹介で幕を開け、ステージ上におけるあいさつや祝辞は、4人にしぼり、その後は460人をこえる高校生の大慶祝演奏で終わる45分間で締めくくり、これに続く記念パレード、そして歓迎ひろばとすべて生徒主役で一貫することとした。

山口県高校合唱団と管弦楽団



運営の目標と基本

特に、歓迎ひろばは、山口市内と周辺の7校の教職員と生徒が創意工夫をこらし、各校思いの飾り付けや演出で遠来の友を迎えることにした。これと同様に、吹奏楽・管弦楽の会場では、防府市内4校の生徒による交歓広場が計画された。

4 簡素で質実に

高校総文は、高校における平素のクラブ・部活動の成果の発表と相互交流を行う場である。素朴ながら若い情熱に満ちたものでありたいと念願して準備に取りかかったのであるが、これに加えて、折からの財政難の影響も厳しく、より簡素で実質的なものを指向した。

まず、組織そのものを簡素化し、生徒を主体とした現場第一主義をとったことに伴い、事務局については、専任者は当初から4人にとどめ、兼任の7人は、いずれも文化課及び指導課の職員が本務のかたわら勤務することとした。その代り、専門部会については、その推進役となる教職員5人の授業時間数を軽減することによって、各部会の業務に専念できるようにし、開会式当日は、県教育庁各課職員による支援活動を行うなど弾力的かつ効率的な運営態勢をとることとした。

また、従来の会期は、5～6日間が例であったものを本県では思い切って3日間に短縮し、集中的、効率的運営をすることによって、大会運営の労力的、経済的な負担の軽減を図ることとした。

昭和58年度における高校総文の総予算は、4,300万円とされたが、高校文化連盟のない本県としては、相当に窮屈なものであるので、業務全般について検討した結果、高校総文の趣旨に合致する型で最も効率的な措置を模索した。

総合開会式は、大会の華とも言うべきものでかく壮大華麗になり過ぎるものであるが、今回の高校総文では、高校生主体の原則を貫くためにも、華やかな演出や舞台装置等は極力控え、記念式典の会場装飾も、スローガン、シンボルマーク程度にとどめ、経費負担の関係から、昨年まで行われていた先催県及び後催県の招待出演は、取り止めることとした。

このほか、簡素化と経費節減のためとり上げた措置として次のようなことを考えた。

- (1) 郷土芸能は、県内高校では、クラブ・部活動としてこれを行っているところがなく、実施するとすれば、特別強化費を必要とするので取り止める。
- (2) 高校生による広報紙の共同編集及び発行は、高校新聞連盟が未組織であるので、行わない。既存の広報媒体の活用や各校学校新聞への記事提供により、広報活動を行う。
- (3) 会場の分散、多様な交通体系により、案内所の所要設置箇所は多くなり、それに反して利用価値は少ないと思われるので、総合案内所は設置せず、あらかじめ交通案内を参加校に配



友情の輪(歓迎ひろば)

運営の目標と基本

付するものとする。

- (4) 来賓、出演出品者、役員等への記念品、ワッペン等の配付を行わず、参加章をもってこれに代える。
- (5) 帽子及び腕章は、コンパニオン、パレード誘導係、駐車場整理係等会場の内や外にあって識別が容易でなければならない者や日射病の予防が必要なものに限り着用させる。

5 ふれあう心で広がる友情の輪

高校総文は、単なる発表の場で終わらせてはならない。全国各地から相集う多数の高校生たちが、芸術文化活動を通じての若い世代の連帯の場づくりとならなければならない。

そのためには、開催引き受け県として、本当に心がこもり、気くばりの行き届いた受け入れ態勢を整え、暑いさ中でありながら、全国からの参加者に少しでも楽しく滞在期間を過ごしてもらい、「良き山口」の印象を持ち帰ってもらう必要がある。

このことは、高校生だけでなく広く関係県民の理解と協力が望まれるところで、実行委員会はこの面での活動を幅広く展開して行くこととした。特に開催地の山口、宇部、防府市については、市役所、商工会議所、商店会、旅館組合等に対して

- (1) 市広報による高校総文の紹介
- (2) 歓迎懸垂幕、ステッカー等の掲示
- (3) 七夕ちょうちんの点灯（山口市）、交流の場の設営、物産観光の案内
- (4) 小・中学生の鑑賞の促進
- (5) 交通事故及び食中毒の防止の呼びかけ

等により、大会気運の醸成、歓迎行事の盛り上げを要請する。

一方、実行委員会自体も総合開会式における歓迎ひろばをはじめ各部門ごとに、より自由でユニークな交流の場を設けることとする。また、食中毒の防止については、県衛生部を通じて関係保健所の指導を依頼する。交通事故防止、記念パレードにおける交通規制の円滑な実施及び駐車場の確保については、関係の警察署、土木事務所、市建設部等と十分に協議を重ね、バス及びタクシー業者の協力も求め、その万全を期することとした。



記念式典

15:00~15:45

ファンファーレ

山口県立岩国工業高等学校吹奏楽部

映画「文化への創造」——山口県の風土と県内高校生の総文へ向けての意気込みを紹介——

制作 第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会事務局

協力 山口県視聴覚センター

ナレーター 山口県立山口中央高等学校2年 杉本 昭子

1年 谷川真由美

開会のことば

第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会委員長

山口県教育委員会教育長

井上 謙治

君が代斉唱

あいさつ

山口県知事

平井 龍

祝 辞

文化庁長官

鈴木 勲

歓迎のことば

生徒代表 山口県立山口高等学校2年 西村 明弘

慶祝演奏 曲目

「ハレルヤ」ヘンデル作曲メサイア

「男なら」山口県民謡 一独唱—

「輝け青春」(作詞)山口県立萩工業高等学校3年 荒川 泰信

(作曲)山口県立山口高等学校3年 中谷 賢治

演奏 山口県高等学校管弦楽団

山口県高等学校合唱団

独唱 山口県立萩高等学校3年 上田 敦子

指揮 山口県高等学校教育研究会音楽部会理事長

山口県立下関南高等学校教諭 坂田 哲夫

(主管校 山口県立山口中央高等学校)

ファンファーレで開幕

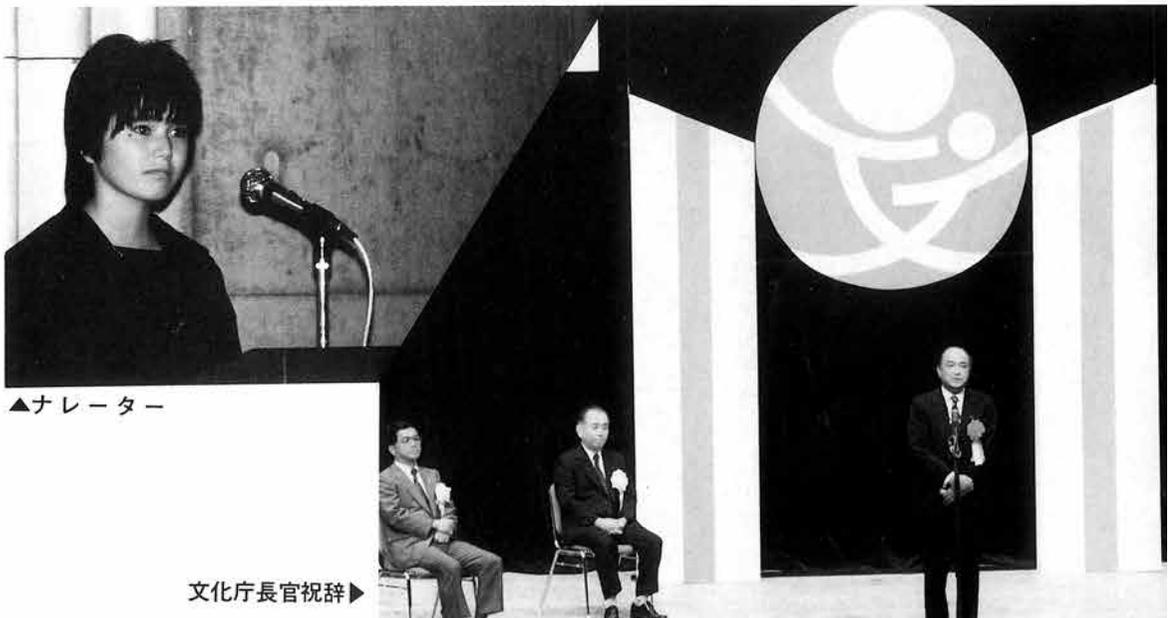
はじめに

オープニング班として発足した本部門は、昭和58年3月25日に準備会議を山口高等学校で開催した。この席において、総合開会式の行事は、記念式典、記念パレード、歓迎ひろばの三つを昭和58年8月2日に開催する案が示され、決定された。そしてそれぞれの主管する学校を、式典が山口中央高校、パレードが山口高校、ひろばは山口中央高校とすることにした。ただし、ひろばについては、山口市内及び近郊の各高等学校もこれに参加することになった。また運営のための組織としては、為貞千速山口高等学校長を班長とし、式典係、パレード係、広場係の3係を設けてこれにそれぞれ係長、係員をおくこととした。その後、内容の検討と人選を行い、4月26日正式に実行委員会委員長から役員が委嘱された。原 碩造 合唱部会長（山口中央高校長）が、式典係長を兼ね、荘重にして典雅な本式典の企画運営に携わった。

準備と経過

この組織成立をうけて、5月9日に県埋蔵文化財センターにおいてオープニング班会議が開催された。ここで、(1)オープニング班の組織及び業務内容、(2)役割分担等について、まず全体に関する内容の打ち合わせの後、各係別の審議が行われ、実施内容の大綱を決定した。また、引き続きこれまでに決定している班員に加えて運営委員が委嘱された。そして、この後は各係ごとに連絡、調整をはかって実施内容を具体的に、詳細に決定していくこととした。

5月11日、山泉荘において、各部会(班)長、副部会(班)長による合同会議が開催され、各部会(班)での実施内容と準備状況が報告審議された。実行委員会委員長の井上県教育長からの激励もあり、大会へむけての機運がようやく盛り上がりはじめた。



▲ナレーター

文化庁長官祝辞▶

総合開会式 記念式典 報告

記念式典の式次第、内容については総合文化祭事務局が原案を作成し、これに従って映画作成、吹奏楽団の決定、管弦楽団と合唱団の編成、練習計画等が分担ごとに行われた。

記念式典の運営については、山口中央高校が主管であったが、これは女子生徒の特色を生かすことで決定されたものであり、この方針にそって山口中央高校内で運営組織をつくり、業務分担を定めて準備することとした。

7月6日、式典内容がほぼ決定されたので、山口中央高校内組織でどのようにこれに対応するかを事務局と共に審議した。またこの間、式典の司会、映画のナレーターの生徒を決定し、他の部門の司会生徒と共にNHKのアナウンサーの指導を受けたり、放送原稿の作成に当たる等の準備をした。

7月26日、山口市民会館において記念式典のリハーサルを実施し、全員参加のもとに、役割分担に従ってそれぞれの部署で本番を想定しての作業を行った。なお、管弦楽団、合唱団は6月18日に山口県高等学校芸術文化祭合唱・管弦楽・合奏部門を実施したときに、合同練習を行っており、記念式典の運営についても検討を加えておいた。このリハーサルの行事によって式典の運営に何とか自信を持ったが、なお幾多の問題点も発見したので、各担当においてさらに検討を加えて準備を進めた。

莊重典雅な式典

第7回全国高等学校総合文化祭 総合開会式の記念式典は、鈴木勲文化庁長官をはじめ、来賓多数の御出席を得て、「友情 創造 かがやけ青春」のスローガンのもとに58年8月2日、山口市民会館において開催された。

ホール一杯になった全国からの参加者が待つ午後3時ちょうど、岩国工業高校の吹奏楽部によるファンファーレを合図に幕が上がった。続いて、黒煙をあげ、汽笛を鳴らしながら山口線を走るSLの勇姿から始まる映画「文化への創造」が上映され、明治維新発



総合開会式 記念式典 報告

祥の地の山口県の風土や、県下各高校のクラブ活動、高校総文への取り組みについての紹介が続いた。この間、バックミュージックとして、この日のために特に編成されて練習を積み重ねた県高校管弦楽団が山口県の歌「みんなのふるさと」等を演奏してムードを盛り上げた。

映画が終わると、まず井上謙治実行委員会委員長(県教育長)から力強い開会のことばが述べられた。君が代斉唱に続いて平井龍山口県知事のあいさつ、鈴木勲文化庁長官の祝辞、生徒代表(山口高校生徒会長)の歓迎のことばが会場を埋めつくした全国からの参加者に対して述べられた。また、この式典に出席された山口市長はじめ多数の来賓が紹介され拍手をうけた。

こうして雰囲気が高まるうちに、350名の県高等学校合唱団と、115名の県高等学校管弦楽団による慶祝演奏が始まった。指揮は坂田哲夫県高等学校教育研究会音楽部会理事長(下関南高校教諭)。まず、ヘンデル作曲メサイアから「ハレルヤ」が演奏され、次に山口県民謡の「男なら」を萩高校3年の女生徒が独唱し、万雷の拍手を受けた。そして3曲目は、この高校総文のテーマソングである「輝け青春」が演奏された。最後にカンタータ土の歌から「大地讃頌」の大合唱が響き渡り、会場の興奮が最高潮に達したところで式典は盛況裏に終了した。

この式典の運営は、山口中央高校が担当し、司会、映画のナレーターを2名の放送部員が担当して、やさしい声でテキパキと進めた。また、コンパニオンとして20名、接待係として12名が来賓の案内、接待をした。受付は6名で、ふれあいを大切にしたいねいな応接を心がけた。その他、舞台、救護の係もそれぞれの分担を十分にこなし、これらの係の周到な準備と活躍により式典は好評をえて、滞りなく終了することができた。



若さ この夏 大爆発

はじめに

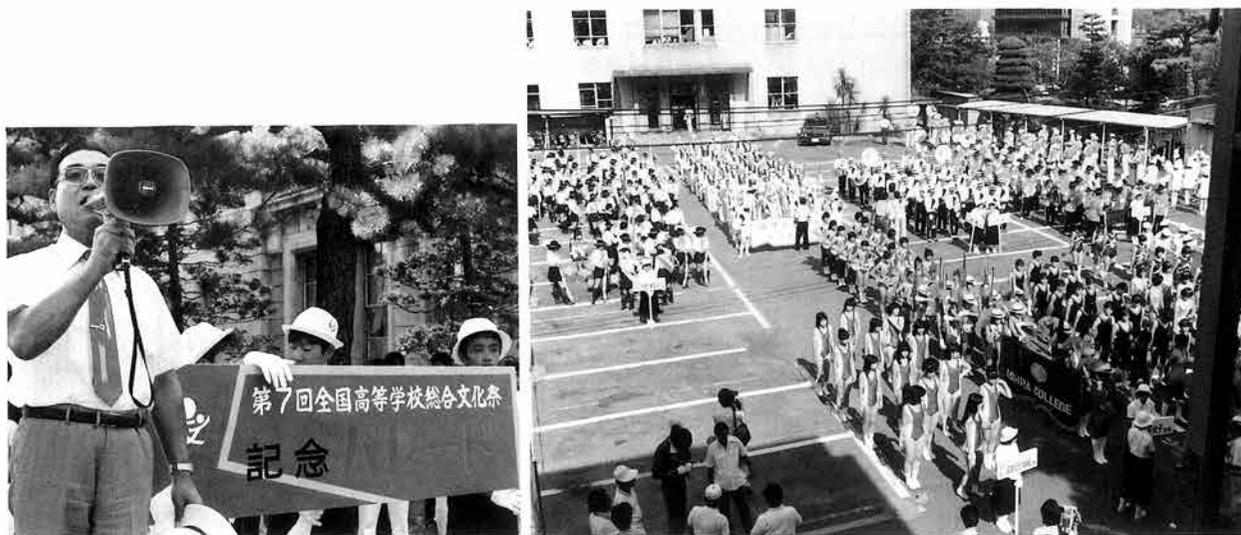
大会3か月前から、オープニング班パレード係が発足し、58年5月9日、第1回会議でパレードの意義とその重要性を確認した。経験者の少ないこの係には、マーチングバンド・パトントワーリング部会の役員のほとんどが重複し、主管校の山口高校の役員、生徒役員とが企画、運営することとなった。したがって、いたるところに困難な問題が露呈し、その一つ一つを話し合いと自らの行動で解決せざるをえず、各方面に御迷惑をおかけした。しかしながら、炎天下の中、全員一丸となって協力し合い実施した。

準備と経過

パレードのコースは、当初、パークロードから駅通り、商店街経由を考えたが、国道9号の横断、アーケード街の道幅等の難点があるので、観客動員面からも運営面からも短時間に効果的にパレードが行えるよう、緑陰の豊かなパークロードを往復一巡することにした。そして、出発点、到着点、巡路、時間、観客位置等は、専門部員と事務局員による3回の試歩で決定した。

山口県からの出演は、パトントワーリングの県合同チーム64名と岩国工業高及び岩国商業高吹奏楽部とで一団を組むこととし、コースも他県チームと逆方向から出発、途中で交差させることにした。パトンチームの着用するレオタードも、パトントワーリング部会で併用できるよう、赤・白・青三色のものとし、パレードコースではスコートも着用することとし、同系の生地で作製した。プラカード製作は県立西部高等職業訓練校、スコート縫製は県立東部高等職業訓練校へと、各方面からの協力を仰いだ。

7月26日猛暑の中、岩国商業高校を除く、県合同チームは、パークロードへ集合し、



総合開会式 記念パレード 報告

ふた手に別れてリハーサルを行った。ブラスバンドの伴わないバトンチームは、テープレコーダーを抱えての行進練習。途中、県教育長の激励や、講師の指導などがあつた。輸送のバスの手配がうまくいかず、県教育会館に半数の生徒が40分くらい残されてしまつたが、このときは涼しい会館での待ちぼうけであつて良かった。

また、プラカード持ちの山口高校の生徒役員は、その経験も訓練も全くなく、重いプラカードを持って3kmも歩くことは至難のことであつた。この日、修学旅行で参加できなかった役員もあわせ、7月31日に山口高校グラウンドで特訓を行ったのである。ともかく細部の見直しの必要はあつたが、本番への自信につながるリハーサルであつた。

パレードの実施に伴う交通規制、これによって起る路線バスを含めての交通渋滞や混乱の防止、う回路の確保等の問題処理については、全面的に山口警察署交通課の協力を頼ることとなつた。そのためには6回にわたる話し合いが持たれたが、その結果、予告広報や標識の設置、観客の整理について有効な準備を整えることができた。この間、道路交通法や道路法上の諸種の手続きも意外に多かつたが、これらも滞りなく終えることができた。

観客動員や交通規制のチラシ配布、標識の設置、コース沿いへのあいさつ回りなどの事前準備は事務局で、事前広報やアナウンスは市役所、その他出発地点や駐車場の確保、来賓観覧席の設営、パレード出演者の誘導や接待等パレード実施の一切は、主管校の教職員生徒が中心となつてこれを県教育庁職員が支援するという見事な協力と連携プレーで記念パレードは遂行された。

パークロードを高らかに

8月2日午後3時山口県教育会館にてパレード参加校の受付開始。午後3時30分から係の誘導により県庁まで出発順に移動。山口県チーム164名を除く11県15校528名が3時45分県庁前広場に集合完了。同50分パレード係長より「激励のことば」があり出発準備完了。当初懸念されていた天候も雲一つない晴天となつたが例年になく気温が上昇し、アスファルトの照返して燃えるような暑さであつた。

午後4時、予定どおり煙火が上がり県庁職員など多数の見送りの中、大プラカードを先頭に大分県立大分女子高と別府市立別府商高とのバトン・マーチングバンドから華やかに出発することができた。一方、山口県チームバトン64名マーチングバンド100名は、山口市民館での総合開会式記念式典後、午後4時の煙火を合図に山口市役所前を出発、他県チームを迎えるようにパークロードを県庁に向かつた。

沿道には、市民館における記念式典を終了した出席者をはじめとして山口高・山口中央高・野田学園高・中村女子高などの男女高校生、小・中学校の児童生徒、山口県庁・教育庁その他の官公庁職員、一般市民多数が参集し歩道を埋めた。中には下関市からの子供会などの観覧もあり、総数は、延約6,000人程度と推察された。

総勢700名に及ぶ高校生によるマーチングバンド・バトントワーリングの行進・演技は山口県でははじめての行事であり、参加生徒たちの整然とした中の華麗な演奏・演技に全ての観衆

総合開会式 記念パレード 報告

が心を奪われた。県庁前と市役所間のパークロードを1回半回って、県立美術館北側の歓迎ひろばに達するころには、高校生たちの平素からの厳しい練習を如実に表す演技と彼等の純真で真剣な姿に感激した観衆が黒山となって終点の歓迎アーチにつめかけ、惜しげもなく賞賛の拍手を送った。アスファルトも溶けるかと思われる熱気の中、若者の躍動美とエネルギーを見せてくれた出場生徒たちは、最後まで立派に演技することができた成就感に満足の笑みを浮かべ、歓迎ひろばの接待テントで冷たいジュースを受け取り解散休憩した。

反省点と願い

先頭のグループ出発から最後尾が到着するまでの所要時間は30分の予定であったが、実際には45分となった。これはバトンチームなどの途中演技に前進後進を繰返すものもあり、あの炎天下、楽器を奏しながらまた、演技をしながら45分の進行は少し無理であった。救急病院の手配をし、救護所を設置、係教員・生徒を配置し万一に備えていたのであるが、平素の訓練のゆきとどいた生徒達も当日の体調にもよるであろうが、意識不明となり倒れる者が出て救急車のお世話になった。

沿道のすべての観衆に多大の感銘を与えて終了することができたことは、関係者一同のこの上ない喜びである。まずもって北は秋田県、南は宮崎県まで全国各地から参加していただいた各県の指導教員、出演生徒をたたえ、このために半年以上も前から計画・準備に取り組んできた役員の教員生徒の苦労、また、交通整理に当たられた警察関係者の御協力、暑い中最後まで熱心に観覧していただいた方々に心から感謝し、このような記念パレードが高校総文の開幕行事の華として益々充実することを祈念している。



歓迎ひろば

16:30~18:30

ファンファーレ		山口県立下関西高等学校吹奏楽部
メインステージ	吹奏楽演奏	下関西高校・山口高校合同シンフォニックバンド
	みんなであたおう	
	バンド演奏	テーマソング「輝け青春」の作曲者 中谷賢治君とそのグループ
ひろば	県下各高校生徒会制作の幟旗展示	
	クリーン作戦——カン細工——	落書コーナー
	郷土の民話、写真の展示	夏の花苗配布
石のステージ	吟詠剣詩舞発表	山口県高等学校合同吟詠 下関西高等学校・下関工業高等学校 萩工業高等学校

- 巻き踊り（沖縄風）
沖縄県立八重山高等学校
- 三河万歳
愛知県立安城農林高等学校

みんなでクリーンに

- (主管校) 山口県立山口中央高等学校
 総務—山口県立山口高等学校
 園芸—山口県立山口農業高等学校
 展示—山口県立徳佐高等学校
 環境—山口県鴻城高等学校
 案内—野田学園高等学校
 救護—中村女子高等学校



広がる友情の輪

はじめに

歓迎ひろばは、総合開会式の記念式典、記念パレードに引き続き、午後4時30分から6時30分までの2時間にわたり県立美術館北側広場において、記念パレードに参加した11県15校 528名の他県高校生を中心に、全国から集まった県内外の高校生のほか、市民多数の参加を得て華々しく開催された。当日は朝から今夏最高の猛暑であったにもかかわらず、予想の2,000人をはるかに超す人出で大盛況であった。

歓迎ひろばは総合開会式の中では、式典・記念パレードに続く第3部にあたることを基本として、立案、運営にあたった。

準備と経過

歓迎ひろばが属するオープニング班の設立は、他の部門に比べやや遅かったが、同班の歓迎ひろば系の構成は、主管校から教頭以下7名、近郊高校の生徒会係6名、合計15名（係長は、阿部邦二郎山口中央高校教頭）であった。なお各校の生徒会役員2名ずつ14名を加えることになった。

係の会議によって決定された歓迎ひろばの構想は、次のとおり。

- (1) 企画・立案及び運営の主体は生徒であり、特別活動の一環としての教育効果を高めるため教職員は生徒の指導・連絡にあたる。
- (2) 交歓ひろばは5時から1時間とする。
- (3) 内容は交歓が活発に行われるような雰囲気づくりを第一とし、そのため生徒の発想を重視し、生徒の創意工夫を核として地元高校生の活動を披露する。
- (4) 参加対象は記念パレード参加生徒を中心とし、記念式典、邦楽、美術工芸等部門の参加の県内外の高校生を含め、高校生はいうまでもなく広く県民一般、老人から幼児まであらゆる世代を想定して準備する。



総合開会式 歓迎ひろば 報告

- (5) アトラクションは各校生徒会ごとに計画をたて、運営も学校ごとに分担し責任を持つ。
(6) 会場運営については、事務局と主管校とが緊密な連携を保ちながら次のことを行う。

事務局は、ア 用地と施設設備(本部、救護室及び便所並びに電源)の借用交渉、イ 歓迎アーチ設営、ウ シンボルタワー設営、エ 開始・終了の宣言。

主管校は、ア 準備状況の把握、イ 会場案内図の設営、ウ 進行、エ 撤収・復元の確認
オ 会計、カ 分担区域の割付け。

オープニング班歓迎ひろば係の活動状況は、次のとおりである。

オープニング班準備会議を58年3月25日山口高校で開催、事務局から総合開会式の内容と班員の割当て原案が発表される。ひき続き歓迎ひろば準備会議を行う。

第1回オープニング班会議は5月9日。事務局から予算の説明をうける。ひき続き歓迎ひろば会議を行い、生徒が主体であることを確認する。外部の協力の依頼は事務局長レベルで行うことになる。

5月13日の会議に山口中央高校では、市内や近郊の7校の生徒指導担当主任に出席を求め、阿部副班長(歓迎ひろば係長)が概要を説明する。

6月11日には各校の分担を確認する。ただし、野田学園高校は美術・工芸等部門、中村女子高校は邦楽部門の主管校であり負担過重にならないよう十分考慮する。歓迎ひろばを正式名称とする。総予算額35万円を内容に応じて配付する。シンボルタワー設営は山口県鴻城高校建築科に依頼したと報告がある。

第5回目の会議を7月25日、役員も加えて行う。具体的準備、当日の運営について討議を行ったのち、現地で分担区域等を確認する。



各校生徒会の心意気

設営は前日の8月1日(月)から始められ、当日2日(火)の午後3時までにシンボルタワー設営をはじめ全ての準備が整った。ひろば行事の開始は、5時からの予定だったが、4時ごろから参加者が集まり始めたので、4時半ファンファーレを合図に開始した。

(1) ステージ

① メインステージ。下関西高校の開始ファンファーレに続き、121名編成の下関西・山口高校合同シンフォニックバンド、3台のシンセサイザーを駆使するテーマソング「輝け青春」作曲の中谷賢司君とそのグループが登場した。② 石のステージ。沖縄県八重山高校「巻き踊り」愛知県安城農林高校「三河万歳」、山口県から山口県高校吟詠クラブ、下関工業高校吟詠部、萩高校合唱部が出演した。

(2) 展 示

① 徳佐高校は、パネル30㎡の規模で「私たちのムラ」と題し、地域の伝承と村の戦没者調査を展示した。② 山口高校は、県内46校から52本の幟を集め会場周辺に立てめぐらせた。③ 山口中央高校は、「クリーン山口」を掲げ空き缶を拾い集めて、7㎡に及ぶ日本列島を製作した。また、落書きコーナーを設置しメッセージによる交歓が行えるようにした。

(3) 接 待

① 山口農業高校は、夏の花鉢2,100個を配布した。② 山口県鴻城高校は、模擬店を出し、アイスクリームなどを製造販売した。収益金18,493円は、島根県水害救援金としてNHK山口放送局に託された。③ 野田学園高校は、会場案内図3,000枚を手作りし配布した。④ 中村女子高校は、救護を担当した。ここは予想外であったが、パレード隊員が数名運び込まれ、ひろば開始前から大忙しであった。⑤ 山口中央高校は、寄贈された花の種子2,000袋と飲料水2,000本とを配布した。



総合開会式 歓迎ひろば 報告

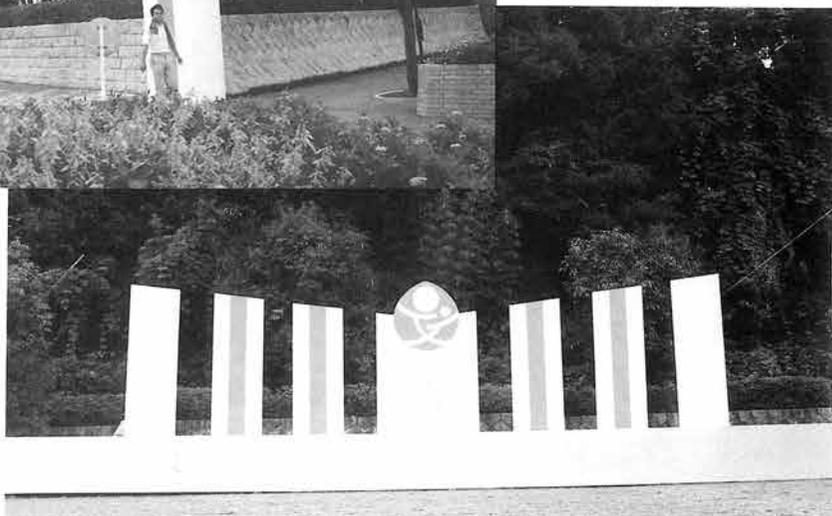
感想と反省点

- (1) ステージ出演団体と打合せのため会議を行い、また文書等による連絡を十分とっておくべきだったと思う。司会者会議は生徒中心で行われたが、具体的内容が十分とは言えず進行にとまどった面があった。出演団体との連絡は直前までとられず、それぞれの団体に一任してあったのだが、内容、人名、機材、時間等について双方で理解し合意しておかなければいけなかった。ただ、歓迎ひろばは自然発生的な盛り上がりによって交歓をすすめることを期待していたことも付け加えておきたい。
- (2) パレード関係者との連絡も救護の面から密にしておくべきであった。幸いなことに担当は中村女子高校の衛生看護科だったので、あわず適切に対応していた。
- (3) 全体としては、歓迎ひろばはどの部門よりも生徒の自主性が生かされ、それだけに特別活動の一環として成果を上げたといえる。騒然としていたが、お祭り気分が満ち溢れ、片や各校生徒の陰の力がそれを支えていた。
- (4) 時間は当初5時から6時までの予定だったが、盛り上がり早く、4時半に開始せざるを得なかった。終りもまたたく間に時間がたち結局6時を少しまわってしまった。しかし、特に支障がなかったので幸いであった。
- (5) 撤収は分担で責任を持つことにしていたが、実際にはそれ以上に協力し合って最後まできれいに片付けた。

◀歓迎ひろばゲート



▼ステージ



総合開会式 歓迎ひろば 報告

▶ 生徒作品「日本列島」



◀ 手造りシンボルタワー

▶ ひろば全景



8月2日(火)

10:00~16:40

開 会 式

10:00~10:30

- | | | | |
|---|-----------------------|------------|-------------|
| 1 | 愛知県愛知高等学校 (中部日本地区代表) | 5名 | 11:00~12:00 |
| | 新・幽霊学校 | 作者 町田市太郎 | |
| | | 脚色 沢田 大輔 | |
| 2 | 兵庫県園田学園高等学校 (近畿地区代表) | 7名 | 13:00~14:00 |
| | うだうだ・ざ「青い春」 | 作者 小嶋 千鶴 | |
| | | 脚色 演 劇 部 | |
| 3 | 埼玉県立秩父農工高等学校 (関東地区代表) | 11名 | 14:20~15:20 |
| | 天神様のほそみち | 作者 別役 実 | |
| 4 | 福岡県立小倉商業高等学校 (九州地区代表) | 7名 | 15:40~16:40 |
| | 時代はセピア色した写真の中に | 作者 ゆきざねせいじ | |

8月3日(水)

9:30~16:40

- | | | | |
|---|-----------------------|----------|-------------|
| 5 | 広島市立舟入高等学校 (中国地区代表) | 13名 | 9:30~10:30 |
| | 夜空を駆けるノチンチン電車 | 作者 伊藤 隆弘 | |
| 6 | 徳島県立板野高等学校 (四国地区代表) | 7名 | 10:50~11:50 |
| | 木 偶 | 作者 中岡 節子 | |
| 7 | 東京都日大鶴ヶ丘高等学校 (関東地区代表) | 11名 | 13:00~14:00 |
| | 夏の夜はなし | 作者 榊原 政常 | |
| 8 | 北海道立根室高等学校 (北海道地区代表) | 23名 | 14:20~15:20 |
| | 榎山 節考 | 作者 深沢 七郎 | |
| | | 脚色 演 劇 部 | |
| 9 | 東京都京華女子高等学校 (東京地区代表) | 25名 | 15:40~16:40 |
| | 赤ずきんーザ・紙芝居ー | 作者 榊原 政常 | |

8月4日(木)

9:00~15:00

10 山形県立天童高等学校(東北地区代表)

28名

9:00~10:00

はなまぼろし

作者 大谷 駿雄

11 山口県立厚狭高等学校(山口県代表)

9名

10:20~11:20

いつか来た道

作者 佐々 俊之

講 習 会

11:30~13:00

第 一 会 場

演出、演技、舞台美術

講師 永曾 信夫

孫福 剛久

小寺 隆詔

第 二 会 場

現代人のことば

講師 清水 邦夫

演劇とことば

講師 倉橋 健

講 評

13:40~14:00

閉 会 式

14:20~15:00

講評講師 桐朋学園大学短期大学部教授

永 曾 信 夫

早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館長

倉 橋 健

作家・木冬舎主宰

清 水 邦 夫

テアトルエコー演出部

孫 福 剛 久

青森県立八戸北高等学校教諭

小 寺 隆 詔

(主管校 山口県立厚狭高等学校)



充実した内容と盛りあがり

全国高等学校演劇協議会会長 内木 文 英

第7回全国高等学校総合文化祭演劇部門として、昭和58年8月2日から3日間、山口県宇部市で開かれた高校演劇の全国大会(全国コンクール、指導者講習会)は、充実した内容を持ったすばらしいものであった。

私はこの大会が山口県で開かれると聞いたとき、正直いって危惧の念を持った。山口県に高校演劇の組織がないことがそのひとつである。毎年の全国大会に山口県から数人の先生方が出席されており、山口県の今までの情況が分からなかったわけではない。下関市を中心とする学校が、福岡県の影響を受けながら、発表会を開いているという報告を受けたりした。全国的な組織を持たない所で、全国大会を開くことはむずかしかろうと思った。

昨年の中国地区大会の打合わせ会が、全国大会の会場に予定されている渡辺翁記念会館で開かれるというので、私も顔を出した。昭和初年に建てられたホールとしては、たいへん立派な舞台であった。声のとおりも悪くない。ただ音楽会用のものなので、照明には多少問題があるな、と思った。

しかし、山口県の先生方、生徒諸君の情熱が、すべてを解決させてしまった。県代表校として劇を上演することがきまった厚狭高校の大石校長先生、西村先生を中心に、県組織をまとめあげ、そこが大会運営に力を発揮した。宇部市は渡辺翁記念会館の照明器具整備に大きな力をかけて下さった。すばらしい大会になった。

ひとつひとつの芝居もよかった。生徒の熱演はいつものことだが、それぞれの舞台が完成度の高い、充実感を感じさせるものだった。最優秀の京華女子高(東京)の「赤ずきん一ザ・紙芝居」は高校演劇協議会の前会長、榊原政常老先生の新作だが、紙芝居の中の人物が絵の中から抜け出してきて、生き生きと動きまわるミュージカル風の作品だ。暗くて重いものが多い高校演劇での、このあかるさは貴重なものと感じた。根室高校の「檜山節考」では、すてられる老女を演じた生徒が好演で、その悲しみをきびしく表現していた。広島舟入高ではこのところ10数年原爆を扱い続けているが、市電と原爆を幻想的に表現した「夜空を駆けるノチンチン電車」は、舟入としては最高のものであったように思う。作者である伊藤隆弘教諭は創作脚本賞を得た。全国大会常連校のひとつ、天童高校「はなまぼろし」も美しくかなしい人間模様を表現して見事であった。この根室・舟入・天童の3校が優秀校として表彰された。園田学園、秩父農工、小倉商、板野高、日大鶴ヶ丘、厚狭高なども、それぞれ力のこもった舞台を創りあげて、満員の観客に感銘を与えていた。

こんなすばらしい大会を支えてくれたたくさんの人たちに心からお礼を申しのべたい。

〔審査員講評〕

炎天下の青春譜

一瞬、日常時間が舞台の小宇宙にすべり込んで、目をうるませ、声をあげて内なるホリゾントの映像に「人間」を実感することが、それほどに演劇的技量を持ち得ていない高校生の舞台にしばしばある。

それは、無垢からの批判か。

それとも、人生胎動の証か。

はたまた、緑年の息吹きか。

舞台上に弾もうと、沈もうと、拙かろうと、表に裏に、清楚に立ち働く姿を含め、すべては彼等のものだ。

そこに高校生の座標軸がある。

今、宇部大会のそれは、この夏の青春の花の幻のようである。 (永曾 信夫)

演劇の原点

別役実、清水邦夫両氏のような多忙な劇作家が今までに審査に参加していたのを知っていたが、何故また、という疑念が去らなかつた。今回講師を引受けたときも、清水君が一緒なら業余の雑談がはずむだろう、というくらいの気持だった。ところが、来て、見て、おどろいた。演劇の原点が、まさしく、そこにあったのだ。

青春のひとつときを、損も得もすてて、ひたすら良い舞台を創ろうという共通の目標に向かって情熱をもやす——これこそ、あるべき演劇のかたちなのだ。巧拙は二の次である。巧みにこしたことはないが、拙いものにも、純粹さがつきらめきがある。これが高校演劇だ。ひさしぶりに心が洗われる思いがした。 (倉橋 健)



◀ 審査員紹介

演劇 講評

「演劇的時間」の現出を

みんなで一つのものを創造する、一つのことを体験する、そうした一体感にあふれた大会だったと思う。高校生らしい若々しさと誠実さにみちた表現は、時としてこちらの胸を鮮烈にうった。

しかし、ある種の危険な風潮も生れてきたことも否めない。最近の大きな特徴の一つとして踊り、歌、コロスなどがふえてきたが、それらが構成上安易に導入されている場合が多く、いわゆる演劇の根源的な劇的ダイナミズムを失った舞台が少なからずあった。また、ドラマの展開がおそく、時間の半分以上を過ぎてようやく核心に入っていく作品も多々あった。

今後、若い情熱を駆使して、充実した「演劇的時間」を現出されることを期待する。

(清水 邦夫)

刺激を期待して……

暑い宇部の3日間は、さわやかな高校生達との触れ合いで、またたく間に楽しく過ぎていました。そして又、次のチャンスを心待ちする自分になっています。

老練俳優の舞台よりも、若さと活気と熱気ある舞台が好きらしい私は、自分が大いに刺激されたくて審査に加わらせていただいたのです。大会出場の各校とも、貴重な実地勉強が出来た事になります。私が指摘した少しでもが、今後の高校演劇界に少しでもプラスになればと思い、私自身はめったに会えない、各審査員諸氏との交流が出来て、又望外の貴重な時間でした。

私事になりますが、10月の山口市文化祭での創作舞踊劇「フランシスコ・ザビエル異聞」のセットプランを依頼されました。これも不思議な巡り合せに思えます。

(孫福 剛久)

光りある十一の各景

大会そのものが、プロローグとエピローグのある、一幕十一場の舞台作品であった。

その作品は高校生によって創造された。ここ数年来の日本の演劇状況が抱え持っている多様な色で塗りこめられていた。その色は若い光りを帯びていて、十一場の各景を熱気のこもったものにした。鋭さを優しく包んで、それぞれの輝きを放った。

優れた小説は一ページに必ず、胸郭を叩いて響く一行を持っているという。

今回の作品の光りある十一の各景が、衝撃と感動を与える一行を持っていたか？

例年に比べてみて、観客の心に重く熱いものを残したのは確かである。収穫の多い大会であったと思う。

(小寺 隆韶)

舞台は生きていた

はじめに

開催準備委員会演劇担当委員2名は、秋田大会（昭和56年度、第5回高校総文）の視察を終えて、第7回全国高校総文・演劇部門開催のための課題の大きさと、責任の重さを痛感した。山口大会には、問題は山積していた。

高校総文の理解はともかく、県内高校演劇活動の理解さえ未知数であり、高校現場への依頼協力の体制すら存在していなかった。

山口県高等学校演劇協議会の結成を、県教育委員会は発議し、高校総文の直接の担当課である文化課は、特別活動の主管課である指導課等と図り、準備委員と何回も検討を重ねる一方、校長会の了解をとりつつ、高校演劇関係者にも積極的に働きかけ、慎重の中にも慎重を期し、関係者の熱意と協力を得て、昭和57年4月1日、県高演協は結成された。ともかく高校総文・演劇部門の開催の条件はととのったが前途は厳しいものであった。

高校総文・演劇部門の事務局を兼ねた県高演協事務局を厚狭高校に設置した。誕生したばかりの乳児期の県高演協は、高校総文・演劇部門の開催を前提として、第20回中国高校演劇研究大会を開催した（昭和57年11月・宇部市）。この中国大会は見ごとなできばえであった。この経験が高校総文・演劇部門に生かされた。

準備と経過

中国大会実施委員会の組織づくりが、最大の山場であった。高校総文・演劇部門の組織体制は、中国大会をそのまま踏襲した。

県高演協加盟の有無を問わず、開催地宇部地区の高校に協力を依頼し、実施委員会の組織ができ、高校総文・演劇部門のルールは敷かれた。

実施委員会は、県高演協の理事、宇部地区高校の教諭と生徒、1校1係、1・2年生で組織した。高校総文をにらんでの組織体制づくりであった。



演劇 報告

過去28回の歴史をもつコンクール形式をどう高校総文・演劇部門に生かすのか、どう動かせばよいのかが運営の基本であった。

高校総文実行委員会と部門実施委員会の事務局会議が幾度となくもたれ検討をすすめた。高校総文開催実施要項にもりこまれている趣旨を配慮しながら、運営のポイントを内容の充実におき、運営内容の創造をいくつか試みた。この山口方式には多少の危惧はあったが、予想以上の成果をおさめた。そのひとつに「講師講評」がある。

- 講師講評—— 幕間討論を廃止し講師講評にしたが、適切な講師を得て生きた。大会参加者の技術の習得は十分に満たされた。
- 高校生交流の広場—— 前夜祭をとりやめ、高校生交流の広場を用意した。広場はコンクールという緊張感の中で、唯一のくつろいだ時間となった。広場には熱意と安定があった。
- 舞台—— コンクールということから来る時間の制限から、特に進行係、大道具運搬係等の責任は重く、生徒役員は懸命にとめた。まさに陰の力として演劇を支え、創造した。会館のスタッフの協力を得て綿密なプランを作製した照明係、また本大会のために宇部市が新しく購入された照明器具で、スムーズに運営できた。
- 会場・受付案内・接待—— 座席指定はしなかったが、特に混乱はなかった。当日の申込者が多く、初日の受付は混乱した。会場内での飲食、上演中の出入は禁止したが守られなかった。残念である。
- 宿泊—— 宿泊については業者に一任した。宿泊内容等苦情はなかった。審査員、講師、大会役員、出演校生徒の宿舎は会場まで徒歩10分程度の所で、会場との往復に要する時間的、経済的

▼演劇部会長あいさつ



ロスがなくて感謝された。

○そ の 他 —— 落書板の前にも、ワイワイ、ガヤガヤ、花が咲いていた。
市内高校の茶道部のお茶の接待も好評であった。

舞台は生きていた

文化庁の鈴木勲長官を演劇部門にむかえたことは、高校総文・演劇部門始まって以来のことであり、光栄であった。

長官は初日第一上演の愛知高校「新・幽霊学校」を熱心に観覧され、高校演劇のレベルの高さを賞賛されておられた。

はるばる遠く北海道から、格調高い作品を持参してくれた根室高校。総勢60名をこえる大集団で、東北から重厚な舞台を見せてくれた常連の天童高校、原爆を追求しつづける広島の舟入高校をはじめとする連続出場の秩父農工高校、日大鶴ヶ丘高校、板野高校、再度登場の京華女子高校、新顔の園田学園高校、愛知高校、小倉商業高校、厚狭高校、全国各地の代表校の舞台は充実し生きていた。

真剣で、情熱的で、若さがほとぼしり、5,000人余の大会参加者を喜ばした。

今後の課題

沖縄の高校から、高校総文・演劇部門に参加上演したいという電話をいただいた。辞退していただいた。残念であった。

全国高等学校演劇協議会加盟校だけによる各地の入賞校（結果主義）だけの大会ではなく、参加し上演したい学校が参加できる大会、これが、本来の高校総文、演劇部門の姿ではないのだろうか。コンクール意識は依然として根強いが、生徒とともに演劇を創造することに喜びを感じている演劇関係者も多い。演劇の普遍化を高校総文・演劇部門でどう生かすかが、今後の課題ではないだろうか。

▶
楽
屋

▼舞台裏



演劇 報告

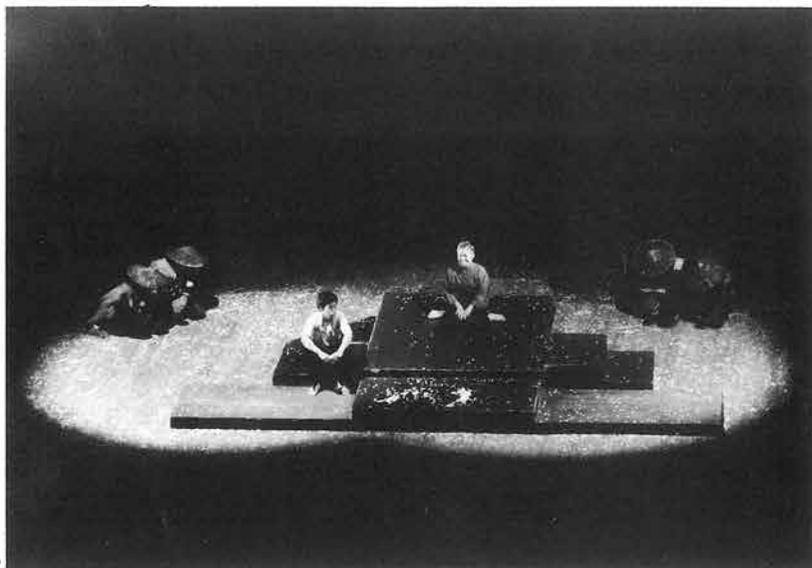
高校の演劇は教育の場において行われている。高校生の生活の再表現なのである。結果より経過を重んじることも大切なのではないだろうか。勝つための演劇部門より、創造的表現を育てる演劇活動であるべきではないだろうか。さらに云えば、コンクール大会である前に、高校総合文化祭の一部であり、教育そのものを問いなおす大会であると云えないだろうか。その意味でも、全国高等学校総合文化祭演劇部門の「新しい芽の開眼」の時期が来ている。高校総文・演劇部門のより広く、より豊かな活性化を祈る。

入賞作品

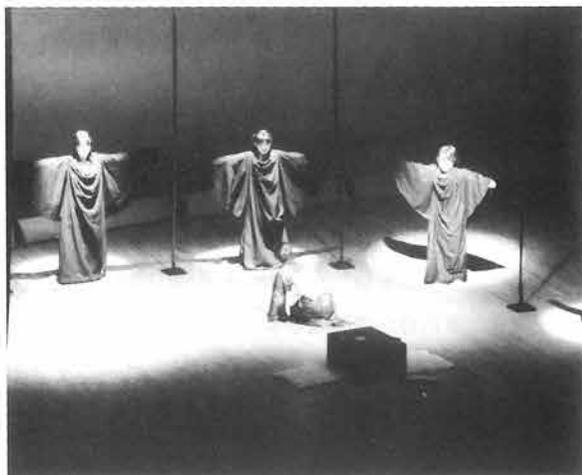
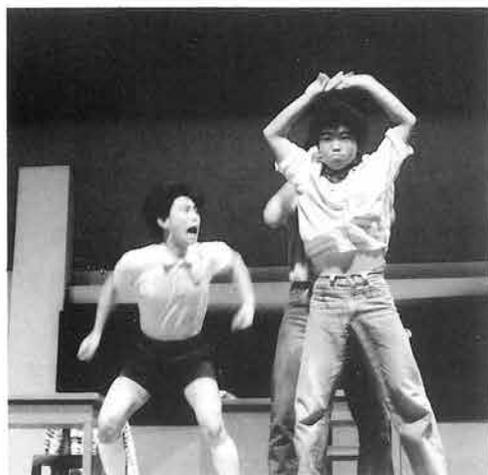
永曾信夫・倉橋健・清水邦夫・孫福剛久・小寺隆韶、5名の審査員は下記のとおり入賞作品を決定した。

最優秀賞	京華女子高校	赤ずきん——ザ・紙芝居——
優秀賞	根室高校	檀山節考
〃	舟入高校	夜空を駈けるノチンチン電車
〃	天童高校	はなまぼろし

創作脚本賞 夜空を駈けるノチンチン電車、を書いた舟入高校 伊藤隆弘氏



演劇 報告



8月3日(水)

9:30~16:30

- | | | | | |
|---|-------------------------|------------------|----|--------------------|
| 1 | 山口県立宇部中央高等学校 | 女声54名 | | |
| | 鰯の上 | 三好達治作詞・萩原英彦作曲 | 指揮 | 三隅 洋子 |
| | 「愛すること」より こないで! | 武鹿悦子作詞・湯山 昭作曲 | 伴奏 | 三隅 香織 |
| 2 | 徳島県立鳴門高等学校 | 女声25名 | | |
| | 女声合唱組曲「遙かな歩み」より花野 | 村上博子作詞・高田三郎作曲 | 指揮 | 郡 曜子 |
| | 花のなかになむる | 秀村愛子作詞・佐藤 真作曲 | 伴奏 | 高木 啓江 |
| 3 | 鹿児島県立錦江湾高等学校 | 混声56名 | | |
| | 混声合唱とピアノのためのイザヤの預言 I、II | | 指揮 | 阿野 安雄 |
| | 旧約聖書「イザヤの預言書」より | 高橋三郎作曲 | 伴奏 | 高橋 陽子
山下久美子 |
| 4 | 秋田県 秋田和洋女子高等学校 | 女声25名 | | |
| | 女声合唱のための三章「愛の河」より | 和田徹三作詞・湯山 昭作曲 | 指揮 | 工藤 宣子 |
| | 祝婚歌・誕生 | | 伴奏 | 浅野 志生 |
| 5 | 岐阜県立各務原東高等学校 | 混声58名 | | |
| | みぞれ | 伊藤民枝作詞・野田暉行作曲 | 指揮 | 沢島 富雄 |
| | 組曲「伊勢志摩」より第IV章 愛するものために | | 伴奏 | 香川 能子 |
| | | 峯 陽作詞・小林秀雄作曲 | | |
| 6 | 福岡県立福岡工業高等学校 | 男声34名 | | |
| | 黒田節 | 福岡県民謡・清水 修編曲 | 指揮 | 大西 美郎 |
| | 蛇祭り行進 | 草野心平作詞・清瀬保二作曲 | 伴奏 | 鎌田 峰子
その他福岡教育大学 |
| 7 | 京都府立加悦谷高等学校 | 女声72名 | | |
| | 女声合唱のための三章 | | 指揮 | 成毛 敦 |
| | 「愛の河」より相聞 | 和田徹三作詞・湯山 昭作曲 | 伴奏 | 沢井 寛子 |
| | 女声合唱組曲 | | | |
| | 「心の四季」より雪の日に | 吉野 弘作詞・高田三郎作曲 | | |
| 8 | 北海道札幌市立藻岩高等学校 | 混声46名 | | |
| | 混声合唱組曲「白い木馬」より | フッシュ・孝子作詞・萩原英彦作曲 | 指揮 | 大木 秀一 |
| | 小さな詩・名も知らぬ異国の港町にて | | 伴奏 | 小黒万里子 |
| 9 | 東京都立清瀬高等学校 | 混声61名 | | |
| | 「合唱のための12のインヴェンション」より | | 指揮 | 原 己保子 |
| | のよさ | 長野県民謡 | 伴奏 | な し |
| | 天満の市は | 大阪地方民謡 | | |
| | | ・間宮茅生編曲 | | |

- 10 新潟県立西新発田高等学校 女声70名
 女声合唱曲集「街路灯」よりマルメロ 北岡淳子作詞・三善 晃作曲 指揮 坂井 情二
 女声合唱組曲「三つの抒情」より 立原道造作詞・三善 晃作曲 伴奏 渋谷美和子
 ふるさとの夜によす
- 11 青森県立青森東高等学校 混声49名
 混声合唱組曲「海の構図」から 小林純一作詞・中田喜直作曲 指揮 辻村 成子
 Ⅲ かもめの歌 Ⅳ 神話の巨人 伴奏 植田 響子
- 12 兵庫県立北須磨高等学校 混声61名
 組曲「光る砂漠」ほたるは星になった 矢澤 幸作詞・萩原英彦作曲 指揮 川辺甲子郎
 組曲「深き淵より」想い出になりきれない想い出 ゆきやなぎれい作詞 伴奏 岡本 珠実
- 13 滋賀県立高島高等学校 混声56名
 混声合唱曲「島よ」より第4曲 伊藤 海彦作詞・大中 恩作曲 指揮 高木 昭順
 混声合唱組曲「北廻船」より「古い壺」 阪田 寛夫作詞 伴奏 坂尾 智子
 山河内浩美
- 14 山口県立防府高等学校 混声59名
 合唱組曲「5つの童画」より 高田敏子作詞・三善 晃作曲 指揮 重広 昭雄
 「砂時計」「どんぐりのこま」 伴奏 小田 誠子
- 講評 全日本合唱連盟常任理事・日本合唱指揮者協会副理事長 関 屋 晋

大 会 式

全 員 合 唱 ヘンデル作曲メサイアより「ハレルヤ」
 あ い さ つ
 歓迎のことば
 全 員 合 唱 大会テーマソング「輝け青春」 佐藤 真作曲「大地讃頌」
さんしう

- 15 静岡県立焼津中央高等学校 混声33名
 オペラ「フィガロの結婚」より モーツァルト作曲 指揮 内山 賢二
 第1幕第9番フィガロのアリア「もう飛ぶまいぞこの蝶々、」 伴奏 松永 好己
 第3幕第22番終曲「結婚式の場面、」
 第4幕第28番終曲「者共、さあ出会え、」

- 16 福岡県立修猷館高等学校(通信制) 混声43名
 明日への伝言 山川啓介作詞・いずみたく作曲 指揮 関 雅子
 二人のシャンソン バスカル・セヴラン 伴奏
 ジャン・ドレーム 作詞・ヴァルト・レーティナン作曲
 Yesterday ジョン・レノン作詞・ポール・マッカートニ作曲
- 17 石川県立金沢向陽高等学校 女声35名
 女声合唱組曲「この地上」より 指揮 熊谷 保夫
 鱒 高野喜久雄作詞・高田三郎作曲 伴奏 萩原 希美
 犀川 室生犀星作詞・磯部 叔作曲 関沢千香恵
- 18 愛知県立西条高等学校 混声45名
 混声合唱組曲「北の大地」より 指揮 岡田 好史
 5 北の大地 小野寺与吉作詞・團伊玖磨作曲 伴奏 野口さゆり
 混声合唱組曲「大阿蘇」より
 II カルデラの川 丸山 豊作詞・團伊玖磨作曲
- 19 群馬県立沼田女子高等学校 女声43名
 女声合唱組曲「水のいのち」より 指揮 三田 公代
 雨・海よ 高野喜久雄作詞・高田三郎作曲 伴奏 鈴木 真理
 小林 美恵
- 20 山梨県立富士河口湖高等学校 混声54名
 混声合唱組曲「幼年連禱」より 指揮 渡辺 公男
 III 憧れ IV 喪失 吉原幸子作詞・新実徳英作曲 伴奏 中島真由美
- 21 山形県立新庄南高等学校 女声40名
 女声合唱のためのファンタジー 中村千栄子作詞・湯山 昭作曲 指揮 鈴木 恵子
 越後の恋歌より「朱鷺の歌」 伴奏 植村 弘子
- 22 千葉県立千葉東高等学校 混声46名
 混声合唱組曲「光る砂漠」より 矢澤 宰作詞・萩原英彦作曲 指揮 井辻 紀一
 落 石・ふるさと 伴奏 藪長 真世
- 23 岩手県立宮古高等学校 女声51名
 こどものための合唱組曲「オデコのこいつ」より 指揮 山田 靖
 「おまえはだれた」「ゆめ」 蓬来泰三作詞・三善 晃作曲 伴奏 大久保和歌子
- 24 岐阜県立多治見北高等学校 混声62名
 よろこびの歌 近江靖子作詞・湯山 昭作曲 指揮 高橋 賢亮
 死んだ男の残したものは 谷川俊太郎作詞・武満 徹作曲 伴奏 前川 祐子
 林 光編曲

- 25 埼玉県立川越高等学校 男声63名
 男声合唱とピアノのためのディアローグ 指揮 小高 秀一
 「流氷のうた」より
 流氷のうた、光の讃歌 阿部 保作詞・湯山 昭作曲 伴奏 細野 啓子
- 26 熊本県立宇土高等学校 混声53名
 混声合唱組曲「内なる遠さ」より 指揮 下田 宰城
 1 合掌 さる 高野喜久雄作詞・高田三郎作曲 伴奏 後藤 邦予
 2 燃えるもの 蜘蛛
- 27 香川県 高松第一高等学校 混声82名
 わが青春のアルカディア 山川啓介作詞・平尾昌晃作曲 指揮 竹内 肇
 みぞれ 冬木 透編曲 木村 明昭
 ペカンペ・カムイノミ 伊藤民枝作詞・野田暉行作曲 米沢陽一郎
 伴奏 松野真理子
 岡橋 直樹
- 28 広島県ノートルダム清心高等学校 女声52名
 女声合唱とピアノのための交響詩「有明の海」より 指揮 前原瑠美子
 I いのちの海 IV かなしみの海 伴奏 大下 知子
 川崎 洋作詞・野田暉行作曲
- 29 山口県立萩高等学校 混声54名
 混声合唱曲「島よ」 伊藤海彦作詞・大中 恩作曲 指揮 有富 美子
 伴奏 大田 香
- 講評 全日本合唱連盟常任理事・日本合唱指揮者協会副理事長 関 屋 晋
- 別離より 中原中也作詞・岡田昌大作曲

(主管校 山口県立山口中央高等学校)

「新しい響き」を感じる

全日本合唱連盟常任理事 関 屋 晋

連日36度、37度という猛暑が続いたこの夏、屋外の熱さ以上に山口市民会館の中は活気に溢れていた。野球の甲子園、陸上のインターハイのように、この全国高等学校「総合文化祭」を盛大にしようという気分が嬉しかった。

今年の「総合文化祭」（合唱の部）を聴いて非常によいと思ったのは「全員合唱」があったことである。それもオーケストラと一緒に演奏したのが特によかった。山口県の先生方が協力して、オーケストラ用の編曲から、合唱団やオーケストラの指導までの用意をやってくれたからできたわけで、私は全員合唱で佐藤真作曲「大地讃頌」を指揮しながら、大変面倒なことをよくやられたと感激した。

「合唱」の人は合唱しか知らない、「オーケストラ」の人は合唱を聴かない、絵の好きな人は音楽はあんまり好きじゃないということが、世の中ではよくいわれているが、合唱だけが音楽ではない。いろいろな音楽を知ることが自分の音楽を大きくすることだと私はいいつけてきた。その第一歩が実行されたことはすばらしい。

ヘンデル作曲の「メサイア」から「ハレルヤ」を歌ったのもよかった。今までピアノ伴奏でしか歌ったことがなかった人達もいただろうから、管や弦の音から「新しい響き」を感じたろう。本来こういう音がしていたのかと感ずることが大事なので、今後ピアノでもう一度歌う時にも、この音はオーケストラはどんな音色がしていたと考えながら歌えるだろう。それでこそ「総合文化祭」なのだ。

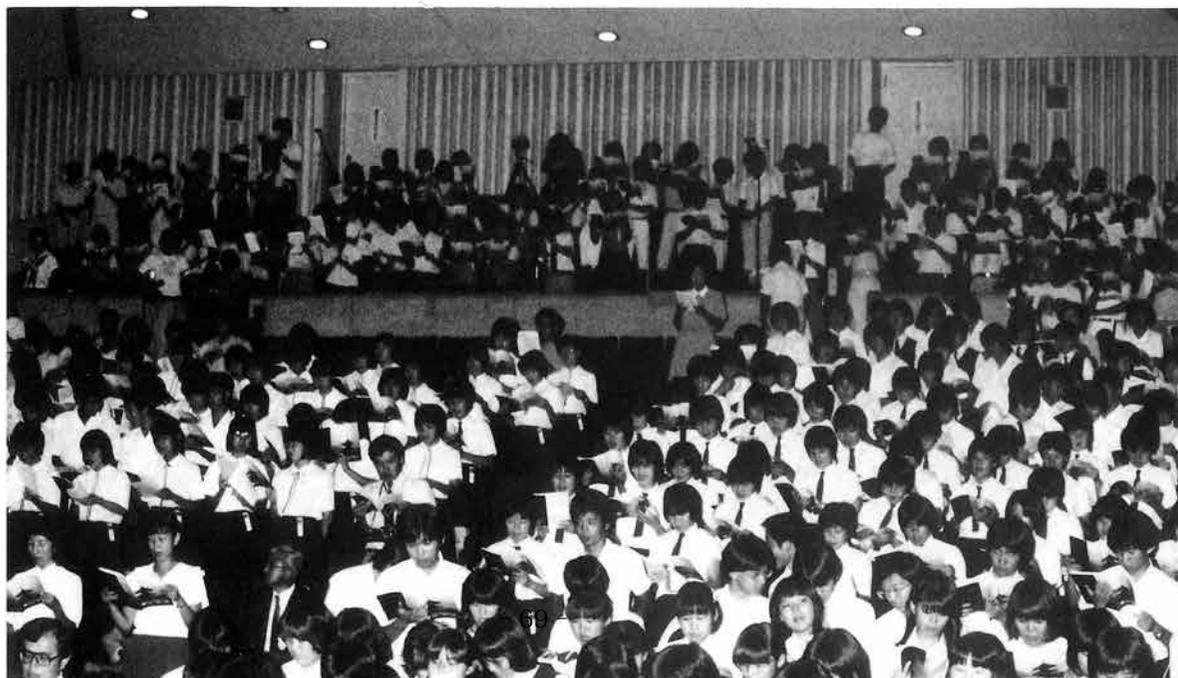


大会テーマソング「輝け青春」（荒川泰信作詞、中谷賢治作曲）を歌ったことも印象に残っている。是非続けていって欲しいことだ。

印象に残っているといえば、静岡県立焼津中央高等学校がモーツァルト作曲のオペラ「フィガロの結婚」を演奏したことだ。今年の出演団体は演奏曲目がダブルようなことはなく選曲にもかなり自分達のよいところを出すように心掛けていたが、オペラだけを勉強している合唱団があるというのはかなり個性的だ。これしかできない、これだけが歌いたい、そういう合唱団に出会えたことだけで私は幸せだった。

演奏の点からいえば、開幕を華やかにした山口県立宇部中央高等学校、少人数で美しい合唱を聴かせた秋田和洋高等学校、清々しいアカペラ合唱曲を歌った東京都立清瀬高等学校、知的な音楽を創った山口県立防府高等学校、感動的なドラマにした岩手県立宮古高等学校、力強い男声合唱の埼玉県立川越高等学校、変化と輝くばかりの声をもった高松第一高等学校、スケールの大きな合唱で終幕を飾った山口県立萩高等学校等も忘れられない。

終りに「総合文化祭」は、コンクールでないから、上手、下手は問題にならない。推薦の仕方もある。いろいろな団体が、いろいろな考え方で「総合文化祭」を創り上げているわけだから、そこに今後この「総合文化祭」をどのように発展させていくかのカギがあるように思われた。



こだまする大熱唱

はじめに

「7」というげんのよい数字で、素晴らしい運営ができるに違いない。しかもそれゆえ内容も充実できる大会になるであろうと、いささか神だのみの発想で始まった第7回全国高等学校総合文化祭合唱部会。

部会長、副部会長、部員3名で組織された部会会議の中に、県立山口中央高等学校長、県高等学校教育研究会音楽部会理事長、合唱連盟県連理事などを含み、運営の引き受け主管校である山口中央高等学校の生徒指導部長を加えて、この合唱部会は、57年7月に第1回会議を開いた。

準備と経過

日ごろのクラブ、部活動の姿をありのまま発表しよう。派手さをさげ、質素の中に実りの多いものを求めよう。しかも県内の高校生ができるだけ多く参加できるようにしよう、と基本的考えがまとまり、オーケストラ伴奏による全体合唱を行うこと、県高等学校合唱団を組織して大合唱を行うこと、指導講師は著名な人に依頼することなど方針を定めた。

山口県では県高校芸術文化祭として、高等学校連合音楽会を毎年6月に開催している。本年もこの高校総文を目ざして、合唱・管弦楽・合奏部門は山口市民会館で、吹奏楽・マーチングバンド・バトントワーリング部門は防府市公会堂で行った。過去33回の歴史の中で積みあげられた合同合唱、合同演奏を吹奏楽部門は総文モデルバンド編成へ、合唱部門は混成の大混声合唱団へ、管弦楽は慶祝演奏大オーケストラへと発展させようと前年度の県高校教育研究会音楽部会の席上で決定していたので、この日はそれぞれ、その合同練習を行った。

ヘンデル作曲、メサイアから「ハレルヤ」、山口県民謡「男なら」、そして本文化祭のために応募し制作したテーマソング「輝け青春」。

会場と一体となった大合唱、ステージへは300人の合唱団と115人の管弦楽団。午前中の練習を通して、8月の総合文化祭へむけて実質的に始動した1日であった。関屋晋先生にも講評講師の快諾を得て、着々と50年に1度の大会に向けて準備がすすめられた。



「ハレルヤ」と「別離より」

他県から遠い山口県へ来られ、不便な目にあわせてはいけない。やさしく、ていねいに運営しようと、山口中央高校の女生徒175名がお世話をした。

会場は山口市民会館で収容人員1,550人、音響、場所も適当であった。練習会場は近くの小学校の講堂、付設の公民館視聴覚室、小ホールと三つの個所に設け、誘導、くり出しの役員の適切な処置もあり、運営の流れも申し分なく行えた。

昼間時に企画した大会式は、深井浄県教育委員会教育次長、原合唱部会長、生徒代表のあいさつに続いて「ハレルヤ」の大合唱となり、会場全体が一つの感動のるつぼと化した。

また、なまのオーケストラによる合唱、そして関屋晋先生の巧みな指揮で「大地讃頌」は大熱唱となった。会場内の熱気が伝わったのか、外は山口でも珍しい記録的な猛暑、救護室も大繁盛。幸い重病者は出なかったものの、役員、生徒共々大いに気を使ったことだった。

天候のこととはいえ、7月の水害のため、出演を辞退せざるをえなかった島根県立益田高校の合唱部の皆さんには、心からお見舞いを申しあげたい。

フィナーレは、中原中也詩、岡田昌大作曲の「別離より」を県内混成女声合唱団で歌い、詩、曲とも山口市ゆかりの人の歌とあって、この大会の別れにふさわしい花をそえた。

まごころのおみやげと一緒に、出演者全員の名前、各出演校の校章、プロフィールを載せた合唱部会歌集をおことづけした。好評のようであった。

今後の課題

ひとつ残念なことは、出演校の中には要領にうたわれている制限時間を守らずに準備をされてきた学校があったこと。途中でできるわけにいかず、裏方の準備が狂うやら、そでで、やきもき、いらいらするやらで、せっかくの美しい合唱も台なし。総文の発展のためにも、こうした問題はそれぞれ自分達の心がけで解決してゆきたいものだ。



8月3日(水)

9:00~18:00

- | | | | |
|---|---|-----|---|
| 1 | 大分県立大分高等学校
主よ人の望みを喜びぬ

神のめぐみをうけて | 48名 | 指揮 斉藤 哲哉
J. S. バッハ作曲
A. リード編曲
フランシス・マクベス作曲 |
| 2 | 島根県立松江北高等学校
交響曲第5番第4楽章

吹奏楽のためのインヴェンション第1番 | 49名 | 指揮 勝部 俊行
シヨスタコーヴィッチ作曲
C・ライター編曲
内藤 淳一 作曲 |
| 3 | 熊本県立済々黶高等学校
カドリーユ
アンティフォナーレ | 50名 | 指揮 黒葛原 潔
後藤 洋 作曲
V・ネリーベル 作曲 |
| 4 | 鳥取県立鳥取東高等学校
吹奏楽のためのインヴェンション第1番
チェスワードポートレート | 50名 | 指揮 西川 昭雄
内藤 淳一 作曲
ジェームス・スウェアリン・
ジェンエン作曲 |
| 5 | 岡山県立西大寺高等学校
吹奏楽のためのインヴェンション第1番
飛鳥 Asuka | 50名 | 指揮 山本 勲
内藤 淳一 作曲
榎田肤之扶 作曲 |
| 6 | 宮城県立第二女子高等学校
8声のカンツォーナ
イン・ノミネ クライ、5声 | 13名 | ジュゼッペ・グアーミ 作曲
クリストファー・タイ 作曲 |
| 7 | 山梨県立甲府第一高等学校
舞踊音楽「四季」より秋 | 60名 | 指揮 安藤十三男
アレクサンドル・グラスノフ 作曲
リチャルト・バンクロート 編曲 |
| 8 | 静岡県立浜松北高等学校
白鳳狂詩曲
パシフィック・セレブレーション・スイートより
祈り・パレード | 65名 | 指揮 伊藤正比呂
藤掛 廣幸 作曲

ロジャー・ニクソン 作曲 |
| 9 | 兵庫県夙川学院高等学校
絵のような風景

アルヴァマー序曲 | 60名 | 指揮 平松 文雄
J・マスネ 作曲
L・ミレー 編曲
J・スウェアリンジェン 作曲 |

- | | | | |
|----|--|-----|--|
| 10 | 長野県塩尻高等学校
A・Jubilant! Overture
SIR, DUKE | 42名 | 指揮 小澤 正文
Alfred Reed 作曲
Stevie Wonder 作曲
岩井 直薄 編曲 |
| 11 | 山口県立高森高等学校
スラバ
アンティフォナーレ | 56名 | 指揮 武安 由博
L・バーンスタイン 作曲
V・ネリベル 作曲 |
| 12 | 宮崎県立都城農業高等学校
交響曲第6番第4楽章
天国と地獄 | 42名 | 指揮 犬塚 治憲
チャイコフスキー 作曲
オッフェンバッハ 作曲 |
| 13 | 茨城県立友部高等学校
狂詩曲「ノヴェナ」
ウエストウッドポートレート | 50名 | 指揮 井川 伸子
J・スウェアリンジェン 作曲
J・スピアーズ 作曲 |
| 14 | 北海道網走南ヶ丘高等学校
組曲 惑星より「木星」
新日本紀行 | 51名 | 指揮 松田 彰光
ホルスト 作曲
富田 勲 作曲 |
| 15 | 埼玉県立松山高等学校
舞踊組曲「ロデオ」よりカウボーイの休日
ハスケルのいたずら小僧 | 53名 | 指揮 八木原宗夫
A・コーブランド 作曲
D・ヨーダー 作曲 |
| 16 | 山形県立新庄北高等学校
CAPRICCIO ESPAGNOLより | 39名 | 指揮 藤田順一郎
N・RIMSKY-KORSAKOW
作曲 |
| 17 | 広島県立五日市高等学校
シューマンの主題による変奏曲 | 53名 | 指揮 井上 亨
R・ジェーガー 作曲 |
| 18 | 宮城県立盲学校
3つの二重奏曲より第3番
エコーファンタジア他 | 6名 | ベートーベン 作曲
川島 通雅 編曲
バン・キエリ 作曲
フィリップ・ジョーンズ 編曲 |
| 19 | 愛媛県立新居浜東高等学校
吹奏楽のためのインヴェンション第1番
アルメニア舞曲Part IIより「ロリからの歌」 | 59名 | 指揮 秋月 晃一
内藤 淳一 作曲
アルフレッド・リード 作曲 |
| 20 | 東京都立九段高等学校
東北民謡のためのコラージュ
バンドのための交響曲第4楽章 | 45名 | 指揮 坂本慶之祐
榎田肤之扶 作曲
ロバート・ジェイガー 作曲 |

21	高知県明德高等学校 絵のような風景 四国民謡メドレー	50名	指揮 山崎 幸男 マスネ 作曲 岩井 直薄 編曲
22	岩手県立釜石南高等学校 吹奏楽のための組曲第三番	64名	指揮 谷沢 栄一 ALFRED・REED 作曲
23	千葉県立津田沼高等学校 交響曲第8番1楽章	55名	指揮 飯島 智文 ベートーベン 作曲

大 会 式

あいさつ	実行委員会委員長 部会長 生徒代表	県教育長 防府高校長 防府高校生徒会長	井上 謙 治 町 田 晃 三 島 智 之
歓迎のことば	防府市長		原 田 孝 三
講師紹介			
講 評	兵庫教育大学教授		岡 田 昌 大
慶祝演奏	山口県高等学校吹奏楽モデルバンド		指揮 小松 一彦
構成校	県立広瀬高校・県立下松高校・県立徳山高校・県立徳山北高校・県立防府高校・ 県立山口高校・県立山口農業高校・県立小野田高校・県立美祢高校・県立大嶺高 校・県立豊浦高校・県立下関中央工業高校・県立下関工業高校・県立豊北高校・ 県立徳佐高校・柳井学園高校・山口県桜ヶ丘高校・早鞆高校		
曲 目	キューピットマーチ カドリーユ インベンションNo.1 白鳳狂詩曲 総文テーマソング 「輝け青春」 県立防府高校合唱部		川崎 優 作曲 後藤 洋 作曲 内藤淳一 作曲 藤掛廣幸 作曲 荒川泰信 作詞・中谷賢治 作曲 指揮 中井 勝

交 歓 広 場

16:30~18:00
公会堂中庭

プロムナード・コンサート

18:00~18:30
商店会広場

出 演 校	北海道網走南ヶ丘高校 長野県塩尻高校 岩手県立釜石南高校 茨城県立友部高校 山口県高等学校吹奏楽モデルバンド
-------	--

8月4日(木)

9:00~12:30

- | | | | |
|----|--|-----|--|
| 1 | 山口県立防府高等学校
山口県民謡「男なら」によるパラフレーズ
「管弦楽のための協奏曲」よりⅡ・Ⅲ楽章 | 51名 | 指揮 重広 昭雄
岡田 昌大 作曲
三善 晃 作曲
田中 照通 編曲 |
| 2 | 熊本県尚絅高等学校
メリアの平原にて | 31名 | 指揮 林田戦太郎
マネンテ 作曲 |
| 3 | 栃木県立宇都宮高等学校
幻想交響曲より「刑場への行進」
交響曲第4番「第4楽章」 | 63名 | 指揮 永岡 国雄
ベルリオーズ 作曲
チャイコフスキー 作曲 |
| 4 | 福岡県立小倉高等学校
交響曲第8番第1楽章
吹奏楽のためのインヴェンション第1番 | 62名 | 指揮 梅本 武雄
アントニン・ドヴォルザーク 作曲
内藤 淳一 作曲 |
| 5 | 兵庫県 神戸市立神戸西高等学校
神戸市立神港高等学校
神戸市立兵庫商業高等学校
スペイン舞曲
海之歌 | 53名 | 指揮 吉田 敏幸・田尻 幹雄
ロザリオ・カルシオーネ 作曲
レックス・ミッチェル 作曲 |
| 6 | 山口県立柳井高等学校
調和の幻想 op 3-No. 11 | 53名 | 指揮 藤井 哲雄
ピバルディ 作曲
藤井 哲男 編曲 |
| 7 | 愛媛県立松山商業高等学校
インテルメッツォ・ナンバーワン
シンフォニー第1番ト短調 終楽章 | 55名 | 指揮 播磨 重善
Benny Andersson 作曲
岩井 直薄 編曲
カリニコフ 作曲 |
| 8 | 長野県須坂東高等学校
挽歌
「降誕祭の夜」より | 35名 | 指揮 山崎 聖子
E・ジュディチ 作曲
A・アマディ 作曲 |
| 9 | 長野県中野高等学校
帰郷
最後の舞台 | 35名 | 指揮 鈴木 幸代
K・ベルキー 作曲
F・メニケッティ 作曲 |
| 10 | 福岡県立筑紫中央高等学校
世俗カンタータ「カルミナブラーナ」より | 77名 | 指揮 池田 嘉彦
カール・オルフ 作曲
J・クランス 編曲 |
| 11 | 山口県立下関南高等学校
交響曲第9番「新世界」より第1楽章 | 75名 | 指揮 坂田 哲夫
ドボルザーク 作曲 |
| 講評 | 関西フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者 | | 小松 一彦 |

一つの音楽表現に向かって

関西フィルハーモニー常任指揮者 小松 一彦

若やいだ明るい喚声がかどまするロビーとはうってかわって、カメラのシャッター音さえ気になるほどの、真剣な会場。全国高等学校総合文化祭の吹奏楽・管弦楽部門の防府市公会堂は2,000人の出演者の、純粹でしかも温かみのある音楽で満ちていました。

や、もすると、コンクールへ傾きがちな高校の吹奏楽や音楽活動の中で、この総合文化祭は本当の意味でのクラブ活動における成果を披露出来るフェスティバルのようで、非常に喜ばしい事だと思います。

学校における音楽活動に、私が常々望んでいる事は、音楽を一生心の友とする事の出来る豊かな精神を持った人間が、一人でも多く育って欲しいという事です。それ故、コンクールだけのための様な、技術偏重の演奏や、いたずらに競争意識に走る事なく、どの様な場における演奏でも、その作品ひいては音楽のすばらしさ、さらには音楽という財産を共有出来る人間である事の喜び、その様なものを奏者、聴衆共々感ずる事が出来れば、どんなにすばらしいかと思えますし、又、その様な演奏を目指したいものですが、この高校総文ではオーケストラ、マンドリン、又、小編成から大編成にわたる吹奏楽がそれぞれに、それぞれの音楽を伝えてくれ、存分に楽しめる2日間でした。今回の演奏では音楽における技術とはあくまで目的でなく、表現のための手段である事を再認識し、又奏者一人一人がスタンドプレーをする事なく各々の持場を正しく認識し協力しあって、一つのものを作り上げていくというアンサンブルの喜びを改めて感ずる事が出来た様に思います。

さて、高校総文ならではの試みとして、山口県大会では、111名のフェスティバルモデルバンドを臨時に編成し、大会式やクリニック等で演奏を披露してくれました。

山口県内各地の18校から集まった生徒達が、先生方が、ほとんど自前で、しかも手弁当で練習されてきたと承っています。わずか6日間の合同練習であれ程の素晴らしいまとまりと演奏が出来たという事は、関係の先生方の並々ならぬ努力と熱意があったものと感激いたしました。指揮者というものは、自分自身の音楽を、音として具現してくれる演奏者あつての存在であるため、このバンドが私の意図を十分に表現出来る能力を備えていた事は、大変幸いでした。

こうした編成のバンドが各県で毎年の様に、理想的な形で組織され、多くの高校生が、一つの心となり一つの音楽表現に向かって意志を統一する事、これが今からの高校芸術文化の振興に大きな影響をもたらすと言っても過言ではないでしょう。

今後は高校生の作曲・編曲等の発表がもっと増える事、そして、その様な事も含めて、高校生のオリジナ



リティというものがより打ち出される事、又、全国各地の地域性を生かしたものが増えることにより、高校総文がさらに特色を持ったすばらしい催しにはばたいていく事でしょう。

もっと地域の特色を生かしたものに

兵庫教育大学教授 岡田 昌大



吹奏楽・管弦楽部門の演奏は、8月3日、4日の2日間にわたり防府市公会堂を会場に、北は北海道から南は宮崎県まで24都道府県53校の参加により大会スローガンである「友情 創造 かがやけ青春」にふさわしい若人の祭典が繰りひろげられました。

第1日目の大会式につづいて行われた山口県高等学校選抜吹奏楽モデルバンド（18校 111名の編成）による慶祝演奏は、関西フィルハーモニー常任指揮者、小松一彦氏を迎え熱のこもったステージ演奏を披露し、又、高校生によって作詞、作曲されたテーマソング「輝け青春」の合唱は若さに溢れたリズム感と親しみ易いメロディーで、それぞれこの大会の雰囲気をもり上げるのに大いに役立っていました。

又、第2日目の演奏終了後に行われた小松一彦氏による公開クリニック「音楽料理法」では音楽をまとめる場合の考え方や判断のしかた等について細かい指導が行われ大変有意義なプログラムであったと思います。

さて、2日間の演奏で最も多かったのが吹奏楽ですが、日ごろコンクールなどで演奏される曲ではなく、もっとそれぞれの地域の特色を生かした民謡やその他のオリジナリティのある編曲作品が演奏されて欲しいと思いました。

民謡を演奏したのはわずか3校でしたが、いずれも親しみのある演奏で聴衆の共感を呼んだようです。



吹奏楽・管弦楽 講評

管弦楽は3校と参加校は少なかったのですが、難しい弦楽器を何とか克服し、楽しめる段階にまで到達していたことは大変喜ばしいことであると思いました。今後の発展を期待したいと思います。

又、マンドリン、ギターの合奏は4校ありましたが、全体にメリハリの乏しい平凡な演奏になってしまったのは、単に楽器の性能に原因があるだけではないように思いました。今後は、斬新なオリジナル作品や民謡などによる特色のある編曲作品が演奏されることを希望したいと思います。

この大会で大変印象に残ったのが、宮城県から参加した唯一の盲学校生徒6名による金管とクラリネットのアンサンブルでした。

特にクラリネットの心のこもった素直な演奏は、身障者であることを全く忘れさせる程感動を伴ったものでした。

コンクールによって兎角技術偏重的傾向に陥りがちな演奏に極めて大切な示唆を与えてくれたものとして謙虚に受けとめるべきではないかと思いました。

指導に当たられる先生方には、目先の評価にばかりとらわれない音楽本来の価値観をしっかり持って余裕のある対処を希望したいと思います。

最後に、この総合文化祭が各地域の特色を生かした若人の祭典として、今後定着していくことを心から願って私の感想を終わります。



質の高さに燃やす情熱

はじめに

前年の栃木大会の視察直前から、専門部員6名により準備を始めた。山口県には高校文化連盟がないので、本部門は吹奏楽連盟と高校教育研究会音楽部会の二つの組織を母体とし、従来の演奏会運営の経験を生かすことにより、栃木大会を参考にしながら簡素の中にも感動のある山口県独自の大会となるよう企画を練った。開催年度には、専門部員7名、運営委員19名が委嘱され、役割ごとに運営の基本的立案にあたった。

準備と経過

基本的な心構えとして、遠来の高校生を温かく迎え、真心をもって世話をし、楽しく、伸び伸びと、力一杯に演奏をして、胸ふくらむ思いで帰郷できるようにと熱望して企画に当たった。

大会前日は、主管校の防府高校を中心に、教職員・生徒の役員が諸準備を行った。8月3日、4日の2日間、出演校数53校、出演者数2千余名による若人の熱気あふれる大会が開催され、出演者以外の聴衆は3千名にも及び、両日とも満席の状況であった。受付、案内、誘導、ステージ係など、舞台裏の役員生徒総数250余名の積極的な協力により、1校の辞退もなく、プログラムどおり進行した。

素晴らしい演奏

(1) 山口県が開催県であるから、県内から一人でも多く出演できるようにと、18高校、111名によるモデルバンドを編成した。数回の合同練習であったが、演奏技術の向上だけでなく、きびきびした態度づくり、望ましい友情の育成等を図った。指揮者・引率教師等多くの関係者の指導により、多くの面で予想をはるかに上回る成果があがり、慶祝演奏では聴衆に忘れ難い感銘を残し、このまま解散するのは惜しいという声が出るほどであった。

(2) 大会式を3日の終りに開き、印象深く、参加の喜びを味わえるものにしたいと苦慮した。金管五重奏でおごそかに開幕。井上実行委員会委員長(県教育長)、町田晃部会長(防府高校長)



吹奏楽・管弦楽 報告

生徒代表（防府高校生徒会長）の各あいさつ、防府市長の歓迎のことばのあと、2名の講評講師の紹介。続いて講師の一人岡田昌大先生の講評。次に本大会式のハイライトであるモデルバンドによる慶祝演奏——講師小松一彦先生の指揮で4曲。この素晴らしい演奏に、会場一杯の聴衆は酔ったように拍手を送った。次にテーマソング「輝け青春」を防府高校合唱部を加え、モデルバンドで披露。そして会場全員起立し、大合唱のうちに閉幕となった。感動の波が会場の隅々まで打ち寄せる大会式であった。

(3) 生徒主体に運営し、役員生徒が情熱を燃やして参画できるよう配慮した。生徒会の組織により多くの生徒が積極的に舞台裏の労をかって出た。苦情一つもらすこともなく、生き生きと活動してくれた。高校生の心意気を改めて感ずる大会であった。

(4) 各県代表の優れた演奏が行われるのであるから、少しでも多くの観客動員をと心掛けた。特に音楽関係の団体や市内の小・中学校に呼びかけた。街頭にも関係方面の働きかけでタレ幕をするなど、広く市民にもPRした。お陰で少ない時でも8・9割の入りがあり、大会式は立錐の余地もないほどであった。

(5) 各県からの出演者が相互の触れ合いを通して、参加と友情の^{よき}喜びを分かち合えるようにと交歓広場を大会式に続いて公会堂の中庭で開催した。市内4高校のサービス・コーナー、参加校による仮設ステージでの演奏やお国自慢の踊りなど、多彩なプログラムによる2時間で、文字通り青春のページを輝きのあるものにすることができた。

(6) 市民との交歓を願って、プロムナード・コンサートを市内5か所の街頭で、商店会が中心になって開いて頂いた。市内に宿泊の高校が演奏を披露し、温かいもてなしを受けた。

今後の課題

(1) 初めての経験のため、試行錯誤による企画運営となったが、県教委、学校、地域社会の一致団結による運営で大きな成果をあげた。この中で地域社会へのPR及び協力依頼は、もっ



と早期に、しかも具体的に行うべきであった。

(2) 吹奏楽連盟と高校教育研究会音楽部会の組織があったことが、大きなけん引力となったが、これほどの大きな文化祭を開催するには、文化連盟の組織をぜひ作る必要があると痛感した。

(3) 高校生が燃やす情熱と文化祭の質の高さに、関係者や一般聴衆は、改めて目を見張り驚嘆した。生徒が今後の音楽活動・生徒会活動はもちろん、学校生活全般において、ここで得た自信と技術を十分に生かせるよう努力しなければならない。また教師が大会の準備と運営に示した連帯感と生徒への献身的教育活動を今後いかにして継続していくかも大切なことだと思う。



8月3日(水)

9:45~16:45

開 会 式

- | | | | |
|---|--------------------|-----|--------------------------------|
| 1 | 兵庫県 須磨ノ浦女子高等学校 | 82名 | |
| | ミュージック・アベニュー | | (指) 山本 富男・鹿多 証道
田中 芳雄・松本 圭司 |
| 2 | 東京都 成徳短期大学付属高等学校 | 13名 | |
| | ウォーキーデーナイト・インザストーン | | (指) 笹山 明博 |
| 3 | 大分県 大分東明高等学校 | 14名 | |
| | Movement | | (指) 船津 弘子 |
| 4 | 兵庫県 芦屋女子高等学校 | 33名 | |
| | Right on | | (指) 横内 義雄 |
| 5 | 三重県 合同 | 90名 | |
| | 三重高等学校 | | |
| | 松阪女子高等学校 | | (指) 西山 勉・阿部 幸久 |
| | バーニング・スピリット | | |
| 6 | 埼玉県 星野女子高等学校 | 15名 | |
| | サマーフェスティバル | | (指) 片桐 建一 |
| 7 | 広島県 山陽女子高等学校 | 16名 | |
| | サンチェスの子供達 | | (指) 山岡 昭江・横山久美子 |
| 8 | 宮崎県 都城聖ドミニコ学園高等学校 | 29名 | |
| | ひびけ!リズム 夢をのせて | | (指) 村上 啓二・柳瀬 晴美 |
| 9 | 山口県 合同 | | |
| | 早鞆高等学校 | 15名 | |
| | 宇部女子高等学校 | 21名 | |
| | 三田尻女子高等学校 | 28名 | |
| | かがやけ!青春のトワーリング | | (指) 磯部 瑤子・花村 慈照
松本美枝子 |

10	大分県 別府市立別府商業高等学校 フェスタルドリル・イン・ヤマグチ	74名	(指) 安倍 孝次
11	三重県 松阪女子高等学校 12番街のラグ	29名	(指) 西山 勉
12	岐阜県 関市立関商工高等学校 ウエストサイド・ストーリー	25名	(指) 三島由美子・渡辺真知子
13	熊本県立熊本工業高等学校 ヨーロピアン・ファンタジー	44名	(指) 原 幸雄
14	山形県 竹田女子高等学校 幻想即興曲によせて	9名	(指) 兼子 郁子
15	大分県立大分女子高等学校 おお エスパニーヤ	33名	(指) 柴田 節代
16	埼玉県立川越工業高等学校 Rhythmical Movement	49名	(指) 須藤 誠
17	青森県 千葉学園高等学校 フレー・フレー	17名	(指) 清野 耕司
18	栃木県 合同 県立宇都宮商業高等学校 宇都宮女子商業高等学校 ヤングバトン'83	18名	(指) 浜野 誠・大橋 俊夫
19	山口県立岩国工業高等学校 ブルーセンセーション	60名	(指) 国嶋 洋治

閉 会 式

講評	日本マーチングバンド・バトントワーリング指導者協会常任理事	西山 勉
	日本マーチングバンド・バトントワーリング指導者協会常任理事	横山 弘子

(主管校 山口県立山口高等学校)

楽しめるマーチングを目指して

日本^{マーチングバンド・}バトントワーリング^指導者協会常任理事 西山 勉



40度近い猛暑の中で開催された第7回全国高等学校総合文化祭にマーチングバンド部門の講評者として、全国より選抜された優秀なバンドのマーチングを見せていただく機会に恵まれ、心から楽しく拝聴いたしました。と同時に大きな責任を感じました。若さあふれるサウンドと、各校独自のカラフルなユニフォームによる流動美との調和は、ムシ風呂の様な暑さを忘れさせるほどのすばらしいショーでした。近年マーチングバンドの技術の向上と内容の充実には目を見張るものがありますが、その基盤を築きあげたのが高校生のマーチングバンドです。今日の日のために苦しい練習に耐え、指導者とメンバーが一体となって完成まで努力なされたその成果が本日の演奏、演技に見受けられました。そのマーチング仲間から拍手を贈ります。

さて、今後のマーチングのより一層の発展を願いながら、あえて苦言を申しあげますと、《選曲》については、自分たちの編成とレベルに合った曲を選ぶべきです。近ごろマーチング用の楽譜が多く輸入され、自分たちの好みの曲が選べるようになりましたが、同じような感じの曲の羅列で変化に乏しく、一本調子になりがちです。また、せっかく選曲が良くても、配列(順序)に注意が払われていなくては、やはりその効果は望めませんので、選曲と、曲の順序は大切な要素です。また大編成の曲をそのまま小編成のバンドが使用するのも問題があります。少ない人数での演奏はどうしても無理をする結果、音程やリズム等のバランスを崩し、雑な演奏になりがちです。自分たちに合った選曲こそ、その学校の音楽性になり、個性になり、すばらしい演技力につながるのではないのでしょうか。

《演奏》については、全体的に音の出し過ぎが目立ちました。今回のように体育館(屋内)で行う場合は、もっと音量に注意すべきです。豊かで美しい響きのある演奏に対する配慮が欠けていたように思われます。その大きな原因は金管楽器と打楽器のセクションにありそうです。また、木管楽器が編成に加わっているのに、その美しい音色がほとんど聴きとりにくく、実に残念でした。特にマーチングの演奏では、パーカッションの演奏が良否を決定させますが、個々のパーカッション奏者がお互いのアンサンブルの大切さを認識し、技術の向上に心がけるならば、それは全体のアンサンブルにすばらしい効果をもたらすものと思います。また楽器の操作による創意工夫がなされるならば、強弱、アクセント、ダイナミクス、レガートなどの音楽的表現が、視覚に訴えることによって、より効果をあげることができるので、どんどん取り入れてゆくべきです。

《動き》については、基本動作が徹底してきたのか、大きな進歩が感じられました。しかし一人一人の演技力をよく見ますとまだかなりの差があります。そのためにマーチングの一番大

切な統一美がまだまだ未完成です。一人一人が美しい動きを発揮できる様に、日ごろの練習において注意を心がける様にするとうよいと思います。

《構成と演出》については、全体にスタイルが似ているような感じがしました。中には簡単な動きで無理なく創りあげ、すばらしい効果をあげているバンドもありましたが、今一つ学校独自のものを生かしたショーが少し欠けていたように思います。今回はフェスティバルですので、誰もが知っているような大衆向けの楽しい曲を取り入れて、もう少しだけた（これを遊びというのでしょうか）演奏、演技ができれば、観衆にもっとアピールしたことと思います。楽しめるマーチング（本当はこれが一番難しい）目ざして頑張ってください。

身体で感じて選曲を



日本マーチングバンド・バトントワーリング指導者協会常任理事 横山 弘子

山口市で開催された、第7回高等学校総合文化祭は、パークロードでのオープニング・パレードで開幕し、最高気温36度という災天下の中で、躍動する高校生の姿に山口市民は、惜しめない拍手を贈りました。

翌日は体育館において、マーチングバンド部門と、バトントワーリング部門の演技発表となり、午前の部、午後の部と引き続き2回の演技披露が企画されました。この企画は好評で、出演者も今度こそはパーフェクトな演技をと願い、午後の部は特に成果を上げました。そして、他の学校の演技を見ながら勉強ができた喜びました。又、バトントワーリング部門は、今年出場校が多くなり、全国から集まった素晴らしいバトン部の演技が、次々と情熱的に展開されました。こうして、総合文化祭を指針として、学校教育におけるバトン活動が、年々盛り上がり、芸術文化として完全に位置づけられたことは、この道のパイオニア活動を進めている私達にとっても、大変うれしく幸せなことでもあります。

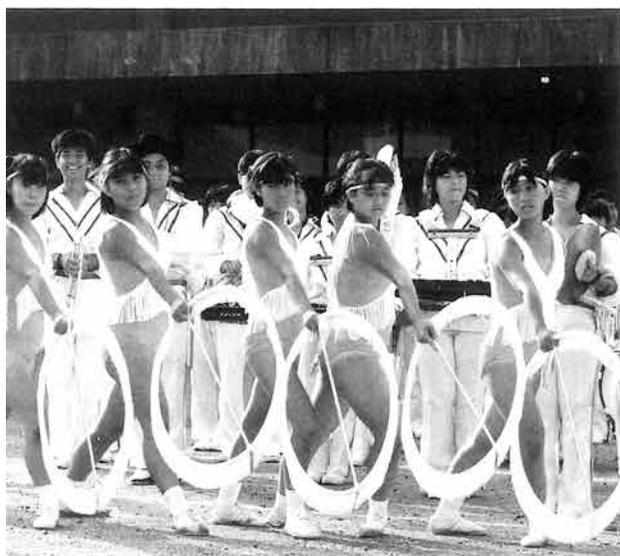
それでは、気付きました研究課題点を、演出構成面から述べてみたいと思います。まず、選曲については、踊りやすく、バトン表現のしやすい曲を選ぶことが大切です。そして、音楽を聞いただけで選ぶのではなく、身体で感じられる曲を選び、バトン操法と身体の動きが、視覚的に音楽のリズム・フレーズ・テンポに調和した構成が出来るように考えます。全般的に、クラシックからディスコまで、意欲的な音楽への挑戦が見られましたが、音楽の解釈が出来ないまま、無理に動きを当てはめて、その音楽の曲想や、リズムに合わせた動きを創り出すまでの努力が、少し足りないように思いました。

次に、ルーティン構成上必要な要素を上げてみましょう。まずバトン操法と、身体の動きのバラエティーとディフィカルティが基調となります。グループ演技の場合、エクステンジヤロールオフ等で変化をつけたり、フォーメーションのバラエティで演出効果を上げることも出

マーチングバンド・バトントワーリング講評

来ます。又、見栄えのする演技や、揃いやすい場面を創ることも必要です。個人演技の主張ではなく、もっと集団美を強調する演技を主体とした構成を考えて下さい。そして、視覚的にも聴覚的にも安定した、価値ある楽しさを最大限に達成するために、アイデアを生かした、個性豊かな演出をして、その作品の芸術性を高めることが大切です。

実施面においては、バトンを落とさないことを第一に考えて、技術の熟練に力を入れて下さい。個人演技の确实性は集団美を出し、パーフェクトな演技にも結びつきます。基本練習を大切にして、中途半端な演技のまま押し進めるのではなく、自分の演技に自信が持てるまで、トレーニングを重ねることが必要です。今後の成果に大きな期待をして、講評いたします。



華麗な「山口」の人文字

はじめに

秋田大会、栃木大会の視察復命事項を元にして、マーチングバンド・バトントワーリング部会の第1回の専門部会会議を昭和57年6月29日に開いた。石川大会のVTRを見ながら、基本方針として次の独自のものを決めた。

- (1) バトンの出演は山口県合同チームとし、バトンを技術的に指導する体制を作り、他県のレベルにひけをとらぬようにする。
- (2) 会場となる県体育館が設備として不備な面が多いが、山口の人の真心でそれを補う。
- (3) 夏の暑さ、観客の動員のことを考慮し、出演は午前と午後の2回演技とする。

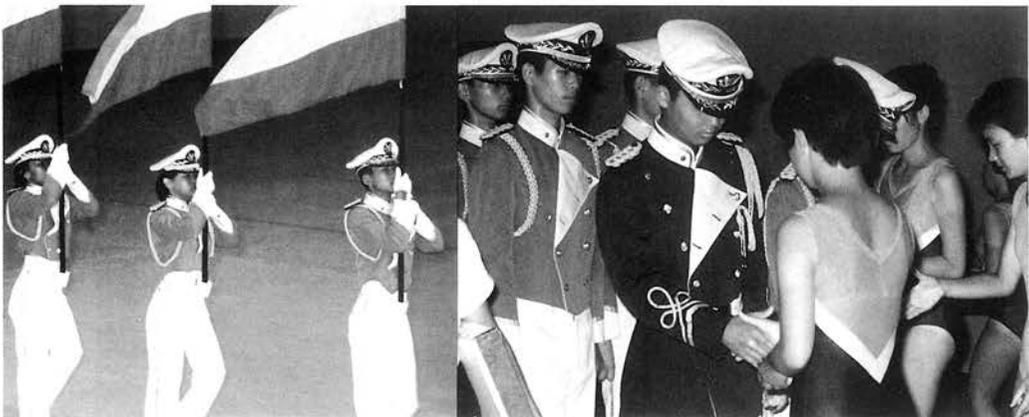
準備と経過

上記のほかにいわゆる選手強化ということではなく、バトン技術をある程度の水準に引き上げるために、県下各高校に呼びかけを行い、第1回実技講習会を7月18日、早鞆高校で行った。参加者90名。この時の写真がそれからの高校総文へ向けての広報写真として役立った。その後各校での強化練習はもちろんのこと、県合同チームとしての練習会を5回、合同合宿を2回実施。マーチングについては1回の講習会のみであった。58年6月19日には、県高校芸術文化祭音楽部門へ初めて参加し、7月25日には県体育館で最後の仕上げ練習を行った。

小澤友太郎部会長（三田尻女子高校長）が入院のため、急きょ、松原弘副部会長（山口高校教頭）が部会長代行となった。主管校である山口高校内の役員組織作りも終え、幾多の校内行事の合い間をぬって準備が行われた。その大半をパレード係と兼任していたので、頭では理解できたものの体がひとつであるため、本番、リハーサル、パレードと走り回る3日間であった。

ダイナミックで流麗な演技

8月3日午前9時45分、高らかに響く岩国工業高校マーチングバンドのファンファーレと共に部会は開幕となった。徳丸泰弘実行委員会副委員長（県教育委員会教育次長）の歓迎のあい



マーチングバンド・バトントワリング 報告

さつに続き、部会長代行の激励のことばによりいよいよ午前の部の演技の開始となった。参加13県からの精鋭25校が19グループを構成し、午前・午後各1回の出演である。昨日のパレードに続き好天となり、山口測候所の最高記録 36.3 度の気温で県体育館の中はサウナ風呂同然の蒸し暑さであったが、フロア一杯に広がるダイナミックなマーチング、流麗なバトン演技は立見も出るほどの観客をしばし青春のエネルギーの虜とした。

山口県の出場校も県立岩国工業高校の整然としたすばらしいマーチングはもちろんのこと、練習不足を心配されていた早鞆高校、宇部女子高、三田尻女子高の合同チームによるバトントワラー達も華麗な演技を操り広げ、最後を「山口」の人文字で見事に締めくり、観衆を魅了した。なお、この合同バトンチームの伴奏には県立下関西高と県立山口高との吹奏楽部が賛助出演をした。

予定どおり午後4時45分出演者全員が整列する中で閉会式を行った。日本マーチングバンド・バトントワリング指導者協会常任理事の西山勉先生、横山弘子先生から懇切な指導講評があり、ついで部会長代行からすばらしい演技に対するお礼のあいさつ、出場校のそれぞれに記念楯の贈呈があり閉式となった。この後、しばし別れを惜しむ全国からの出場生徒の一人一人に、山口県のバトントワラー達^{たち}が心を込めて作った、小さいけれど大きな友情のこもった夏蜜柑^{みかん}のマスコットを山口県チームの生徒が手渡し再会を約していた。猛暑の中の苦しい演技であったので、無事終了の満足感、充実感もひととき大きなものがあるのであろう。ここかしこで指導の先生と生徒達が抱き合って感涙にむせぶ姿も見られた。

今後の課題

更衣室、控室などは体育館に設備がないため隣接の県立山口中央高校を借用し、交歓のための休憩広場を用意した。しかしながら、会場から離れているため利用者が無く午後は閉鎖した。救護室も会場から遠く不便であった。むし風呂の中の演技のため、演技終了直後安堵感から倒れる者が続出した。



マーチングバンド・バトントワーリング 報告

振り返ってみれば、県内の出演参加については、私学の高校が最も活躍した場である。その火を絶やさぬよう学校、行政機関あげて努力していきたいものである。

しかしながら、延べ3,400人を超える観客を迎え、若人の躍動美を思う存分繰り広げることができたことは、全国各地からの参加校生徒を初めとして県内関係高校教職員・役員生徒の寝食を忘れての準備に加え、関係機関や一般県民の協力の賜物であった。



8月4日(木)

9:00~17:25

開 会 式

- | | | |
|----------------------|-----|--------------------|
| 1. 山口県 中村女子高等学校 | 7名 | |
| 花りんどう | | 菊城 正明作曲 |
| 2. 埼玉県 星野女子高等学校 | 16名 | |
| 梵 | | 大月 宗明作曲 |
| 3. 愛知県 守山女子商業高等学校 | 12名 | |
| 箏十七絃五重奏曲 | | 森岡 章作曲 |
| 4. 埼玉県立上尾高等学校 | 8名 | |
| インドの踊り | | 大島千代子作詞
吾孫子松鳳作曲 |
| 5. 熊本県 九州女学院高等学校 | 18名 | |
| つむぎ唄 | | 森岡 章作曲 |
| 6. 東京都 順心女子学園高等学校 | 10名 | |
| 秋篠寺 | | 堀内 端善作詞
田中 博之作曲 |
| 7. 千葉県立茂原高等学校 | 21名 | |
| 梢 | | 松本 雅夫作曲 |
| 8. 東京都 藤村女子高等学校 | 12名 | |
| 秋芳洞 | | 松本ゆき子作曲
阿部 光佑編曲 |
| 9. 大分県立佐伯豊南高等学校 | 18名 | |
| あこがれ | | 沢井 忠夫作曲 |
| 10. 兵庫県立淡路農業高等学校一宮分校 | 20名 | |
| 四方の海 | | 中島雅楽之都作曲 |
| 11. 山口県立柳井高等学校 | 10名 | |
| 花に寄せて | | 楯城 護作曲 |
| 12. 兵庫県立尼崎北高等学校 | 13名 | |
| 手事によせる幻想曲 | | 菊城 正明作曲 |

13 石川県 合同

石川県立金沢女子高等学校

石川県立金沢桜丘高等学校

石川県立金沢女子短期大学高等学校

石川県立小松市立女子高等学校

石川県立北陸大谷高等学校

石川県立工業高等学校

石川県立尾山台高等学校 17名

わらべ唄

唯是 震一作曲

14 沖縄県立八重山高等学校 21名

ゆんた構成 家造り

15 山口県 合同

山口県立久賀高等学校

山口県立徳山高等学校

山口県立山口中央高等学校

山口県立萩高等学校

下関女子短期大学付属高等学校 28名

六段の調

八橋 検校作曲

16 静岡県立三島北高等学校 37名

ひぐらし

中能島欣一作曲

17 東京都 お茶の水女子大学附属高等学校 8名

秋の七草

文部省音楽取調掛

18 愛媛県立三瓶高等学校 10名

花の舞曲

島津 成悠作曲

19 大分県立大分女子高等学校 13名

つむぎ唄

森岡 章作曲

20 東京都 和洋女子大学附属九段女子高等学校 5名

小鳥の歌

宮城 道雄作曲

21	東京都立城南高等学校	15名	
	組曲「叱られて、浜辺の歌、母」		三輪 十次編曲
22	新潟県立新潟中央高等学校	23名	
	わらべ唄		唯是 震一作曲
23	兵庫県立御影高等学校	5名	
	四季の日本古謡		森岡 章作曲
24	栃木県立矢板東高等学校	10名	
	千鳥の曲		吉沢 検校作曲
25	神戸市立赤塚山高等学校	11名	
	野路の海		中能島欣一作曲
26	東京都 瀧野川女子学園高等学校	6名	
	春の光		久本 玄智作曲
27	愛知県立安城農林高等学校	8名	
	三河御殿万歳		
28	鳥取県立米子西高等学校	27名	
	二つの幻想		山本 邦山作曲
29	東京都 日本橋女学館高等学校	4名	
	六段の調		八橋 検校作曲
30	大分県 明星高等学校	18名	
	田園詩曲		森岡 章作曲
31	京都府 光華高等学校	17名	
	樹の園		松本 雅夫作曲
32	埼玉県 大宮開成高等学校	15名	
	タイコ		筑紫歌都子作曲
33	神奈川県 鶴見女子高等学校	14名	
	新高砂		寺島 花野作曲
34	山口県立萩高等学校	9名	
	花と少女		野村 正峰作曲

- | | | | | |
|----|----------------|-----|-------|----|
| 35 | 山口県 山口県桜ヶ丘高等学校 | 8名 | | |
| | 京人形の夢 | | 菊城 正明 | 作曲 |
| 36 | 山口県 柳井学園高等学校 | 6名 | | |
| | 野花とともに | | 森岡 章 | 作曲 |
| 37 | 山口県立徳山高等学校 | 10名 | | |
| | 夜の円舞曲 | | 坂本 勉 | 作曲 |

閉会行事

模範演奏

「若人の歎び」 星出 潮山 作曲

講評 重要無形文化財尺八保持者(人間国宝)・日本三曲協会常任理事 島原 帆山

(主管校 中村女子高等学校)

古典物の選曲を



重要無形文化財尺八保持者(人間国宝) 島原 帆山
日本三曲協会常任理事

邦楽は幾多の歴史の試練を経て変遷してきておりますが、中でも特に古典と呼ぶにふさわしい邦楽を正しく学ばれ、豊かな情操を身につけ、更にもその上に立って現代に適した演奏形態を研究し、独立した鑑賞音楽として確立すること、これは若い方々の継承なくしては考えられないことでもあります。そういう観点からもこの総合文化祭の大きな役割を思うのであります。

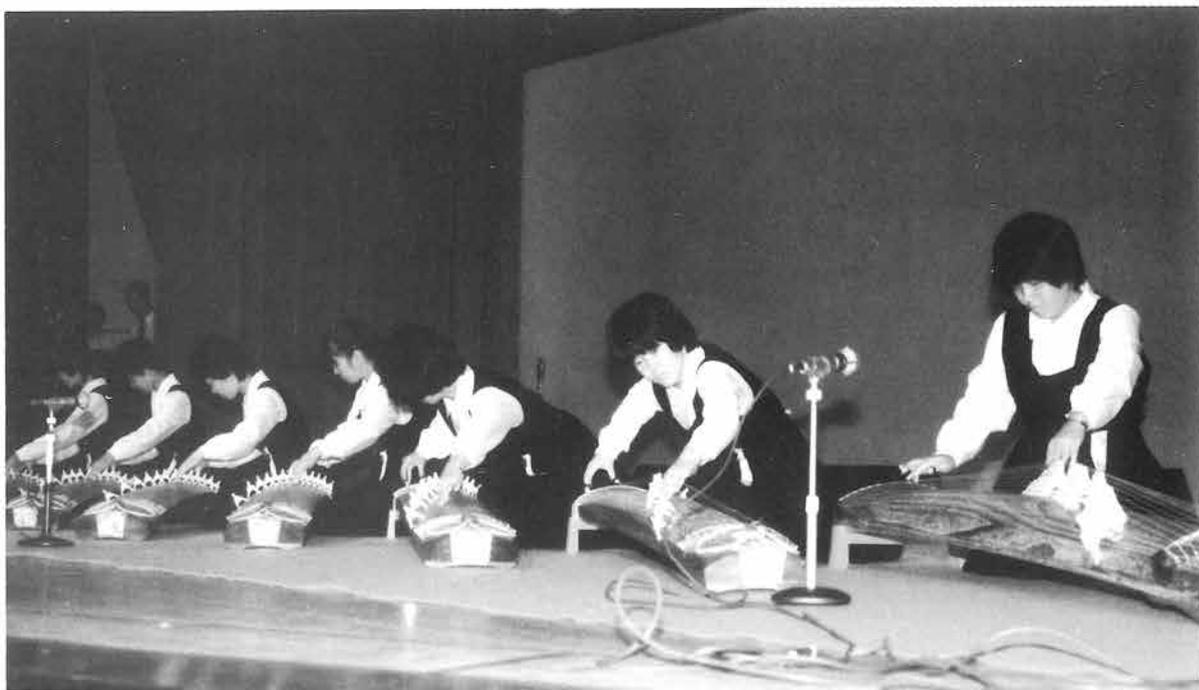
ステージを拝聴するにあたり驚きと喜びの連続でありました。

まず参加者(参加校)の多いこと。次に生徒の皆さんの演奏は真剣でエネルギーでまことに短期間の修練では得られないような立派な演奏が沢山あったこと。又客席にて演奏を聞く生徒諸君の態度にも感心させられました。

ただ選曲についていいますと現代曲が多く古典物を演奏される学校の少ないのが少しばかり気がかりでありました。古典と現代曲とは磁石の両極のようなものと日ごろより思っておりますので、若い弾力のある時にこそ、バランスのとれた音楽を勉強していただければと思うのであります。

又この若い芽を^{ほこ}育み情熱をかたむけてこられた指導者の先生方の御努力に心から敬意を払うものであります。7回目の文化祭と申しまして受皿となられた山口県の先生方、関係者の方々にとりましては初めての事であり御苦勞察し申し上げます。近代的なホール、すばらしい準備進行と、御当地の方々の御尽力の賜物でございます。

私共この高校総合文化祭に無限の夢と希望を感じる思いであります。



箏曲組歌発祥之地で

はじめに

山口市には「箏曲組歌発祥之地」の碑があり、萩市には「八橋検校の碑」がある。由来、山口県は箏曲と深いえにしを有する。この総合文化祭引き受けの話聞いた時、県内の邦楽関係者の胸は弾んだ。

準備と経過

57年6月、邦楽専門部会が発足し、主管校に中村女子高等学校、部会長として同校校長津田正人氏が就任した。栃木大会の視察も終え、それぞれの業務を分析し、分担を定めた。

その年の11月には、中村女子高等学校講堂で、第4回県高等学校芸術文化祭の邦楽部門発表を行った。邦楽部門は第2回目であった。全国大会のリハーサルを兼ねて、8校、98人の生徒が参加して開催された。この日、合同演奏『六段の調べ』の初練習も行った。

58年、全国大会を控えた6月19日に、生徒役員をはじめ、すべて全国大会に準じ、新装成った県教育会館で、第5回県高等学校芸術文化祭（邦楽・吟詠部門）を行った。

流派も違い、指導者も異なる4校による合同練習は、少ない機会を有効に生かして能率よく行われた。しかし、それぞれ曲想の解釈や奏法が必ずしも同一でなく、どこで統一するかが大きな問題であった。こうしたことを、生徒に考えさせることも、広い視野で箏曲を考えさせることであり、そこにも教育の一つの場があったように思う。かくて7月31日には、徳山高等学校で終日『六段の調べ』の、本番へむけての最後の合同練習が行われたのである。

伝統美の調べ

教育会館は新しい会場ではあるが、全国大会にとっては不備ではないか、という関係者の苦慮は雲散霧消、天の恵みと参会者の協力、主管校である中村女子高等学校の教職員、生徒役員の一糸乱れない献身的な活躍によって、すべてが順調に展開した。琴の運搬・舞台設営等を、原則として出演者自らが行うようにしたのも、教育的見地に立ってであり、事前に出演校へお願いしてあっただけに、各学校ともよく指導されていて全くトラブルはなかった。



邦楽 報告

180面の琴と7面の十七絃の調達も、県下の各学校及び地元箏曲関係者の協力によって揃えられた。調絃は参加校において最終チェックをしていただくことにしたが、地元箏曲関係者8人にお手伝いを願った。出演生徒のきびきびとした行動とともに、人目につかぬ多くの裏方の筆舌に尽せぬ御苦勞のおかげで、プログラムに予定した時刻よりもスムーズに進行していった。

こうした熱意が、講師の島原帆山先生を動かしたのか、人間国宝の先生が『岩清水』を演奏してくださり、そのすばらしい竹韻はまさに錦上花を添えることになった。

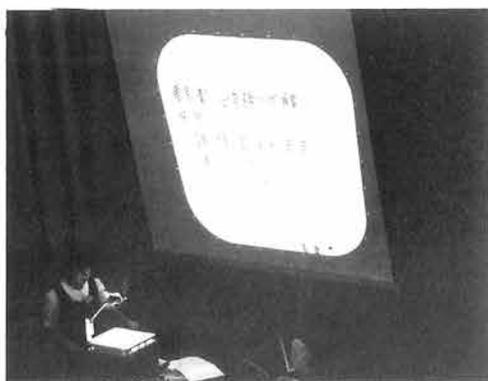
今後の課題

一般的に華やかな他のクラブ活動に比して、邦楽クラブは地味で、現代という、若者の時代の流れから離れた存在と思われるのは、山口県だけであろうか。かねてから県高等学校文化連盟の結成が求められているにもかかわらず、そして今回全国大会を引き受けながらも、遂に実現には至らなかった。全国高等学校箏曲連盟への加盟も、困難な学校もあると聞く。

日本の伝統を重んずる、豊かな情操を持つ青少年を育てる場を提供するための組織作りも、生徒が情熱をそそぎ得る舞台を用意することも、教育の中で忘れてはならない重大事である。本大会が、単なるフェスティバルで終るのであれば、あまりにも虚しい。お互いがもっとより高い次元のものを求めることのできる、そして生徒がさらに参加意欲を湧かすことのできる大会となすべく、ここらあたりでその在り方を考え直すことも、今一つの課題であろう。

高等学校邦楽クラブの主流が、旧制高等女学校以来の箏曲であることは否定できない。しかし本県では広義の邦楽の立場から本大会を運営した。郷土芸能部門に包含されると考えられる沖縄県の「ゆんた構成」、愛知県の「三河御殿万歳」は、35曲に及ぶ箏曲の舞台の中にあつて、山口県の合同演奏におけるスライドの映写と共に、適当な変化を与えてくれた。吟詠剣詩部門の盛會を喜ぶと同時に、今後ますますわが国邦楽界が発展することを願ってやまない。





8月2日(火)

9:30~15:00

開 会 式

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 山口県立萩工業高等学校
山行同志に示す | 草場 佩川 (合 吟) |
| 2 栃木県立宇都宮高等学校
京都東山 | 徳富 蘇峰 (独 吟) |
| 3 石川県立津幡高等学校
絶命の詞 | 黒沢忠三郎 (剣 舞) |
| 4 千葉県 八日市場敬愛高等学校
敬天愛人 | 長戸路政司 (合 吟) |
| 5 栃木県立芳賀高等学校
中 庸 | 元田 東野 (独 吟) |
| 6 千葉県立東金商業高等学校
弘道館に梅花を賞す | 徳川 景山 (合 吟) |
| 7 石川県立羽咋工業高等学校
ふるさと 加賀 能登
石川県立水産高等学校
石川県立松任農業高等学校 | 石川県立津幡高校
本野 達郎 (構成吟) |
| 8 東京都 大東文化大学第一高等学校
海に泛ぶ | 王 守仁 (独 吟) |
| 9 千葉県 八日市場敬愛高等学校
夜墨水を下る | 服部 南郭 (合 吟) |
| 10 千葉県立東金商業高等学校
剣 道 吟 | 徳富 蘇峰
(独吟・剣道形) |
| 11 島根県 松江日本大学高等学校
勸 学 | 朱 熹 (合 吟) |
| 12 石川県立羽咋工業高等学校
静 夜 思 | 李 白 (独 吟) |
| 13 千葉県 八日市場敬愛高等学校
富 士 山 | 石川 丈山 (合 吟) |
| 14 千葉県立東金商業高等学校
勸 学 | 陶 淵明 (合 吟) |
| 15 石川県立水産高等学校
桑乾を渡る | 賈 嶋 (合 吟) |
| 16 千葉県 八日市場敬愛高等学校
弘道館に梅花を賞す | 徳川 景山 (独 吟) |
| 17 千葉県立東金商業高等学校
九月十日 | 菅原 道真 (合 吟) |
| 18 石川県立松任高等学校
川 中 島 | 頼 山陽 (剣 舞) |
| 19 栃木県高校文化連盟吟詠剣詩舞部会
四季のいりどり | 栃木県高校文化連盟
吟詠剣詩舞部会
(構成吟・舞) |
| 栃木県立芳賀高等学校 | 栃木県立烏山女子高等学校 |
| 栃木県立壘学校 | 栃木県立宇都宮高等学校 |
| 栃木県立茂木高等学校 | 栃木県 宇都宮女子商業高等学校 |

休 憩・昼 食

- 20 大分県高等学校吟詠連盟
 広瀬淡窓 (構成吟)
 大分県立大分工業高等学校 大分県立大分女子高等学校
 大分県立三重高等学校 大分県立上野丘高等学校
 大分県立別府鶴見丘高等学校 大分県立山香農業高等学校
 大分県立雄城台高等学校 大分県 岩田高等学校
- 21 神奈川県 横浜商科大学高等学校
 丘陽楼に登る 杜 甫 (合 吟)
- 22 石川県立金沢商業高等学校
 九月十三夜陣中の作 上杉 謙信 (剣 舞)
- 23 山口県立下松高等学校
 金州城下の作 乃木 希典 (合 吟)
- 24 愛知県 豊川高等学校
 やまと心の歌 入倉 昭星 (構成吟)
- 25 石川県 星陵高等学校
 城 山 西 道遷 (剣 舞)
- 26 神奈川県 横浜商科大学高等学校
 山中の月 真 山民 (合 吟)
- 27 石川県立松任農業高等学校
 九月十三夜陣中の作 上杉 謙信 (独 吟)
- 28 愛知県立佐屋高等学校
 白虎隊 佐原 盛純 (構成吟)
- 29 栃木県 宇都宮女子商業高等学校
 勸 学 陶 淵 明 (合 吟)
- 30 新潟県立新津高等学校
 荒城月夜の曲を聞く 水野 豊洲 (構成吟)
- 31 東京都 大東文化大学第一高等学校
 和歌・身はたとひ 吉田 松陰 (独 吟)
- 32 島根県 松江日本大学高等学校
 題 壁 釈 月性 (合 吟)
- 33 栃木県立叢学校
 日本刀を詠ず 徳川 光圀 (剣 舞)
- 34 山口県 聖光高等学校
 原爆記念日感有り 聖光高等学校 (構成吟)
- 35 山口県立萩工業高等学校
 吉田松陰 徳富 蘇峰 (合 吟)
- 36 石川県立金沢錦丘高等学校
 西南の役陣中の作 佐々 友房 (剣 舞)
- 37 栃木県立足利短期大学附属高等学校
 胡隱君を尋ぬ 高 啓 (独 吟)
- 38 山口県立下関工業高等学校
 高杉晋作と下関 下関工業高校 (構成吟)
- 39 出場者全員大合吟
 将に東遊せんとして壁に題す 釈 月性 (合 吟)

講 評

日本吟詠剣詩舞振興会常任理事

黒 川 哲 泉

閉会行事

(主管校 中村女子高等学校)

自己の陶冶を志向する

日本吟詠剣詩舞振興会常任理事 黒川 哲 泉



第7回全国高等学校総合文化祭は、われわれの先達が遺^{のこ}してくれた日本特有の芸術を若者達が新しい創造のもとに友愛の輪を広げ、全高校生が一丸となってこの芸術文化を高め、更に斯道の発展をめざして精進された、その成果を発表する場であり、これがすばらしい祭典であったことに対し、敬意と祝意を表するものでございます。

私は財団法人日本吟詠剣詩舞振興会を代表して参加させていただいた関係で、山口県教育会館で開催の吟詠・剣詩舞の盛会を終日見聞し特に感心させられたことは、372名の出演者に欠員がなかったこと、しかも整然として飾りけのない演技、気魄のこもった吟調、無我の境地に立って真剣そのものの姿は、生徒でなければできない生徒らしさを發揮しており、さらに、ナレーター、陰の声、舞台の準備その他すべてを生徒でやられたことが心に深く印象づけられました。

また舞台には直接関係なく、会の引立役として大会の準備、来客の接待その他雑用一切のお世話をされた中村女子高校の先生と生徒の皆さん、校長先生のよきご指導のあらわれでございましょうが、本当に行き届いた行動は人の心を打つものでございます。

事をなすにあたり目に見えない陰の力がいかに大切であるかを本大会で改めて知ることができました。この大会が大成功裏に終始したのは、黙々として縁の下の力持ちをつとめて下さった裏方のご協力の賜物であると同時に、演者と世話役が和合一体となって進行されたことに大きな意義がありまして、本大会を私なりに採点するならば、魂をゆさぶるような迫力のある演技、練習度、一般生徒の協力度等含めて、100点満点として99点を上げたいと思います。

さて、現今の世相は混とんとして、ややもすると非行に走る少年も少なくなく、日本の将来はどうなるのであろうかと国を憂える一人ですが、今回、全国高校総文に出席し、素直で勇猛心に燃える少年・少女の姿を目のあたりにして意を強くした次第でございます。

吟詠剣詩舞は礼節を基本とするわが国独自の高雅な芸道であり、詩歌を吟じ又舞うことによって情操を高め、自己の陶冶を志向すると共に、人間の魂に栄養を与え精神文化の高揚にも大きな役割りを果たすものです。この意味からしても全国高校総文が年次行事としてとり行われ、さらに輪を広げ、年々歳々発展してゆくことが明るい社会をつくり、世界の平和をもたらす礎となるのではないのでしょうか。日本の次代を背負って立つ生徒諸君に大きな期待を寄せると共に皆さんのたゆまぬ御研鑽^{ごけんざん}を切望します。

吟詠道を通し人間を

はじめに

開催県となれば、先ず地元の盛り上がりが必要であるが、当初県内高校の吟詠活動状況は全く不明で、これの把握が急務であった。早速調査の結果、部活1校、正課クラブ数校で、クラブはあっても活動のない学校もあり、非常に低調であった。

準備と経過

57年2月、第4回県高校芸術文化祭に邦楽・吟詠部門が新設され、開催された。当日の参加は僅かに4校19名であったが、これを足がかりに活動をはじめ、第2回発表会は4校64名、58年6月の第3回発表会は、高校総文のリハーサルも兼ねて5校48名が参加した。発表力もかなり上達して、高校総文に出場できるめどが立った。県外については、各県教育委員会に推薦を依頼し、多数の参加をお願いしたが、申込締切日が近づいても意外に参加校が少なく、急きょ電話で出場をお願いした。例年出場の学校の中には、参加する予定であったが旅費のめどが立たないところもあったが、無理をお願いして31校の参加を得た。

準備のための会合も、56年度3回、57年度は県内文化祭の準備も含めて10回、58年になって7回、その外秋田・栃木大会を視察して準備をすすめてきたが、特に今年6月以降は、プログラム編成・実施要項・詩文集・運営要項・演出台本等の作成で多忙を極めた。7月27日最終打ち合わせ会では、再度各役割を点検確認し万全を期した。8月1日の顧問会議では「質素であるが実のある大会」の運営に協力を求め、理解を得た。

礼儀正しく、吟と舞

8月2日、開会の9時半には、県教育会館の大ホールもほぼ満席となり、開会式は徳丸教育次長の開会挨拶に続き、津田部会長から「吟詠詩文にもゆかりの深いここ維新の町山口で、友情創造かがやけ青春、のスローガンのもとに、平素の練習の成果を力一杯発表してください」と激励のことばがあり、続いて生徒代表が歓迎のことばを述べた。最後に講評講師・黒川哲泉先生を紹介して簡素であるが引き締まった開会式を終了した。

9時55分開演。独吟、合吟、剣舞、詩舞、構成吟など、見応えのあるすばらしい発表が続い



吟詠剣詩舞 報告

た。高校生ばなれの吟を発表した栃木県、見事な剣舞を披露した石川県、さすがと思わせた大分の構成吟、中でも、生来音を持たない栃木県立聾学校生徒3名による剣舞は、指導の先生の手話の指先と、吟の口型に合わせて舞ったすばらしい演技で、師弟一体となった真剣な発表は、見る人に強い感動を与えた。

発表はいずれも高校生らしくはつつつとしており、内容も発表力も一段と向上しているように見受けた。服装も端正で、ステージでの態度も礼儀正しく好感が持てた。山口県も、合吟3題、構成吟2題を発表したが、中でも聖光高校発表の構成吟「原爆記念日感有り」は、広島原爆記念日直前の、しかも核廃絶運動の高まりの中での発表でもあり、原爆の恐ろしさと悲しさを率直に訴えて、反響を呼んだ。その外、合吟「吉田松陰」「高杉晋作と下関」などを発表し、改めて山口県が明治維新の発祥の地であることを印象づけた。最後に会場内全員で、積月性作「将に東遊せんとして壁に題す」を大合吟し、4時間余の発表を滞りなく終了した。

今後の課題

今大会の参加は、地元を含めて1都9県35校延 372名であった。吟詠部門は歴史が浅く、活動が十分でないこともあるが、せめて1県1校以上の参加があれば一層充実した発表会になろう。県内についても、吟詠に興味を持つ教師が細々と指導しているのが現状であり、発表会に参加するにも旅費が無い状態である。これでは大きな飛躍は望めない。まず多くの教師に吟剣詩舞を理解していただき、吟詠愛好の高校生をふやすこと、それには県内各地にある吟詠教室に協力をお願いすることも必要であろう。県内発表会への参加にも、できるだけ便宜をはかってもらいたい。

また組織も考えねばなるまい。過去高校総文を開催した大分、石川、栃木の各県では、高文連や高吟連が組織されており、今年も多数の参加があったこともうなずけよう。山口大会は成功裏に終わったが、これを機会に吟剣詩舞の良さを広く認識していただき、吟詠道を通じた人間教育を少しでも前進させたいものである。





県名	学 校 名	県名	学 校 名
1 北海道	北海道札幌白石高等学校	46 石 川	石川県立七尾商業高等学校
2 〃	北海道帯広柏葉高等学校	47 〃	石川県立鶴来高等学校
3 〃	北海道函館中部高等学校	48 福 井	福井県立大野高等学校
4 青 森	青森県立青森東高等学校	49 〃	福井県立武生工業高等学校
5 〃	青森県立青森高等学校	50 山 梨	山梨県立甲府第一高等学校
6 〃	青森県立弘前南高等学校	51 〃	山梨県立都留高等学校
7 岩 手	岩手県立盛岡第二高等学校	52 〃	山梨県立富士河口湖高等学校
8 〃	岩手県立盛岡第四高等学校	53 長 野	長野県上田高等学校
9 〃	岩手県立大船渡高等学校	54 岐 阜	岐阜県立多治見工業高等学校
10 〃	岩手県立紫波高等学校	55 〃	岐阜県立岩村高等学校
11 〃	岩手県立大東高等学校	56 〃	岐阜県立大垣北高等学校
12 宮 城	宮城県第二女子高等学校	57 〃	岐阜県立益田高等学校
13 〃	宮城県立仙台南高等学校	58 〃	岐阜県立岐阜北高等学校
14 秋 田	秋田県立大館桂高等学校	59 〃	岐阜県立羽島高等学校
15 〃	秋田県立秋田南高等学校	60 〃	富田女子高等学校
16 〃	秋田県立能代工業高等学校	61 静 岡	静岡県立新居高等学校
17 山 形	山形県立谷地高等学校	62 〃	静岡県立磐田南高等学校
18 〃	山形県立山形東高等学校	63 〃	静岡県立藤枝東高等学校
19 〃	山形県立米沢工業高等学校	64 三 重	三重県立松阪高等学校
20 〃	山形県立鶴岡北高等学校	65 〃	三重県立神戸高等学校
21 福 島	福島県立福島北高等学校	66 〃	海 星 高 等 学 校
22 〃	福島県立福島高等学校	67 滋 賀	滋賀県立彦根東高等学校
23 茨 城	茨城県立東海高等学校	68 〃	滋賀県立八幡商業高等学校
24 〃	茨城キリスト教学園高等学校	69 〃	滋賀県立草津高等学校
25 栃 木	栃木県立宇都宮東高等学校	70 京 都	京都府立亀岡高等学校
26 〃	栃木県立宇都宮中央女子高等学校	71 〃	京都府立嵯峨野高等学校
27 〃	栃木県立宇都宮女子高等学校	72 〃	京都府立洛水高等学校
28 〃	栃木県立真岡高等学校	73 大 阪	大阪府立枚方高等学校
29 〃	栃木県立宇都宮商業高等学校	74 〃	大阪府立南寝屋川高等学校
30 群 馬	群馬県立館林女子高等学校	75 〃	大阪府立守口北高等学校
31 〃	群馬県立富岡東高等学校	76 〃	大阪信愛女学院高等学校
32 埼 玉	埼玉県立熊谷高等学校	77 〃	大阪市立都島工業高等学校
33 〃	埼玉県立寄居高等学校	78 〃	大 阪 市 立 高 等 学 校
34 〃	埼玉県立行田女子高等学校	79 兵 庫	兵庫県立社高等学校
35 東 京	東京都立府中東高等学校	80 〃	兵庫県立西宮北高等学校
36 〃	東京都立東大和高等学校	81 〃	神戸海星女子学院高等学校
37 神奈川	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	82 〃	神戸市立葺合高等学校
38 〃	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	83 〃	神戸市立赤塚山高等学校
39 新 潟	新潟県立新津南高等学校	84 〃	神戸市立須磨高等学校
40 〃	新潟県立糸魚川高等学校	85 奈 良	奈良県立北大和高等学校
41 〃	新潟県立佐渡高等学校	86 〃	奈良県立香茂高等学校
42 〃	新潟県立新潟南高等学校	87 〃	奈良県立生駒高等学校
43 富 山	富山県立小杉高等学校	88 〃	奈良県立大淀高等学校
44 〃	富山県立富山西高等学校	89 〃	奈良県立吉野高等学校
45 石 川	石川県立大聖寺高等学校		

県名	学 校 名	県名	学 校 名
90	和歌山 和歌山県立和歌山北高等学校	130	長崎 長崎県立猶興館高等学校
91	〃 和歌山県立和歌山高等学校	131	〃 長崎 長崎日本大学高等学校
92	〃 和歌山県立星林高等学校	132	〃 協立 高等学校
93	〃 和歌山市立和歌山商業高等学校	133	熊本 熊本県立第二高等学校
94	鳥取 鳥取県立鳥取農業高等学校	134	〃 熊本 熊本県立熊本高等学校
95	島根 島根県立松江北高等学校	135	〃 熊本 熊本県立済々黌高等学校
96	〃 島根県立大社高等学校	136	大分 大分県立大分工業高等学校
97	〃 島根県立津和野高等学校	137	〃 大分 大分県立大分舞鶴高等学校
98	〃 島根県立松江南高等学校	138	宮崎 宮崎県立妻高等学校
99	〃 島根県立大田高等学校	139	〃 宮崎 中央高等学校
100	〃 島根県立益田高等学校	140	鹿児島 鹿児島県立甲南高等学校
101	岡山 岡山県立総社高等学校	141	〃 鹿児島 鹿児島県立垂水高等学校
102	〃 岡山県立玉島高等学校	142	〃 鹿児島 鹿児島県立川内商工高等学校
103	〃 岡山県立高松農業高等学校	143	沖縄 沖縄県立沖縄工業高等学校
104	広島 広島県立安芸高等学校	144	〃 沖縄 沖縄県立首里高等学校
105	〃 広島県立広島井口高等学校	145	〃 興南 高等学校
106	〃 広島県立油木高等学校	146	山口 山口県立久賀高等学校
107	〃 広島県立三原高等学校	147	〃 山口 山口県立岩国高等学校
108	〃 広島県立大竹高等学校	148	〃 山口 山口県立岩陽高等学校
109	〃 福山市立福山高等学校	149	〃 山口 山口県立柳井高等学校
110	徳島 徳島県立池田高等学校	150	〃 山口 山口県立柳井工業高等学校
111	〃 徳島県立小松島高等学校	151	〃 山口 山口県立熊毛南高等学校
112	〃 徳島県立徳島商業高等学校	152	〃 山口 山口県立徳山高等学校
113	香川 香川県立高松工芸高等学校	153	〃 山口 山口県立防府高等学校
114	〃 香川県立丸亀高等学校	154	〃 山口 山口県立防府西高等学校
115	〃 香川県立琴平高等学校	155	〃 山口 山口県立山口高等学校
116	愛媛 愛媛県立今治北高等学校	156	〃 山口 山口県立山口中央高等学校
117	〃 愛媛県立宇和島南高等学校	157	〃 山口 山口県立宇部中央高等学校
118	〃 愛媛県立東温高等学校	158	〃 山口 山口県立宇部工業高等学校
119	福岡 福岡県立小倉西高等学校	159	〃 山口 山口県立豊浦高等学校
120	〃 福岡県立久留米高等学校	160	〃 山口 山口県立下関西高等学校
121	〃 福岡県立春日高等学校	161	〃 山口 山口県立下関南高等学校
122	〃 福岡県立明善高等学校	162	〃 山口 山口県立大津高等学校
123	〃 福岡県立光陵高等学校	163	〃 山口 山口県立萩高等学校
124	佐賀 佐賀県立佐賀西高等学校	164	〃 下関市立下関商業高等学校
125	〃 佐賀県立武雄高等学校	165	〃 三田尻女子高等学校
126	〃 佐賀県立鹿島高等学校	166	〃 多々良学園高等学校
127	〃 佐賀県立鳥栖工業高等学校	167	〃 野田学園高等学校
128	長崎 長崎県立長崎東高等学校	168	〃 宇部女子高等学校
129	〃 長崎県立長崎西高等学校	169	〃 香川 高等学校

講 評 会

8月3日 13:30~15:00 山口県立美術館講座室

講 師

筑波大学助教授

山 本 文 彦

(主管校 野田学園高等学校)

自らの目で

筑波大学助教授 山本文彦



会場を一巡して、どの作品にも初々しい感覚が溢れているのに感動しました。表現の質や内容に地域差はあっても、どれもみな水準が高く、これらの作品の陰に美術クラブの真剣な活動を思い浮べて頭が下がりました。参加した皆さんがこれを機会に美術工芸に一層自信を持って、今後更に理解を深めてほしいと思いました。

講演会の時、「何のために絵を描くのか」という質問が出ました。これは大切な問題です。全ての美術家が自らに一生問い続けていることだと思います。美に感動する心を一人一人に広げて行くことが大切なのだという話をした記憶がありますが、即断の解答のできることはありません。

デザインの部門では、社会問題を率直に取り上げて、高校生の生活感情を素直に訴えているものが多くありました。豊富な映像文化を取り入れて、多様な技術を駆使し、作り出す喜びが溢れているように見えました。

美術活動には二つの側面があります。感じ取ることと作り出すことです。素材の性質を知り、自由に使いこなす、自分の構想に従ってまとめ上げて行く制作の過程があります。絵画を例にとれば、画面はちょうど舞台のようなものです。さまざまな色や形やマチエールが一筆ごとに現れては消えて行きます。作者の心の動きにつれて、絵の中にもう一つ別の世界が浮んで来ます。この世界にひたすら付き従いながら納得のいくまで推敲し、最後に、自分の心から生まれたにもかかわらず、自分も知らなかった別世界が現出します。作者はこの一連の展開の舞台監督です。こういう制作の喜びは美術の活動の主要な部分です。

しかしここで、「作り出す喜び」に夢中になるあまり、「見て、感じ取る」活動を忘れてはならないと思います。自分の肉眼で素直に自由に外界を見、新しい美しさを見つけ出すことが美術の第一段階のはずです。

最近には絵画表現に写真を利用することが多くなりました。身近に映像やその器機が氾濫しています。それを利用するのは楽しいことですし、新しい視覚経験も味わえます。肉眼とは違うレンズの視覚の面白さを求めて、自分で撮った写真をそのまま拡大模写した作品も描かれるようになりました。美術は新しいヴィジョンを求めて冒険を続けているのですから、それも当然だと思います。

しかし、こういう制作活動の前提として、じかに自らの目で見入ることが何より大切だと思います。身の周りに部厚く広がっているものの姿にじかに接して、いくら見ても見尽せない、そのゆらめきや奥深さを観察することを怠ってはなりません。こういう視覚体験が将来独創的な表現に結実していくのだと思います。

文化部の活動は個人の内部世界に根差すものだけに、地味で目立たないのだと思いますが、

一つ一つの作品に込められたこの情熱を、より多くの人々に知ってほしいものだと思います。



フレッシュな創造的作品

はじめに

美術工芸、書道、写真の3部門からそれぞれ3～4名の専門部会部員が委嘱され展示部門の専門部会として企画的な役割を担当する。第1回の専門部会は昭和57年6月17日に開かれ、事務局より高校総文の計画概要及び組織等の説明があり、第4回石川大会のVTRの視聴により総文の全体像をおぼろげながら把握する。第2回部会より高校総文の実施計画、運営組織の検討に入り、7月～8月にかけての栃木総文の視察、8月下旬に高校総文のリハーサルを兼ねた山口県高校芸術文化祭を開催し、数回の部会を経て昭和58年2月の部会では展示部門の大方の実施計画が決まった。

準備と経過

4月に専門部会部員のほかに運営委員がおかれ、高校総文に向かって本格的な実施準備に入る。運営委員は、県高校教育研究会美工部会の理事がそのままスライドし、主管校の教員3名が加わって組織された。美術工芸部門の係（役割）として、総務係、作品係、会場係、接待受付係、広報係、救護係、駐車場係、講評会係等8つのパートが置かれ、部員3名、運営委員9名の12名で構成され、さらに主管校野田学園高校の生徒46名が生徒役員としてこれにあたる。

6月24日～26日に第5回山口県高校芸術文化祭（美術工芸・書道・写真部門）を開催し、美術工芸作品400点余のうちから73点の優秀作品を選抜し、これを高校総文の県内出品作とした。

7月15日部員及び運営委員による最終的な実施準備の打合せを行い万全を期す。7月30日午前中、テープカット、講評会の細部実施要領について共通理解及び確認。展示準備として展示用金具の準備、展示会場の種目別・都道府県別割付け、彫塑、工芸展示位置の決定及び台の設置、午後は展示作品の開梱作業、再梱包のことも考え、空箱、包装紙等に県番号及び作品番号を記入し、県番順に整理保管、開梱次第、作品を展示品へ種類別、都道府県別に置く。作品係の役員生徒10名を動員する。

7月31日、終日展示作業、県立美術館での展示は毎年の県学校美術展及び県高校芸術文化祭で経験済みのためきわめて順調に作業が進む。業者数名ほか展示係の役員生徒10名を動員。



8月1日午前中、開幕を明日に控え展示会場の点検、手直し。掲示用の作品名票、都道府県名札、各種案内札の文字書き及び掲示。午後は係教員、役員生徒全員集合し、各係の役割、活動内容の説明及び打合せ。テープカット及び講評会進行のリハーサルを終え準備完了。

絵画から彫塑まで

〈開会式、テープカット〉 県立美術館エントランスホールの参列者50名の見守る中、山口高校ブラスバンド部のファンファーレを合図に生徒が開会を宣言、つづいて野村和男部会長（野田学園高校長）あいさつ、さらに生徒代表の力強い歓迎のあいさつのあと、テープカットに入り、部会長、新川文部省教科調査官、県立美術館長、生徒の4名に白い手袋が渡され、ファンファーレとともに一斉に鉋ノコギリが入り、カメラのフラッシュ、シャッターの音、拍手が会場にひびきわたり開会の幕がきって落とされた。

〈講評会〉 講評会は、2日目の午後1時30分より筑波大学助教授山本文彦先生を講師に招き美術館講座室で行い、当初心配していた参加者数も当日は大変な人気で超満員となり、椅子不足のため、県内の高校生には起立を願い、大変迷惑をかけた。約1時間にわたって展示作品の講評が行われ、それについての質疑応答が3件ばかり出された。少しの休憩のあと会場を展示室に移し、出品作品を見学しながら講評が行われ盛会のうちに無事終了した。県外150名、県内100名の参加者があった。

〈展示会場〉 県外作品165点、県内作品73点、合計238点と多きにわたる作品は、絵画、デザイン、工芸、彫塑と種類別にし、美術館入口より、北から北海道、青森……、南、沖縄と順に比較的ゆったりと展示した。

今後の課題

会場全体には質的にも素晴らしい良い作品展であったが、今日のマスコミ文化の影響や、プロの作品を見る機会の多い中で模倣ではなく、自らの観察を通して創造してゆくといいた高校生らしいフレッシュな感じの作品がもっとあって欲しいと思われた。また主要都市部に力作や出品点数が少ないのは少々残念であった。入場者数は初日900名、2日目1,050名、最終日750名、合計2,700名であった。



県名	学 校 名	県名	学 校 名
1 北海道	北海道上磯高等学校	39 新潟	新潟市立沼垂高等学校
2 〃	北海道工業高等学校	40 富山	富山県立滑川高等学校
3 〃	北星学園女子高等学校	41 〃	富山県立入善高等学校
4 〃	北海道釧路北陽高等学校	42 〃	富山県立桜井高等学校
5 〃	駒澤大学附属苫小牧高等学校	43 石川	石川県立金沢錦丘高等学校
6 青森	青森県立青森東高等学校	44 〃	石川県立松任高等学校
7 〃	青森県立三本木高等学校	45 福井	福井県立敦賀高等学校
8 〃	青森県立大湊高等学校	46 山梨	山梨県立都留高等学校
9 岩手	岩手県立黒沢尻南高等学校	47 〃	山梨県立市川高等学校
10 〃	岩手県立宮古高等学校	48 〃	山梨県甲府市立甲府商業高等学校
11 〃	岩手県立雫石高等学校	49 長野	長野県小緒高等学校
12 宮城	宮城県名取高等学校	50 〃	長野県上田高等学校
13 〃	宮城県泉高等学校	51 〃	長野県蓼科高等学校
14 〃	宮城県角田女子高等学校	52 岐阜	岐阜県立岐阜高等学校
15 秋田	秋田県立秋田北高等学校	53 〃	岐阜県立本巣高等学校
16 〃	秋田県立能代高等学校	54 〃	岐阜県立加納高等学校
17 〃	秋田県立大曲高等学校	55 静岡	静岡県立湖西高等学校
18 山形	山形県立米沢東高等学校	56 〃	静岡県立静岡商業高等学校
19 〃	山形県立楯岡高等学校	57 〃	静岡県富士見高等学校
20 〃	山形城北女子高等学校	58 三重	三重県立長島高等学校
21 福島	福島県立福島北高等学校	59 〃	三重県立神戸高等学校
22 〃	福島県立福島女子高等学校	60 〃	三重県立名張桔梗丘高等学校
23 茨城	茨城県立那珂湊第二高等学校	61 滋賀	滋賀県立大津高等学校
24 〃	茨城県立多賀高等学校	62 〃	滋賀県立膳所高等学校
25 栃木	栃木県立宇都宮女子高等学校	63 〃	滋賀県立彦根西高等学校
26 〃	栃木県立氏家高等学校	64 京都	京都府立山城高等学校
27 〃	国学院大学栃木高等学校	65 大阪	大阪府立生野高等学校
28 群馬	群馬県立中之条高等学校	66 〃	大阪府立今宮高等学校
29 〃	群馬県立伊勢崎商業高等学校	67 〃	大阪府立伯太高等学校
30 〃	伊勢崎市立女子高等学校	68 兵庫	兵庫県立相生産業高等学校
31 埼玉	埼玉県立深谷第一高等学校	69 〃	兵庫県立御影高等学校
32 東京	東京都立松が谷高等学校	70 〃	親和女子高等学校
33 〃	東京都立羽村高等学校	71 〃	神戸市立須磨高等学校
34 〃	順天高等学校	72 〃	神戸市立赤塚山高等学校
35 神奈川	川崎市立橋高等学校	73 〃	神戸市立神戸西高等学校
36 〃	緑ヶ丘高等学校	74 奈良	奈良県立榛原高等学校
37 新潟	新潟県立巻高等学校	75 〃	奈良県立添上高等学校
38 〃	新潟県立三条高等学校	76 〃	奈良県立桜井高等学校

県名	学 校 名	県名	学 校 名
77	和歌山 和歌山県立新宮商業高等学校	108	大分 別府大学附属高等学校
78	／ 和歌山県立和歌山高等学校	109	宮崎 宮崎県立日南高等学校
79	／ 和歌山信愛女子短期大学附属高等学校	110	／ 宮崎県立妻高等学校
80	島根 島根県立浜田高等学校	111	鹿児島 鹿児島県立甲南高等学校
81	／ 島根県立出雲商業高等学校	112	／ 鹿児島県立鹿児島中央高等学校
82	／ 島根県立邑智高等学校	113	／ 鹿児島実業高等学校
83	広島 広島県立熊野高等学校	114	山口 山口県立岩国高等学校
84	／ 広島県立安芸高等学校	115	／ 山口県立岩陽高等学校
85	／ 広島県立神辺旭高等学校	116	／ 山口県立高森高等学校
86	徳島 徳島県立穴吹高等学校	117	／ 山口県立光高等学校
87	／ 徳島県立鴨島商業高等学校	118	／ 山口県立下松高等学校
88	／ 徳島県立徳島農業高等学校	119	／ 山口県立徳山高等学校
89	香川 香川県立志度商業高等学校	120	／ 山口県立徳山工業高校
90	／ 香川県立笠田高等学校	121	／ 山口県立防府高等学校
91	／ 香川県立善通寺第一高等学校	122	／ 山口県立山口高等学校
92	愛媛 愛媛県立今治南高等学校	123	／ 山口県立山口中央高等学校
93	／ 愛媛県立東温高等学校	124	／ 山口県立宇部西高等学校
94	／ 愛媛県立北条高等学校	125	／ 山口県立宇部工業高等学校
95	福岡 福岡県立大川高等学校	126	／ 山口県立小野田工業高等学校
96	／ 八幡中央高等学校	127	／ 山口県立豊浦高等学校
97	／ 福岡県立筑前高等学校	128	／ 山口県立下関西高等学校
98	／ 福岡県立修猷館高等学校	129	／ 山口県立下関南高等学校
99	／ 福岡県立戸畑中央高等学校	130	／ 山口県立下関第一高等学校
100	佐賀 佐賀県立佐賀北高等学校	131	／ 山口県立下関工業高等学校
101	／ 佐賀県立佐賀西高等学校	132	／ 山口県立豊北高等学校
102	／ 佐賀県立佐賀東高等学校	133	／ 山口県立萩商業高等学校
103	熊本 熊本県立八代南高等学校	134	／ 高水高等学校
104	／ 熊本県立人吉高等学校	135	／ 中村女子高等学校
105	／ 熊本県立菊池高等学校	136	／ 早鞆高等学校
106	大分 大分県立大分舞鶴高等学校	137	／ 萩光塩学院高等学校
107	／ 大分県立杵築高等学校		

講 評 会

8月3日 13:30~15:00 山口県社会福祉会館講堂

講 師

東京学芸大学教授

吉 田 繁

(主管校 野田学園高等学校)

正直に己れを尽せ

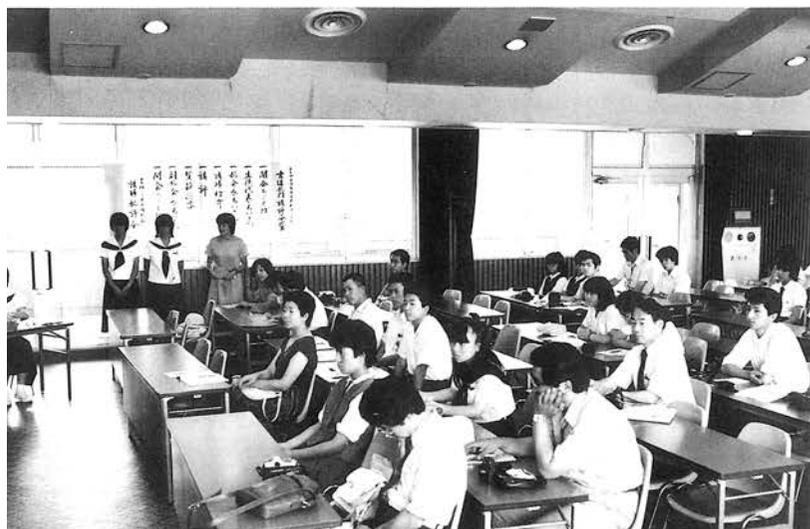
東京学芸大学教授 吉田 繁



年々全国各地にわたって、このような芸術の祭典が行われることは、芸術教育振興の上から、大へんよろこばしいことと思う。真に人間らしい人間を形成するために、日本国はもっともっと芸術教育に力を注がなければいけない。生徒諸君も、自己の人間形成のために芸術の勉強に時間を費やすことを、大いに意義深きものとして自覚してもらいたい。

さて、書道の作品について感じたところを率直に述べよう。私の最も強く感じた点は、高校らしさに欠けるということである。若者らしい、燃えるおもしろい宿すものが少ない。若き純血のたぎるような作品はほとんど見当たらず。いったい書の表現は、一点一画を打ち出してゆく時間的推移のうちに形成されるのであり、それは自己の生命的躍動をもって遂げられる次第のものである。若き生命の躍動するところにこそ、純血はたぎるのではないか。無感動のままに一応の形式的統一を希求し、また指導者のアイディアに安易に従属するものには、もとよりそれは期待すべくもない。臨書にしろ、創作にしろ、作品制作の前提として、自己の内部に湧く感動というものが最も大切である。作品そのものはキズがあってもいい、未完成でもいい。自己の現実を偽ることなく、ひたすら己れを尽すことである。どうか作品への志向と、制作の過程について考え直していただきたい。私は高校生諸君の鋭敏な感性と激しい生命力を信じている。

私の講評の折、質問に立ったある高校生の言葉の中に、作品の題材についての指摘があった。高校生諸君のとり扱う題材は、諸君の理解し共感する現代日本の詩歌散文がもっとあっていいのではないか。今日日本の国語表記は漢字かな交りである。今日の書の題材は、この普遍の事実と密接なかわりをもつはずである。この点もまた、純粋な思考に富む諸君の今後に期待する。



こだまする青春の書像

はじめに

昭和56年度から準備は始まった。2年と数か月の道程である。秋田県、栃木県とすぐれた総文を見学させていただいた。書道部門だけに視線をしぼって見ても、予算面においても、取り組み陣容においても、規模の大きさに驚いた。果たして、これを山口県で……と。しかし、矢はつるを離れ、第7回全国高等学校総合文化祭は山口県で開催される。

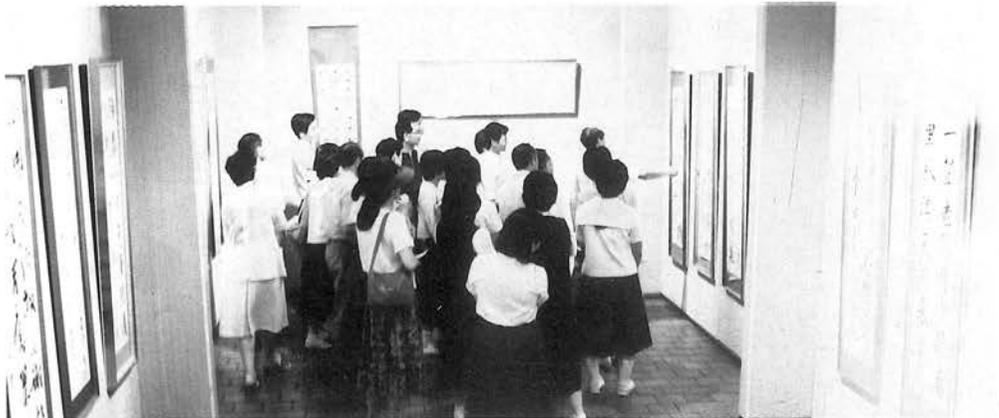
準備と経過

昭和57年6月17日、県埋蔵文化財センターで第1回の関係者会議がもたれた。この席上で、事務局から、山口県における総文の理念とも言うべきものが述べられた。華美にならず、厳しい財政の中で、山口県独自の創意工夫をこらした、内容の充実した立派なものを……と。こうした考えが、高校総文のバックボーンとなって、様々な難問を解決していった。

7月8日、業務分担を決め、9月30日に、講師の決定と図録の編集方針をまとめた。講師の先生として、東京学芸大学教授吉田繁（鷹村）先生をお願いする。さて、図録について、難問が多数。しかし、窮すれば通ずる。手数をかけるが、出品者からその作品の写真を一枚送ってもらう。これを資料として編集する。様々に検討した結果、大会に間にあわすにはこの方法しかないということになった。図録は立派に仕上がった。開催初日には受付の机上に、インクの香も新鮮な図録が積み上げられていたわけである。

当部門では、副部長と2名の教諭の3人が主として準備を進めていくというハードなものである。2月24日、総文の参加要項決定。7月15日に開催当日（8月2日～4日）の役割について役員配置の打合わせをする。

搬入については、総文事務局が処理し、作品の大きな移動に当っては、専門業者の手で丁寧に取り扱われた。それにしても、作品の点検、包装物の符合、通し番号の記入等々、係り役員も汗だくだった。会場は、県立博物館で、展示に当っては、壁面づくりにパネルを多く用い、いささか苦勞した。博物館職員の高校総文への御理解と御配慮を得て会場は出来上がった。い



書道 報告

よいよ作品の展示である。方針として作品配置は壁面効果を第一としていくことにした。作品の形式は、半切物が主流をなしてはいるが、かなり自由なものもあり、作業はスムーズに進行した。明日は開催！役員一同ほっと一息。このひととき値千金。

青春の書像

開催初日の朝がきた。野村部会長をはじめ次々に挨拶があり、生徒代表のことばが、声が、県立博物館の玄関にすがすがしく、さわやかに響いた。次にテープカット。来賓の文部省教科調査官加藤達成先生も参列された。8月3日、第2日目、文化庁長官がお見えになった。ご多忙の中を、一点ずつ作品をご覧になった。途中、長官を生徒たちが取りまいて記念写真を撮ったのも、楽しい思い出となった。

午後から講評会。講師の吉田繁先生のご講演がすばらしかった。とりわけ、お話の中で、「諸君は現代文を書きなさい。」と言われた意味が、様々の歴史的な事例を挙げられてのわかりやすい説明によって、十分に高校生に理解された。一つのすばらしい文化の継承を目の当たりに見た心地がした。生徒たちの質問に、若き日の先生の書への取り組みについて、があった。なかば目を閉じられての若き日のお話の中に、生徒たちは、暖かい人間的な触れ合いを感じていたに違いない。講評会会場から再び展示会場に移動し、出品者の希望により、懇切なる批評をそれぞれにいただいた。生徒諸君にとって書へのいろいろな開眼があったに違いない。講評会は画龍点睛のひとときであった。

全国から参加いただいた先生方、そして生徒諸君、ありがとうございました。37.5度をマークした山口の街は、さぞ暑かったことでしょう。それはまた、若者たちの書への限りない情熱のもたらしたものであったろうか。3日間の催しも、惜しまれながら幕を閉じた。

8月4日終了後、ただちに搬出作業に取り組む。総出品点数157点を参加都道府県41にまとめ、8月5日、すべての作業を終えた。博物館の職員の方々のお手伝いをいただいたことが、ありがたく思い出される。また、開催中の3日間、受付から会場、あるいは駐車場とそれぞれの係で活躍したのは野田学園高等学校の生徒諸君であった。



全国から参加いただいた作品は、まさにこだまする青春の書像であった。十分なお世話も出来ず、いろいろとご迷惑をおかけしたのでは。私ども少数のスタッフでフル回転。諸準備の検討会議も大幅な制限の中で、最大の能率と効果を上げるべく創意に工夫を重ねて、私ども書道部門における山口県方式とでもいうべきものも生まれたのではなかろうか。

今後の課題

山口県の高등학교においては、文化活動面で高文連といったような組織がなく、その点からは、何かと苦勞の多い総文への取り組みではあった。このことは今後の問題として考えなければならない。ところで、3日間という濃縮された期間はそれなりに密度の濃いものになったようだ。書道部門においても、総文が本県にもたらしたものは大であった。県下の高校生にとって、全国レベルの作品群像を見て、大きく眼を開くところもあったであろう。それにも増して一般の高校生に広く総文を通して書道芸術というものが、実に身近にあるのだということを結果的にPRしたことは、これまた一つの成果といえよう。総文を一つのステップとして、ますますこだまする青春の書像が、より着実に、高校生らしく伸びのびと成長していくことを願ってやまない。



県名	学 校 名	県名	学 校 名
1 北海道	北海道標茶高等学校	32 石川	石川県立金沢商業高等学校
2 〃	北海道美幌農業高等学校	33 〃	石川県立松任高等学校
3 〃	北海道札幌清田高等学校	34 〃	石川県立小松商業高等学校
4 青森	青森県立五所川原工業高等学校	35 〃	藤花学園尾山台高等学校
5 〃	青森県立弘前工業高等学校	36 長野	長野県豊科高等学校
6 岩手	岩手県立一関第二高等学校	37 〃	長野県犀峽高等学校
7 〃	岩手県立宮古商業高等学校	38 〃	長野中央高等学校
8 〃	岩手県立遠野高等学校	39 岐阜	岐阜県立岐阜商業高等学校
9 〃	盛岡市立高等学校	40 〃	岐阜工業高等専門学校
10 秋田	秋田県立秋田北高等学校	41 〃	富田女子高等学校
11 〃	秋田県立仁賀保高等学校	42 三重	三重県立四日市商業高等学校
12 〃	秋田県立大曲高等学校	43 〃	三重県立木本高等学校
13 〃	秋田県立花輪高等学校	44 〃	三重県立宇治山田高等学校
14 〃	秋田県立金足農業高等学校	45 〃	三重県立松阪工業高等学校
15 〃	秋田県立鷹巣高等学校	46 〃	三重県立伊勢工業高等学校
16 〃	秋田県立秋田工業高等学校	47 滋賀	滋賀県立八幡工業高等学校
17 〃	秋田県立大館工業高等学校	48 〃	滋賀県立草津東高等学校
18 〃	秋田県立大曲農業高等学校	49 〃	滋賀県立瀬田工業高等学校
19 〃	秋田和洋女子高等学校	50 〃	近江兄弟社高等学校
20 栃木	栃木県立宇都宮北高等学校	51 〃	比叡山高等学校
21 〃	栃木県立鹿沼商工高等学校	52 奈良	奈良県立二階堂高等学校
22 〃	栃木県立高根沢商業高等学校	53 和歌山	和歌山県立桐蔭高等学校
23 〃	栃木県立馬頭高等学校	54 〃	和歌山県立和歌山北高等学校
24 〃	栃木県立宇都宮東高等学校	55 〃	和歌山県立田辺高等学校
25 〃	栃木県立宇都宮南高等学校	56 〃	和歌山県立星林高等学校
26 〃	栃木県立栃木女子高等学校	57 〃	和歌山県立向陽高等学校
27 〃	栃木県立宇都宮高等学校	58 〃	和歌山県立串本高等学校
28 〃	栃木県立宇都宮工業高等学校	59 〃	和歌山県立和歌山工業高等学校
29 富山	富山県立高岡高等学校	60 〃	和歌山県立和歌山商業高等学校
30 石川	石川県立七尾商業高等学校	61 島根	島根県立松江北高等学校
31 〃	石川県立金沢錦丘高等学校	62 〃	島根県立江津高等学校

県名	学 校 名	県名	学 校 名
63 島 根	島根県立松江工業高等学校	82 熊 本	熊本県立第二高等学校
64 〃	島根県立益田農林高等学校	83 〃	熊本県立熊本工業高等学校
65 〃	島根県立浜田高等学校	84 〃	熊本商科大学付属高等学校
66 〃	島根県立出雲商業高等学校	85 〃	東海大学第二高等学校
67 〃	島根県立出雲農林高等学校	86 宮 崎	宮崎県立宮崎工業高等学校
68 〃	島根県立江津工業高等学校	87 〃	宮崎県立宮崎農業高等学校
69 〃	七尾学園益田東高等学校	88 山 口	山口県立岩国高等学校
70 岡 山	岡山県立岡山操山高等学校	89 〃	山口県立岩陽高等学校
71 〃	岡山県立岡山工業高等学校	90 〃	山口県立岩国工業高等学校
72 〃	関 西 高 等 学 校	91 〃	山口県立下松工業高等学校
73 〃	就 実 高 等 学 校	92 〃	山口県立徳山高等学校
74 〃	山 陽 女 子 高 等 学 校	93 〃	山口県立山口高等学校
75 広 島	広島県立広島井口高等学校	94 〃	山口県立宇部西高等学校
76 〃	広島県立三次工業高等学校	95 〃	山口県立下関第一高等学校
77 〃	広島県立広島商業高等学校	96 〃	山口県立下関工業高等学校
78 徳 島	徳島県立城南高等学校	97 〃	山口県立響高等学校
79 〃	徳島県立城ノ内高等学校	98 〃	山口県立萩高等学校
80 〃	徳島県立城東高等学校	99 〃	下関市立下関商業高等学校
81 香 川	香川県立三豊工業高等学校	100 〃	三田尻女子高等学校

講 評 会

8月3日 13:30~15:00 山口県視聴覚センターレクチャールーム

講 師

写真家

林

忠 彦

(主管校 野田学園高等学校)

感動の瞬間シャッターをきる

写真家 林 忠彦



一昨年、私は『若き修羅たちの里・長州路』という作品集を上梓した。

一年有余の取材で、県下津々浦々、吉田松陰門下、若き獅子たちの偉大な足跡を尋ね歩いた。山口県は私の郷里でもあるだけに灯台元暗しとでもいうか、かえって知り過ぎているあまり撮り難い点もあったが、郷土の誇り、当時の青年たちの活躍の舞台を風景写真として残す仕事は、張り合いがあり楽しい数か月であった。

その後3年御無沙汰のふるさとであったが、今回第7回全国高校総合文化祭の講師としてのお招きを頂き久々に楽しい訪問となった。

当日は、冬、寒く、夏、暑いという盆地山口にふさわしい猛暑、輝く程の白光のふりそそぐ快晴で、展覧会場の博物館から、講評会場の視聴覚センターへの道は、日も、くらむような思いをした。多分、水銀柱は35度以上を指していただろう。全国から8千人以上の若人が日本の西端の古都、山口に集う、青春のエネルギーの故もあつたのではないだろうか。

レクチャールームでの講評会に先だち、野田学園の生徒代表が、歓迎の挨拶をした。「同じ高校生の大会でも、スポーツ部門は、マスコミに取りあげられたり、大変華やかである。それにひきかえ、我々の総合文化祭は、あくまで地味に見えるが、全国の仲間が、それぞれ自分なりに懸命に情熱をそそいだ作品を今日ここに集めるという意義のある祭りだ」と、誇らしく語ったのが、頼もしく、好印象として残った。

写真部門の参加校100校 158人の作品が寄せられていたが、昨年の栃木総文の応募数を遥かに凌ぐ、数と量で、これは本文化祭に対する意識の向上であり、又、主催県山口の運営委員の先生方の大変な御努力の結果で高く評価されていだろう。



作品は各地方校で厳選され、代表作として集め展示されたそうだが、大会では、順位なしのアンデパンダン形式がとられたのも好感がもたれた。いたずらに、等級をきめ、賞をださなくとも、それぞれに全力投球をした作品が見られることに意義があると思われた。展示作品で目についたのは、同世代を写した作品に佳作があったようだ。スポーツものとなると、青春の情熱が、ほとぼしるのか、明るく健全に撮られ、後々まで残る記録としても見るべきものが多かった。又仲間同志を対象としたものは、やはり、カメラと被写体の間に壁がなく、素直にシャッターが切れるということで、これ又秀作が生れていた。

しかし、大人への成長期の岐路にある高校生という性格、立場が、カメラ雑誌コンテスト写真の影響が目だった。いい作品を作る過程として人の作品を手本にするのは決して悪いことではない。むしろ先人の作品を学び、それに自分の感情を導入することが上達の早道でもあるのだ。私は最近常に「感動の瞬間シャッターを切る」という言葉を口にしてている。

写真は作品の感動と人に伝達する最も手近な芸術なのである。若さによる観方、若さによる考え、若さによる感激をシャッターに直結すべきである。

帰京の車内に錦帯橋、秋芳洞の写真入りの大きな買物バック一杯に郷里へのお土産をつめ込んだ若者たちの、楽しかった山口の旅の思い出にあふれた笑顔が見られたのは、何よりもこの大会の成功を物語っていた。



▲出品された作品の中から

◀会場をかざる生花

眼輝やかせた講評会

はじめに

展示三部門の中で、写真のみ母体となる組織がなく、また県内各高校の写真部の部活状況がつかめないため、まさしくゼロからのスタートであった。他の2部門(美術工芸・書道)との遅れを縮める手立てが急務となり、昭和57年度の第4回県高文祭展示部門に初めて参加し第1歩を踏み出した。

当部会では、次の3点をポイントに計画、実施するとともに、この文化祭を今後の県高文祭写真部門の発展に生かしたいと考えた。

- (1) 県高文祭写真部門の充実と体制の強化に努める。
- (2) 高校総文を跳躍台に、本県高校生の飛躍的向上をめざす。
- (3) 効果的展示と講評会の充実をめざす。

作品レベルの高さ

- (1) 北海道から九州におよぶ各地から21県、100校、158点の作品が集まった写真展は、参加県、校数において高校総文初の多さである。特に、三重、徳島、熊本各県の作品レベルの高さは驚異であった。またカラー作品に優れたものがあられ、モノクロ写真にも動感をうまく表現して成功した作品があった。
- (2) 展示会場にあてた博物館のイメージから来る“暗さ”を少しでも払拭^{しよく}するため、“花”を展示した。野田学園高校の協力のもと“生け花”、“ドライフラワー”、“水中花”が、飾られ、会場内は明るくなごやかな雰囲気となった。また会場の外では、同校の茶道部が抹茶の接待を行った。真夏の太陽のもと、木陰で飲む抹茶は、まさしく、総文のオアシスであった。
- (3) 展示方法は、北から順に、県単位で行い、県外からの観覧者に配慮した。



- (4) 講評会は、講師に山口県徳山市出身の写真家、林忠彦氏を迎えておこなわれた。スライドを使用されての先生の絶妙な指導講評は、多数の入場者を湧かせ、氏の作品のオリジナルを拝見したことも具体的な教示となり好評であった。
- (5) 作品集のための写真を各出品者に提出させる方法をとったことも高校総文初の試みで、今後山口方式とでも呼ばれることになるうか。

高校総文を振り返ってみると、必ずしも十分に満足できるものとならなかったものの、立派な講師の先生をお迎えできたこと、2回にわたる県高文祭写真部門が少しずつ伸びてきたこと、生徒の写真レベルを全国的視野において確認できたこと、さらに顧問教員の研修が大切であることなどが大きな収穫となった。全国の高いレベルの作品を直接目にした高校生諸君、写真部員および顧問教員にとって、その強烈な刺激は今後の活動の糧となることであろう。またこれからの県高文祭写真部門の飛躍につながれば、この上ない大きな収穫である。

今後の課題

文化活動が活発に行われて教育的成果を上げている県の多くは、高文連が設置されており、その土台のもとに運営されている例が多い。文化活動を体育部活動と同じレベルに並ばせるためにも、高校総文のような大きな大会を迎えるためにも、高文連の設置が急務であるように思われてならない。

しかしながら、この文化祭で得られた貴重な成果は大であり、これを一過性のものとしてはならない。この燃え上がりを消さないよう本県高文祭写真部門の発展に移してゆくことこそ、この高校総文を生かすことにつながり、同時に組織の拡大にもつながるものと考えられる。



生徒の声

〔記念式典〕

自分の世界が広がった

昭和58年8月2日、私は総合開会式記念式典の開かれた山口市民会館のステージに立ちました。山口県下の全高校生を代表して全国の仲間へ歓迎のあいさつをしましたが、ライトで目がくらみ、館内いっぱいの視線を感じ、何もわからないうちに式は終わってしまいました。

青春を象徴するかのようなキラキラ輝く太陽の下で、高校総文行事に参加できたことを誇りに思っています。今まで見えなかったものが見えるようになり、自分の世界が一回りも二回りも広がったような気がします。記録的な暑さの中で期待にこたえ、懸命に演技し、流された汗とあの笑顔。いつまでも忘れることはできないでしょう。

「輝け青春」のメロディーが今もなお私達の心に鳴り響いています。

(県立山口高校 2年 西村明弘)

〔記念式典と歓迎ひろば〕

素敵な一日に

スクリーンがさっと落ち、高校総文山口大会のシンボルマークが現れる。厳粛な式典に、なかなか考えた開幕でした。来賓の方々のあいさつや祝辞、生徒代表の歓迎のことばに続き、山口県高校管弦楽団と山口県高校合唱団による演奏。これは参加した者の一人として、忘れられない思い出となりました。

歓迎ひろばには、各高校がそれぞれ考えた催し物や展示が行われました。私達は、式典に引き続き、主管校としての役割に、懸命に取り組みましたが、二つのステージの片方ばかり注目され、せっかく他県の高校の郷土芸能を充分見てもらえなかった事は残念でした。しかし、会場全体は盛り上がり、青春の1ページを飾る素敵な1日となりました。

(県立山口中央高校 2年 武本扶美江)

〔記念パレード〕

すがすがしい気分

初めてプラカードを手に歩いた時、かなりの重さのために、少し歩くだけでぐらぐらとなり、果たしてパレードの間中持ち続けていられるのだろうかと不安になりました。

しかしいざ本番ノとなると、頭の中がカーッととなり、ひたすら歩くだけでした。そしてパレードが進むにれて、バンドの演奏が混じるために拍子がとれなくなったり、率いている隊との間隔が心配になり、たえず振り返ったり、前の隊が止まる度に冷や汗をかいたり、当惑することの連続でした。しかし、歓迎の広場に入り、無事に終えたんだと実感した途端に、非常にすがすがしい気分になりました。

猛暑の中のパレードでしたが、私たちにはとても良い思い出になりました。

最後に、丁寧に指導して下さった先生方、本当にありがとうございました。

(県立山口高校 2年 村上晶子)

〔演劇〕 青春が、ドラマがありました

高校総文に参加することができましたことは、私達演劇部員にとりましては、青春の1ページを飾る大きい体験であったと申しますといささかオーバーな表現でしょうか。私達は、昨年の夏に開かれた地区大会に、大会というものはこういうものだという事も知らず、出場しました。その時、私達の知らないものもないもの、あるいはそうした雰囲気にはひかれたりし、私達よりはるかに上手だなと思う中で、最優秀賞をいただいたのです。それから中国大会そして全国大会と、とんとん拍子に来てしまいました。地区大会で、どぎまぎしていた私達にとって土へ上へはいあがってゆくのに精一杯でした。

私は実際に全国大会出場という事を経験したのですが、さすがに規模が違います。たった3日間の為に私達の見えない所で1年も前から地元の先生方は熱心に動かれるのです。その上に成り立った高校総文。出場する者は、たった3日間を最大限に生かさなければならないのです。さすがに全国大会だけあって練習した成果を最大限に生かされたものばかりでした。見ている者を熱くさせるものばかりでした。高校総文は、それを物語っているかのようでした。花が咲いた3日間に幕が閉じようとした時、涙が後から後から頬をつたわりました。最高にうれしかったのです。この3日間、青春が、ドラマが、確かにありました。私と同じ高校生が、それぞれ違った場所で同じ目的を持って一つのものに情熱をかけて造りあげてきたのです。顔も名前も知らない者同志が同じ目的に向かって心をついにして青春の真ただ中を突きつたのです。高校総文を区切りに引退する私には、2度と繰り返すことの出来ない貴重な体験をしてきたのです。後もどりのきかない私の貴重な時。悔いの残らないすばらしい時でした。私は、高校総文で、あの舞台で演じられた事を誇りに思います。

(県立厚狭高校 3年 松谷由美子)



▲上演前のインタビュー

生徒の声

〔合唱〕

あの歌声をもう一度

私達の合唱クラブは、週1回の正課クラブで、思うように活動できません。その私達にとって、山口県高校合唱団として参加できたことは幸運でした。女子高ということで日ごろできない混声四部の大きな合唱曲を、しかもオーケストラの伴奏で歌えたことが何より強く心に残っています。

練習の機会が満足にとれない私達には、他校の歌はどれもみな素晴らしく思えました。山口県高校合唱団の中でも、合唱部門に参加し、堂々発表される学校が多く、その中に交じって歌うことには多少気おくれも感じました。しかし、他校の素晴らしい合唱をこのように数多く聞ける機会は他にはなく、おおいに勉強させていただいた一日でした。

「ハレルヤコーラス」で幕を開けた大会式。続く「男なら」では、郷土の誇りを胸に、「おいでませ」の歓迎の意を込めて。大会テーマ曲の「輝け青春」の全員合唱では会場と声をついに、また同じく全員合唱の「大地讃頌」では、関屋先生のご指導の下、舞台も会場も声を限りに歌い上げました。このような合唱は二度とはできないでしょう。素晴らしい思い出をつくることができました。

さて、大会式では、生徒代表として歓迎のことばをのべる大役を受け、これもまた大きな思い出となりました。山口県の高校生を後ろに、全国各地の高校生を前にして、緊張し切ってしまう、その言葉もふるえる声でうまく話せませんでした。ともかく無事務めることができ、今思い返してもほっとした気持ちです。このような大役をつとめる機会にめぐり会えたことを幸運に思い、またそうした機会を与えて下さった方々に感謝します。

幸運と思い出に恵まれた一日でした。他県の高校生との出会いもありました。あの歌声をもう一度響かせたいと思います。

(県立山口中央高校 3年 波多野陽子)

〔吹奏楽・管弦楽〕

友情の輪も強く

去る8月4日、第7回全国高等学校総合文化祭が幕を閉じました。なにか長距離走を走り終えた後の「やったぞ」という満足感にさらされる反面ほっと一息つくようなそんな今日このごろです。僕たちが直接取り組んだのは、友情の輪を広げることを目的とした交歓広場だったのですが、今、振り返ってみると、苦労したあの夏のひとコマひとコマが鮮明によみがえってきます。

全校生徒で意見を出し合って決めた「祈願コーナー」一つをとってもその製作過程において美術部をはじめとする人たちは、真夏の蒸し風呂のような部屋で、汗びっしょりになってがんばってくれました。また、バンド演奏をしたグループも、より優れたものを目指して、手にまめをたくさんこしらえて毎日汗を流してくれました、それにもまして忘れてはならないのは、当日、炎天のもとで駐車場整備や会場案内、受付や接待をしてくれた人たちの奉仕精神だと

思います。ぼくが知っているだけでもこれだけの努力と苦労があるのだから、あの祭典にそそがれたものには、多大なものがあったらと思います。その人たちに丁寧にお礼のひとつでも述べたい心境です。

澄みきった夏空に、さわやかな演奏が流れ、空飛ぶ鳥はリズムに乗って舞い、町を歩く人々の足どりも軽やかになるほどでした。また友情の輪も強く固く結ばれ、今では、遠いところの人たちから手紙をもらい、あの祭典をきっかけに、文通を始めたという嬉しい話をよく耳にします。

「第七回全国高等学校総合文化祭」ぼくの一生忘れることのできぬ輝かしい青春の1ページとなりました。

(県立防府高校 2年 三島智之)

[マーチングバンド] 練習の総決算を出し尽くそう

「友情 創造 かがやけ青春」をスローガンに、この夏全国各地から多数の代表選手を迎え、高校総文がわが山口県で開催されました。私達岩国工業高校吹奏楽部は、マーチング部門に山口県代表として出場の機会を得ました。

一学期の始めこのことを聞かされ、今年は例年になくとても厳しいスケジュールになるなど覚悟をしました。休日返上の猛練習、同じことの繰り返し、気の遠くなるような猛暑の中、汗と涙で何度くじけそうになったことか、しかし県代表として恥ずかしくない演技を発表したい、お互いに励まし合い歯を食いしばってがんばりました。8月2日、全校生徒の温かい激励と期待を背にして部員一同は張り切って晴れの開会記念式典に臨みました。私達の演奏した開幕を告げるファンファーレは今でも耳の奥深く鳴り響いているようです。

ひき続いて行われた記念パレードでは全国から参加したマーチングバンドとバトントワーリングの華やかな行進が延々と繰りひろげられ、わが山口県勢は、三田尻、宇部女子、早柄の各女子高校生の華麗なバトンの演技を前後にして堂々の行進を披露し大観衆の声援を受けました。

翌8月3日はいよいよマーチングの発表です。各県代表の優秀な演技に圧倒されないよう、あの苦しかった練習の総決算を今そのまま出し尽くそう。全員が平常心にかえろうと無心に演技をしました。少しは間違いがあったかも知れませんが。しかし私達は県代表として全員がやるだけのことはすべてやり尽くしたという満足感と喜びを胸にして参加各団体との別れを惜しみつつ帰路に着きました。

私達は、この高校総文をとおして得た数々の貴重な体験を心の糧として、今後の高校生活にまた実社会のあらゆる場を生かしていきたいと思っています。

(県立岩国工業高校 3年 藤広 修)

生徒の声

[バトントワーリング]

うちわの風を贈る

バトン部門においてとくに印象深かったのは、成徳女子短大付属高校の、わずか3名による演技、その高度のテクニックに魅了されたことでした。

また、次の開催県である岐阜の関商工高校のポンバトンとバトンの構成も見事で演出の冴えを感じました。その他、2スピン、3スピン等、山口県チームとして学ぶべき点も多かったように思います。

この1年間、山口県チームは厳しい練習に耐え、技をみがき、チームワークを育み^{ほぐ}ました。その長かった、苦しかった練習のあとの、山口大会は一瞬の閃光^{せん}にも以てその幕を閉じました。しかし、わたしたちは、その一瞬の中に、練習の成果を発表し、交流を深め、友情のきずなで結ばれたことに満足しています。

記念パレードのとき、暑い日射しの中で、流れる汗をはじきながら通りすぎていくバトン・トワラーに、パークロードを埋めた市民が、一生懸命うちわの風を贈っていました。あの心のこもったもてなしを遠来の友は決して忘れることはないと思います。

(三田尻女子高校 3年 猪俣美佐絵)

[邦楽・吟詠]

心を洗い清められる

今年の8月、「全国高等学校総合文化祭」が、明治維新の地山口で開催されました。そして、邦楽・吟詠、の部を、我が中村女子高等学校がお手伝いとして参加し、盛大に山口市の県教育会館で行われました。

初め、邦楽や吟詠の事など全くといってよいほど、関心がありませんでした。日ごろ慣れ親しんでいるものとしたら歌謡曲などの、大きく、にぎやかな音です。だから、同じ手伝うなら他の市で行われている演劇や合唱の方が、と思ったものでした。

私は接待の係として裏方で来賓の皆様や係の先生方に気をつかう仕事で本番は忙しくて聴く暇などありませんでした。リハーサルの時、聴いてみると、歌謡曲などとは違い古風な中に落ち着いたここよさが、優しく私の胸を打ったのでした。「心を洗い清められる」とは、こういう状態をいうのだろうか、つかの間、思ったのでした。

全国、北は新潟、南は沖縄の高校生を一堂に集めての祭典は、素晴らしいの一語につきました。

恥ずかしい事に、今までこの様な、全国高等学校総合文化祭大会があったという事を知りませんでした。琴や詩吟など我々高校生にとってお世辞にも身近とは思いませんでしたが、あんなに多くの人が参加していたとはと、改めて日本古来の伝統の重みをおそわったような気がしました。

これからも、多くの高校生が参加し、この大会が有意義なものであって欲しいと思います。舞台に出れないまでも、陰の力で汗びっしょりになって働き、参加できたことを、大変嬉しく思っています。残り少ない学生生活の思い出の一コマとなって残っています。

(中村女子高校 3年 稲富智子)

〔美術工芸・書道・写真〕 人と人との心のふれあい

第7回全国高等学校総合文化祭は、炎天下の8月2日から4日まで、山口市を中心に盛大に挙行されました。本校も「美術工芸、書道、写真」部門に約150名の生徒が、大会役員として参加しました。

8月2日、午前9時30分、県立美術館・県立博物館の両会場において、ファンファーレの音とともに開会式が行われ、美術工芸部門には、本校2年生の岸本真太郎君、書道・写真部門には3年生の谷好恵さんが、それぞれ生徒代表として、あいさつを行い、引き続き、テープカットを行いました。

特に岸本君は、本大会のシンボルマークの選定に応募し、見事一位に選ばれた人です。このデザインは、山口県特産の大内人形をモデルにし、二人の若人が手を取り合い、それを「文化」の「文」の文字で表現したものです。これは、総文の趣旨である「文化部門の創造活動の向上を図ると共に、相互の交流を深める」に合致したもので、その創造力と美的感覚は、審査の席上、高く評価されたそうです。

一方、大会期間中、本校茶道部は、約50名が友情参加し、博物館前で茶席を設け、全国から本大会に参加した人々にお手前を披露したことは、特筆してよいことだと思います。

また、最終日には、講師の先生方の出席を仰ぎ、講評会が開かれ、直接、先生と出品者の生徒の質問、応答が行われ、私達生徒が納得ゆくまで、説明が行われたことは、心のふれあいというものを見たようで、大変感激しました。

3日間という短い間でしたが、私の心には「人と人との心のふれあい」という一言が、今もなお、大きく響いています。本当に充実した意義ある「総文」だったことを嬉しく思います。

(野田学園高校 3年 中野 文)



経過報告

○高校総文の山口県開催の引き受け

全国高等学校総合文化祭（以下「高校総文」という。）の山口県開催を文化庁から要請されたのは、昭和55年4月であった。初め57年度引き受けをとのことであったが、中心都市がないこと、県高校文化連盟がないこと、県高校演劇協議会がないこと等の諸条件から、58年度引き受けとした。以後、高等学校長会への協力要請等を経て、55年12月、山口県が開催を引き受けることについて知事決裁を得た。

○開催準備室の設置及び準備委員会の発足

56年4月1日、山口県教育委員会に開催準備室を設置し、室長（文化課長兼務）以下8人の職員（いずれも兼務）を置く。同年7月10日、教育次長を委員長とし、高校教職員及び関係事務職員30人をもって組織する第7回全国高等学校総合文化祭開催準備委員会が発足する。

○実行委員会及び実行委員会事務局の設置

昭和57年6月1日、実行委員会及び事務局を設置し、委員及び事務局員の任命をする。実行委員の構成は、従前の例によることとしたが、県内にない団体もあり直接的に影響のないものはこれをはずし、35名とし、実行委員会開催は、従前の4～5回を3回にとどめた。第1回は基本的事項の確認、実行委員会・事務局・専門部会等の設置、第2回は、開催要項の決定等を見た。第3回は、総合開会式の前日に行った。

○実行委員会の組織

従来の開催県では、高校総文運営実施の母胎となっていた全県的組織（県高校文化連盟）が本県では未結成であり、結成には時間的にも労力的にもゆとりがない状況であったので、未結成のまま実施することとし、現場第一主義をとった。実行委員会を専門部会と事務局の二本建てとし、前回までの企画委員会、校長協会特別部会、生徒実行委員会等は設置しなかった。

専門部会は、演劇、合唱、吹奏楽・管弦楽、マーチングバンド・バトントワーリング、邦楽・吟詠及び美術工芸・書道・写真の6部会とした。部会長には、各部会運営実施の主管校校長を充て、部員は7～12名の教職員で構成した。なお、専門部会には、140名の教職員を運営委員として各部会に配置し、当日の諸準備や作業に当たった。このうち専門部会副部会長を中心とした推進役5名は、授業時間を軽減し、業務に専念できる態勢がとられた。58年4月に入りオープニング班を設け、記念式典、パレード及び歓迎ひろばの3係を設け、総合開会式業務を推進していった。班員は、マーチングバンド・バトントワーリング及び合唱部会部員がほとんど兼ねた。

事務局の体制は、できるだけ専任者を少なくし、56年度の開催準備室は専任なし、57年度事務局は専任4名、58年度は参事（前文化課長）を加え、専任5名で臨んだ。

○主管校制度の採用

生徒主役の原則に基づき、運営面においても学校現場が動きやすいように、各部門ごとに主管校を定めた。演劇は県立厚狭高校、合唱は県立山口中央高校、吹奏楽・管弦楽は県立防府高校、マーチングバンド・バトントワーリングは県立山口高校、邦楽・吟詠剣詩舞は中村女子高校、

経過報告

美術工芸・書道・写真は野田学園高校とし、総合開会式の記念式典及び歓迎ひろばは県立山口中央高校、記念パレードは県立山口高校がそれぞれ担当することとした。

これに伴って、予算の執行に当たっても、主管校において予算執行できるような体制とした。なお、演劇部門の運営については、会場が宇部市にあり、舞台、照明等の操作等の特殊事情があるため、主管校のほか宇部地区の高校が一致協力してこれに当たった。

○第5回及び第6回高校総文の視察

第7回高校総文の山口県開催が決定し、準備体制確立の策定に資するため、第5回の秋田大会には、合唱73名、吹奏楽43名の出演と美術2点及び書道2点を出品をし、かつ、準備委員会の各部門から2名ずつと事務局職員等の合計22名の視察員を派遣した。また、第6回の栃木大会には吹奏楽86名、邦楽9名、吟詠10名、美術工芸3点、書道3点、写真12点の出演出品、視察団として、実行委員会の専門部員及び事務局員等37名を派遣したほか、主として主管校の生徒会役員等55名を派遣し、生徒による自主的運営体制の確立に資した。

○山口県高校演劇協議会の結成

本県では、県高校演劇協議会（県高演協）が未結成であり、高校総文の共催団体たるべき全国高校演劇協議会にも未加盟であった。このことは、高校総文の演劇部門が全国高演協の行うコンクールを兼ねて行われている事情から、本県では開催不可能に等しい状況となるため、当初、演劇部門は、実施しない方針であった。ところが、高校総文の発足は、全国高校演劇コンクールに由来している旨の文化庁からの指導により、県高演協の結成が緊急の課題となった。

県教育委員会は、さっそく、校長協会等と協議し、結成準備委員会を発足させ、関係者の了解を得ながら、既に結成活躍中の下関、宇部地区の独自性を尊重しつつ、周防地区の一部高校の参加を得て、加盟校20校をもって昭和57年4月、県高演協が結成された。同時に中国高演協及び全国高演協に加盟し、11月には中国高演協研究大会の宇部市開催を引き受け、高校総文の受け入れ態勢を作っていた。

演劇は、第29回全国コンクール及び指導者講習会を包含するために、その運営には、県高演協が設立間もなく、経験の極めて浅い本県の事情にかんがみ、全国高演協と連携を保ちながら従前とは異なった方策をとり入れていった。幕間討論を幕間講評にかえ、前夜祭、大会速報の発行、大会集録の刊行及びVTR作成のとりやめなどである。

○スローガン、シンボルマークなどの募集

高校総文についての理解を深め、参加意識を高めるために、大会スローガン、シンボルマーク、テーマソング（歌詞・曲）及びポスターを制定することとし、57年6月県内高校生を対象として募集した。応募状況は、別表のとおりであるが、このうちの最優秀作品各1点を採用することとし、58年2月に制定し

(別表) 応募状況

種 別	スローガン	ポスター	シンボルマーク	テーマソング (歌詞)	テーマソング (曲)	計
応募校数	7	9	16	13	9	54
応募点数	480	41	238	40	80	879
入選校数	3	3	5	5	5	21
入選点数	3	5	5	6	6	25

経過報告

表彰式を行った。選考には専門家、県文化連盟会長、専門部会(班)長等が当たり、優秀作品各1点を定めたのである。5月、全県下高校等にテーマソング・テープ及びポスターを送付し、大会気運の盛り上げに利用した。

○合同チーム編成での出演

高校総文の開催引き受けが決定して以来、これへの参加をめざす県内各校のクラブ・部活動は、漸次その高まりを見せてきたのであるが、バトントワーリングについては、私学3校が野球応援程度の活動をしているに過ぎず、その技術水準はきわめて低く、地元校として記念パレードへの参加の必要もあり、早急にレベルアップを図る必要が生じた。実行委員会は、関係校と協議し、基礎技術の習得と各校の平均的レベルアップを促進するため、講習会及び合同練習を行った。その回数は9回に及んだが、その過程において、高いレベルの者をもってする県チームの編成が行われるに至った。

また、吹奏楽については、県吹奏楽連盟の協力によりモデルバンド編成の動きが生じ、58年3月のチーム結成以来7回の合同練習が行われた。これらの動きが刺激となって、管弦楽、邦楽及び吟詠においても合同チームを編成しての出演が行われ、技量のレベルアップ、友情の輪の広がり、そして高校総文の盛り上げが加速された。

○参加校の決定

例年どおり、昭和57年11月、各都道府県及び指定都市教育委員会に対し、参加校の推薦依頼をし、58年4月、一応県外参加校の決定通知をしたところであるが、参加推薦校の少ないマーチングバンド及び吟詠剣詩舞については、近隣各県及び出場実績の多い県に対し、引き続き出場推薦方を依頼した。なお、郷土芸能の開催取り止めに伴い、出演希望校は邦楽部門に加えた。

県内参加校については、県教育庁指導課において高校教育研究会や種目団体と協議し、58年5月に決定した。これによって参加(出演、出品)は、延654校8,269人(点)となり、ほぼ、前年並みとなった。残念であったのは、大会を目前にひかえた7月下旬の山陰大水害により、隣県の県立益田高校(合唱)及び益田東高校(邦楽)が参加できなかったことである。これに対し、山口県鴻城高校は歓迎ひろばでの収益金を、県立山口中央高校生徒会は募金を水害見舞金としてこれをきょ出した。

○大会リハーサルとしての山口県高等学校芸術文化祭

本県では、高校における芸術文化活動の発表の場として、昭和54年度から高校芸術文化祭が音楽部門は昭和25年以來の高校連合音楽会と、美術工芸・書道部門は昭和22年以來の学校美術展と合わせ行われていた。高校総文の開催引き受けが決定されてからは、そのリハーサルを意識して大会運営に取り組み、昭和56年度から邦楽・吟詠部門を、57年度から演劇部門と写真を加えて実施した。とくに昭和58年度は、演劇を除く各部門ともオーバーワークとなることは覚悟の上であったが、あえて高校総文前の6月下旬に実施し、貴重な経験を得た。

○宿泊のあっ旋

高校総文参加者の宿泊については、あっ旋手数料負担のこともあり事務局あっ旋の声も聞か

経過報告

れたが、種々検討した結果、旅行業者に任せた方が円滑に進行すると考えられるので、そのあつ旋によることとした。この場合、参加者の申込み上の便宜を考え、1泊2食・税・サービス料込み4,900円（教職員は5,400円）、昼食600円、同一校同一宿舎、参加種目会場地宿泊その他統一条件を提示し、これに合意した4社を指定し、この旨を全参加校に通知した。この結果、指定業者扱いの宿泊者数は、次表のとおりであるが、参加者直接申込みもあるので、その総数は、延べ約10,000名と推計される。

宿泊地別、宿泊者数 —旅行業者扱分— (延人員)

宿泊地	8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	計
山口市	806	2,679	2,803	525	6,813
宇部市	246	321	322	36	925
防府市	—	334	395	57	786
計	1,052	3,334	3,520	618	8,524

○総合開会式の実施ポイント

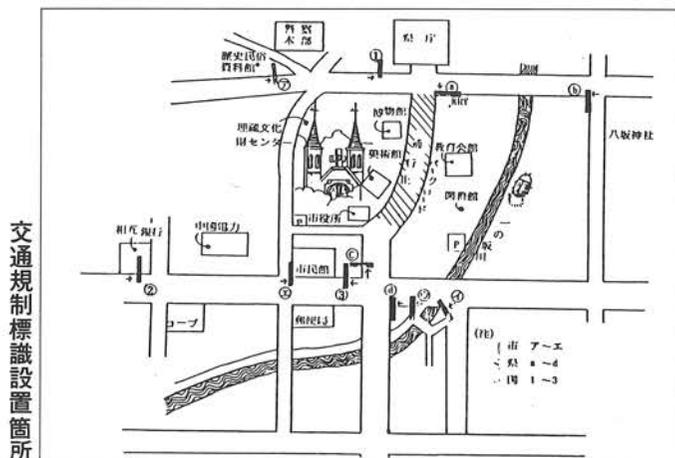
生徒主役と質実な高校総文の趣旨は、総合開会式にこそ生かされるべきであるとの考えから記念式典、記念パレード及び歓迎ひろばの3本立てとした。しかもこれらは各1時間以内として式の冗長に流れることを防ぎ、市民を含め多くの参加を求めたものである。

また、開催時刻を午後3時からとしたのは、記念パレード及び歓迎ひろばを木陰の多くなる夕刻に近づけ、できるだけ暑熱をやわらげようとしたものであり、かつ、県外高校生の参加しやすい時刻としたものである。

総合開会式でもっとも問題となったのは、記念パレードであるが、その進行区間は、文化行事にふさわしい本県が誇る文化ゾーンであるパークロードとした。この区間は、他地区にくらべ迂回路も多く、比較的交通規制も容易であり、駐車場も相当数あることを勘案してのことであったが、全面通行止めとするためには、バス、タクシー業者、一般市民に周知させる必要があるので、警察署の指導に

より事前広報及び周辺の官公庁、会社、住民にもれなくビラを配付し、かつ、街頭標示を11か所に設置した。

(右図参照)



事務局日誌抄

昭和55年度

- 4. 26 文化庁から第7回全国高等学校総合文化祭（高校総文）の開催を要請される
- 4. 30 第3回高校総文（大分大会）の参加運営状況を調査（大分県教委文化課）
- 8. 5 第4回高校総文（石川大会）の参加実施状況を視察（金沢市内）
- 10. 8 第4回高校総文（石川大会）の運営状況を視察調査（石川県教委学校指導課）
- 12. 19 山口県開催について知事決裁を得、文化庁に承諾の回答をする。

昭和56年度

- 4. 1 第7回高校総文開催準備室を文化課内に設置し、準備室職員兼務8名を発令
- 4. 28 文化庁文化普及課と開催について協議（文化庁）
- 5. 2 開催準備室会議 以後57.1.5まで9回開催
- 5. 20 高校総文に係る文化庁活動の実態調査を県内高校等88校に実施
- 7. 14 第7回高校総文第1回開催準備委員会 以後56.11.20及び57.3.2に開催
- 7. 23 開催準備委員会演劇小委員会 以後57.1.25まで6回開催 ほかは1～3回
- 7. 29 第5回高校総文（秋田大会）視察・参加（視察、準備委員等教職員16名、参加、出演～8.2 生徒 116名）（秋田市内）
- 11. 19 文化庁文化普及課から、候補会場の視察並びに指導（山口・防府・宇部市）
- 2. 17 第6回高校総文（栃木大会）準備状況を視察調査（栃木県教委文化課）

昭和57年度

- 4. 1 開催準備室に専任職員4名を配置
- 4. 30 文化庁文化普及課に中間報告と打ち合わせ（文化庁）
- 6. 1 「第7回高校総文開催に当たっての基本的事項」を定める
第7回高校総文実行委員会及び同事務局設置（実行委員会委員35名委嘱、同事務局職員専任4名、兼務5名発令）
- 6. 11 実行委員会（第1回、県内）開催（山泉荘）（組織及び基本的事項等について）
- 6. 17 実行委員会専門部会（美術工芸・書道・写真部会）以後8回開催、その他は、
演劇部会6月30日から6回、合唱部会7月2日から7回、吹奏楽・管弦楽部会6月24日から10回、マーチングバンド、バトントワーリング部会6月29日から7回
邦楽・吟詠剣詩舞部会6月22日から7回このほか、各部会とも小委員会を平均数回開催
- 6. 20 第4回高等学校芸術文化祭（県高文祭）音楽部門開催（光市民ホール）
- 7. 18 第1回バトントワーリング実技合同講習会（早鞆高校）以後、5回開催、別に強化合宿を2回実施
- 7. 20 第7回高校総文スローガン制定「友情 創造 かがやけ青春」
- 7. 29 第6回高校総文（栃木大会）視察・参加（視察 専門部会部員及び引率教職員27名）
～8.3 役員生徒55名、参加 出演生徒105名）
- 8. 6 実行委員会専門部会長会議（山泉荘）（栃木大会視察報告、準備及び取り組み）
- 8. 19 第6回高校総文（栃木大会）の参加・運営状況を視察調査（栃木県教委文化課）
- 8. 27 第4回県高文祭美術工芸・書道・写真部門開催（県立美術館）（～8.29）
- 9. 20 第7回高校総文のシンボルマーク、ポスター、テーマソング（歌詞）募集開始
- 9. 22 第7回高校総文の主催、後援、協賛団体へ協力依頼
- 10. 20 『教育広報』（県教委機関誌、隔月刊）に 県高文祭特集記事掲載
- 11. 10 第7回高校総文宿泊あっせん説明会（県埋蔵文化財センター）
- 11. 14 第4回県高文祭邦楽・吟詠部門開催（中村女子高）
- 11. 16 実行委員会（第2回、全国）開催（県自治会館）（開催要項・日程、準備等）
- 11. 21 第4回県高文祭演劇部門、第20回中国高校演劇研究大会、第1回県高校演劇研究大会
～11.22 開催（宇部市渡辺翁記念会館）
- 11. 24 各都道府県・指定都市教育委員会へ参加推薦依頼の文書発送
- 11. 29 第7回高校総文開催要項及び日程等を決定し、県下高校長等へ通知

12. 10 第7回高校総文のテーマソング（歌詞）制定
 1. 1 『教育だより』（県教委機関紙、月刊）に、高校総文記事掲載、以後7月号まで4回掲載。3. 10『グラフやまぐち』にも掲載、以後9月号まで3回掲載
 1. 4 実行委員会事務局室移転（教育庁等庁舎1階文化課室から2階専用室へ）
 2. 15 第7回高校総文のシンボルマーク、ポスター、テーマソング（曲）制定
 3. 25 県外参加校決定 オープニング班準備会議（山口高校）

昭和58年度

4. 1 実行委員会事務局設置規程の一部改正 事務局長に参事、事務局次長に文化課長を充て、ほかに兼務2名増となる。また実行委員会に監事2名、専門部に運営委員を置き、オープニング班を設ける。
4. 7 講評講師、審査員15名を委嘱
4. 16 教育庁等庁舎屋上に開催PR用大看板を設置
4. 18 参加校校長に対し、宿泊指定業者4社への申込み案内状を送付
4. 26 実行委員会委員の委嘱替え及び監事委嘱。オープニング班員並びに各専門部会追加部員及び各運営委員の委嘱
5. 9 オープニング班会議（県埋蔵文化財センター）以後3回開催
5. 11 実行委員会専門部会（班）長並びに副部会（班）長合同会議（山泉荘）（運営の要点、業務の進捗状況、各部会の課題及び取り組み等について）
5. 12 宇部市で歓迎体制についての協議、以後5. 18山口市、5. 24防府市で協議
5. 13 ポスターを各都道府県・指定都市教育委員会、参加校へ送付
5. 14 テーマソング録音テープを県内高校等へ送付し、PRを要請
5. 25 県内各部門（展示関係を除く）参加校決定
山口市内各関係機関協力要請（山口市役所、商工会議所、教員組合、旅館組合、私学協会等）。以後6. 7宇部市、6. 9防府市で要請
5. 31 交通関係機関との協議（警察署、県土木事務所、陸運事務所、バス協会等）
6. 10 食品衛生関係機関への協力依頼（県環境衛生課、各保健所、病院等）
6. 18 第5回県高文祭合唱・管弦楽部門開催、以後各部門は次のとおり開催
 - ・吹奏楽、マーチングバンド・パトントワーリング、邦楽・吟詠（19日）
 - ・美術工芸・書道・写真 24～26日 高校総文出品作品を選定（24日）
7. 4 美術工芸・書道・写真部門作品搬入受付
7. 12 各部門実施要項を参加校へ送付
PR用リーフレットを都道府県・指定都市教育委員会及び参加校、県内高等学校等並びに開催地三市中学校等に送付
7. 15 総合プログラムを都道府県・指定都市教育委員会及び参加校、県内高等学校等並びに市町村教育委員会等に送付
総合開会式記念式典等への招待状を来賓及び関係機関へ送付
7. 23 三市各会場、駅、道路等に、開催案内看板・標識板等を設置
7. 25 総合開会式記念パレード及びマーチングバンド・パトントワーリング部門のリハーサル。（記念式典及び合唱部門、7. 26その他はそれぞれ前日に行う。）
8. 1 実行委員会（第3回、全国）開催（旅館かめ福）（概況及び経過、参加状況等）
8. 2 第7回高校総文（第1日～第3日）
- ～8. 4 8. 3 第4回全国都道府県高等学校文化連盟連絡協議会開催（山泉荘）
8. 24 実行委員会専門部会合同会議（山口放送KRYビル）（反省、問題点等について）
9. 13 『美術工芸・書道・写真作品集』を参加校及び関係機関へ送付
10. 11 高校総文記録VTRカセットテープを各部門主管校等に送付
10. 20 『教育広報』10月号に高校総文特集記事掲載
10. 25 『文化庁月報』10月号に高校総文結果報告掲載
12. 10 『第7回全国高等学校総合文化祭の記録』を発行、関係機関に送付（予定）

山口県高等学校芸術文化祭のあゆみ

年度	昭 54	昭 55	昭 56	昭 57	昭 58
回数	1	2	3	4	5
種	音 楽	音 楽	音 楽	音 楽	合 唱・管 弦 楽 吹奏楽・マーチングバンド パトントワーリング
目	美術工芸・書道	美術工芸・書道	美術工芸・書道 邦 楽・吟 詠	美術工芸・書道・写真 邦 楽・吟 詠 演 劇	美術工芸・書 道・写 真 邦 楽・吟 詠 演 劇



高校総文を顧みて

第7回全国高等学校総合文化祭は、山口測候所開設以来という猛暑の中で開幕された。

この暑さは、閉幕までの3日間、8月2日34.9度、3日36.3度、4日37.5度と記録を更新しながら続いたのであるが、山口県下3市7会場に集まった全国654校8,300人の燃え上がる若きエネルギーは、キラキラと照りつける太陽と、むせ返えるような地面の熱反射を圧倒した形で、生徒も教職員も観客の一般市民をも等しく感動の渦に巻き込んだ。

今、私たちは、この高校総文によって得られたものは、何であったか静かに考えてみたい。

高校芸術文化活動の質的向上と拡大

本県で高校総文を引き受けることが決定してから、これへ出演作品を目指す県下の高校の芸術文化クラブ・部活動は、日を追うにしたがって熱が入っていった。

従来、本県の高校における芸術文化クラブ・部活動の発表は、音楽、美術を除いては、その大部分が「校内文化祭」にとどまり、体育関係のそれが広く県や国の段階に及んでいるのに比べ、その機会に恵まれていなかった。高校総文の開催を目標に県の高校芸術文化祭もその部門・種目を広げて行ったこともあって、これへの参加校参加者も急増して、それだけに出演作品意欲も確実に高まってきた。

また、合同演奏、合同合唱などの形による高校総文への出演は、その過程における合同練習の成果が参加の生徒、教師によって各校に持ち帰られることとなり、県下全般の技量向上に大きく寄与した。

高校総文が県内で開催されたことにより、県下多くの高校生が、同世代の者が行う全国的ハイレベルの演技や創作に接することができたことは、県内高校の芸術文化活動に大きな刺激となって、これからの躍進が期待されるとともに、芸術文化クラブ・部活動への関心が深まり、これが生徒の学校生活に豊かさをもたらすものと期待される。

ちなみに、県下の高校総文参加校は、出演、出品、役員参加をあわせ70校に上り、全県下の



第2回実行委員会

ま と め

公私立高校84校中のほとんどにわたることとなった。

相互理解から友情と連帯感の高まりへ

高校総文という全国大会の開催をひかえて、これへの出演作品そして大会運営に費やすエネルギーは、なかなかのものではなかった。練習に準備に師弟ともども一つの目標に向かって情熱を燃やすことは、素晴らしいことであり、そこに教師と生徒の間には信頼感が、生徒と生徒の間では連帯感が生まれる。

高校総文の気運醸成のため、県下高校生からスローガン、シンボルマーク、テーマソングの作詞と作曲等の募集を行ったが、その最優秀作の作者は、期せずして、公立と私立、普通校と職業校の生徒によるものに分かたれ、学校間における相互理解を進める端緒となったのであるが、さらにモデルバンド、混声合唱等の合同練習、舞台設営その他の準備のための共同作業が進み、大会当日における各校の熱演、秀作ぶり、はたまた、会場世話役の献身的活躍ぶりを直接目の前にして、それまでの学校間の相互認識は、改善を余儀なくされたところである。

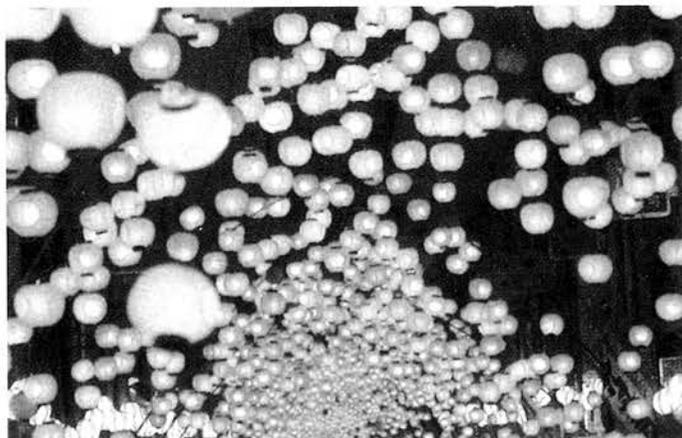
それだけでなく、「歓迎ひろば」、「交歓広場」をはじめ各会場における生徒間の交歓は、それが生徒自身の発想と心づかいによるものだけに、大きく友情の輪を広げ、そこには、連帯感の稀薄が嘆かれる現代若者の姿は、全く認められなかった。

一般市民の高校教育への理解

高校総文の会期中は、炎天下にもかかわらず、どの会場もほぼ満席状態で、一般市民の姿も多数見受けられた。

まず、総合開会式の記念式典におけるわき上がるような460人の慶祝演奏は、満場を感動させ、これに続く記念パレードでは、灼熱の太陽と焦げつくような地面の照り返しに扱まれながらの演技にもかかわらず、華麗かつダイナミックで、最後まで頑張る若いエネルギーの発散を披露し、沿道を埋めた大観衆は、感激的なかぶりさえ覚えさせられた。

一方、各会場で展開された演技や展示作品は、いずれ劣らぬ高い芸術文化の水準を示し、し



七夕ちょうちんまつり 10万個の火の河(山口市)

かも高校生らしい情熱と誠実さがヒシヒシと感じられるものばかりであった。

これに加えて、大会運営の裏方として、受付案内、進行、会場内外の整理を受け持った地元高校生のテキパキとした働きも光って、日ごろ、高校教育の実態に触れる機会が少ない一般市民に予想外の好感を与え、現代高校教育への理解

ま と め

を呼ぶことができた。

特に、開催地教育委員会の努力により観覧・鑑賞した多くの中学生に高校総文が与えた影響として、技量面はもちろん、精神面においても明るい芽生えがみられるとの声が関係者の間から聞かれるのは、誠に嬉しいことである。

多くの善意に包まれて

第7回全国高等学校総合文化祭が大方の評価を得て成功裏に終わることができたのは、県下多数の教職員、高校生の献身的な努力によることは、論をまたないが、さらにこれを支えたのが、開催地市当局、会場管理者、商店会、旅館組合それに警察署、保健所、医療機関等の幅広い協力支援の賜物である。

いつの時代も若者にかかる期待は大きい。全国の高校生を迎えるに当たり、この「やまぐち」を青春の楽しい思い出の地として滞在してもらうため、実行委員会は、関係者に働きかけたところ、期せずして、協力支援の盛り上がりを得たのである。

各会場の管理者は、高校総文のため、使用時間、施設設備の管理上の制約について、特別の配慮を加え、宇部市渡辺翁記念会館は照明設備の強化改善、教育会館は通路確保工事、美術館は常設展示場の提供などのほか、ほとんどの会場は全館貸切り、さらに記念式典及び合唱、演劇、吹奏楽・管弦楽会場については隣接施設を含めての使用の便宜を図ってもらい、これらの会場づくり、閉会後の撤去作業から後始末まで関係職員の手伝いがあった。このために、実行委員会は、労力的、経費的に大きな負担軽減を得たのである。

歓迎事業についても、各市ともに懸垂幕や横断幕の掲示がされ、山口市では8月7日の七夕ちょうちん祭りを特に総合開会式の夜にも行ったが、これは前例のないことであった。宇部市では、商店街でのポスター、ステッカーの掲示、会場における名産品の即売を行い、防府市では、商店会招待により、5か所においてプロムナードコンサートが催され、他県高校生との交歓が行われた。

暑いさ中ではあるし、食中毒の発生防止には、特に留意したのであるが、保健所の係員は、事前の検査指導に深夜に及ぶ活躍を続け、変質しやすい弁当については、献立の変更を指導をするなどの努力によって、記録的な暑さの中でただの一件の事故が起こらなかったことは、誠に感謝にたえないところであった。

記念パレードは、行進区間を全面通行禁止としたのであるが、警察署及び国、県、市にわたる各道路管理者の指導と路線バス、タクシー、地域住民の幅広い理解と協力によりスムーズに行われた。また、パレード終了後、参加者全員に配られたジュース、牛乳、乳酸飲料は、関係業者の善意による提供であった。

地理、交通、観光の案内は、パンフレットの事前配布を含め、県及び各市観光協会の協力によるものであった。

以上のような各方面の協力支援は、未来に富む高校生の祭典に対する暖かい心やりに発した

ま と め

ものと感謝にたえないところである。

反省すべき点と今後の課題

高校総文への途上には、いろいろな問題があり、多数の関係者の英知と努力とにより、ともかく克服したのであるが、今にして思えば、反省すべき点や課題も無きにしもあらずである。

まず、専門部会と事務局との間で、必ずしも意思疎通が充分でなかつた点が認められた。各部門間の不均衡調整や経費節減のため、心ならずも取り止めないし縮 しなければならなかつた事業について、事前における充分な理解が末端まで浸透していないことがあったこと。また、専門部会間での見通しや問題のつめが中途半端のものがあつたりして、解決に無駄なエネルギーを消費したことがあったこと。

広報については、県、市の広報紙・誌はじめテレビ、新聞等の既存広報媒体の活用を原則としたのであるが、実行委員会作成の唯一の広報であるリーフレットの配布が今少し早い時期に行われたら、より効果を挙げたものと思われる。大会関係の報道については、地元報道機関の協力により、県内向けについては相当なスペースをさかれたものの、全国向けについては、高校総文は、演劇を除く他の種目すべてがコンクールなどの成績主義をとってなく、ニュースバリューに欠けることもあつてか、大会開催の当事者としては、いささか物足りなさを感じるところで、高校における芸術文化活動振興のため、文化庁あたりで相応の努力をお願いしたいところである。

出演校の動静把握は、大会運営把握上重要なことであるが、宿泊、交通のあつ旋は、旅行社にまかせていたが、旅行社のあつ旋によらず来山した出演校も相当あり、宿舎の把握が遅れたことにより、保健所は食中毒予防措置に難渋した。

高校文化連盟の組織化については、本県の場合、時間的、労力的な関係で今回は積み残したのであるが、今後、改めて検討を始める必要があると考える。

＊ ＊ ＊

以上、高校総文から得たものとして、その成果や反省点、課題等を述べたのであるが、概括すれば、高校総文が本県に残した足跡は、意外に大きく、ここで示した高校生と教師たちのエネルギーは、芸術文化の振興からさらに高校活性化への契機となったことを確信するとともに、今後における高校総文の更なる飛躍を祈念するものである。



第7回全国高等学校総合文化祭種目別会場期日及び参加状況	139
(付) 年次別参加校数及び参加人員	
◇ 種目別参加校数(都道府県別)	140
◇ 種目別参加人数(点)一覧(都道府県別)	141
◇ 県内学校別参加者数	142
◇ 開催に当たっての基本的事項	144
◇ 開催要項	145
◇ 実行委員会設置要項	146
◇ 実行委員会事務局設置規程	147
役員名簿 { 実行委員会委員、専門部会部員、運営委員、主管校役員 生徒役員、準備委員会委員、事務局員、準備室員 }	148
全国高等学校総合文化祭年次別、種目別参加状況	161
第4回全国都道府県高等学校文化連盟連絡協議会の報告	162
報道記事から	165
スローガン・シンボルマーク・ポスター	169
テーマソング	170
総合プログラム、各部門プログラム等	171

資 料

第7回全国高等学校総合文化祭 種目別会場、期日及び参加状況

種 目	会 場	期 日	出 演 ・ 出 品						役員数 (教員 生徒)	観覧者数 (約)
			県 外		県 内		計			
			校数	人(点)数	校数	人(点)数	校数	人(点)数		
総合開会式 式典 パレード ひろば	山口市民会館 パークロード 美術館広場	8月2日	17	544	25	1,050	42	1,594	197	12,900
演 劇	宇部市 渡辺翁記念会館	8月2日 ～4日	10	319	1	22	11	341	194	4,800
合 唱	山口市民会館	8月3日	26	1,363	11	664	37	2,027	199	1,800
吹 管 奏 弦 楽 楽	防府市公会堂	8月3日 ～4日	32	1,612	21	428	53	2,040	238	2,800
マーチングバンド パトントワーリング	県 体 育 館	8月3日	19	590	6	245	25	835	267	3,300
邦 楽	県教育会館	8月4日	36	430	9	77	45	507	134	800
吟 詠 ・ 剣 詩 舞	県教育会館	8月2日	31	299	4	73	35	372		500
美 術 ・ 工 芸	県立美術館	8月2日 ～4日	145	165	24	73	169	238	228	2,700
書 道	県立山口博物館	8月2日 ～4日	113	119	24	38	137	157		2,400
写 真	県立山口博物館	8月2日 ～4日	87	128	13	30	100	158		2,400
計			516	5,569	138	2,700	654	8,269	1,457	34,400

(注) 数字は全て延べ数による

第7回全国高等学校総合文化祭

年次別 参加校及び参加人員

回	年	開催県	期 間	参加 校数	参加人員
1	昭52	千 葉	7 ₃₁ ～8 ₃ ・4日	93	2,900
2	53	兵 庫	8 ₂ ～8 ₈ ・7日	401	4,263
3	54	大 分	8 ₁ ～8 ₇ ・7日	437	4,922
4	55	石 川	8 ₅ ～8 ₁₀ ・6日	536	6,256
5	56	秋 田	7 ₂₉ ～8 ₂ ・5日	527	7,367
6	57	栃 木	7 ₂₉ ～8 ₃ ・6日	653	8,854
7	58	山 口	8 ₂ ～8 ₄ ・3日	654	8,269



資 料

第7回全国高等学校総合文化祭種目別参加校数(都道府県別)

都道府県名	総合開会式	演劇	合唱	吹奏楽 管弦楽	マーチン グバンド	バントワ ーリング	邦 楽	吟 詠 剣詩舞	美 工	術 芸	書 道	写 真	計
北海道		1	1	1					3	5	3		14
青森	1		1			1			3	3	2		11
岩手			1	1					5	3	4		14
宮城				2					2	3			7
秋田			1						3	3	10		17
山形	1	1	1	1		1			4	3			12
福島									2	2			4
茨城				1					2	2			5
栃木				1		2	1	7	5	3	9		28
群馬			1						2	3			6
埼玉	2	1	1	1	1	1	3		3	1			14
千葉			1	1			1	2					5
東京	1	2	1	1		1	7	1	2	3			19
神奈川							1	1	2	2			6
新潟			1				1	1	4	3			10
富山									2	3	1		6
石川			1				7	8	3	2	6		27
福井									2	1			3
山梨			1	1					3	3			8
長野				3					1	3	3		10
岐阜	2		2			1			7	3	3		18
静岡			1	1			1		3	3			9
愛知		1					2	2					5
三重					2	1			3	3	5		14
滋賀			1						3	3	5		12
京都			1				1		3	1			6
大阪									6	3			9
兵庫	2	1	1	4	1	1	4		6	6			26
奈良									5	3	1		9
和歌山									4	3	8		15
鳥取				1			1		1				3
島根				1				1	6	3	9		20
岡山				1					3		5		9
広島	1	1	1	1		1			6	3	3		17
徳島		1	1						3	3	3		11
香川			1						3	3	1		8
愛媛			1	2			1		3	3			10
高知	1			1									2
福岡		1	2	2					5	5			15
佐賀									4	3			7
長崎									5				5
熊本	1		1	2	1		1		3	3	4		16
大分	3			1	1	2	3	8	2	3			23
宮崎	1			1	1				2	2	2		9
鹿児島			1						3	3			7
沖縄	1						1		3				5
小計	17	10	26	32	7	12	36	31	145	113	87		516
山口	25	1	11	21	1	5	9	4	24	24	13		138
合計	42	11	37	53	8	17	45	35	169	137	100		654

資 料

第7回全国高等学校総合文化祭種目別参加人数(点)一覧(都道府県別)

都道府県名	総合開会式	演劇	合唱	吹奏楽 管弦楽	マーチン グバンド	バトントワ ーリング	邦楽	吟詠 剣詩舞	美工 芸術	書道	写真	計
北海道		30	47	53					3	5	3	141
青森	17		53			17			3	3	2	95
岩手			51	66					5	3	5	130
宮城				21					4	3		28
秋田			26						3	3	10	42
山形	9	68	39	43		9			4	3		175
福島									2	3		5
茨城				65					2	2		69
栃木				67		18	10	39	5	3	9	151
群馬			41						2	3		46
埼玉	64	27	66	60	49	15	39		3	3		326
千葉			52	58			21	89				220
東京	30	53	65	52		13	60	2	2	3		280
神奈川							10	32	2	2		46
新潟			70				23	12	4			113
富山									3	3	6	12
石川			34				17	17	3	2	6	79
福井									2	3		5
山梨			55	70					3	3		131
長野				114					3	3	16	136
岐阜	20		126			25			16	3	5	195
静岡			33	66			37		3	3		142
愛知		20					20	22				62
三重					77	42			3	3	5	130
滋賀			57						3	3	9	72
京都			70				17		3	1		91
大阪									10	3		13
兵庫	120	18	65	124	82	33	49		6	6		503
奈良									5	3	2	10
和歌山									5	3	10	18
鳥取				52			27		1			80
島根				50				40	6	3	9	108
岡山				54					3		5	62
広島	20	43	55	60		16			6	3	6	209
徳島		36	25						5	3	3	70
香川			100						5	3	4	110
愛媛			46	118			10		1	3		180
高知	63			54								117
福岡		24	75	144					5	5		253
佐賀									5	3		8
長崎									5			5
熊本	44		53	115	44		18	46	3	3	4	284
大分	120			62	74	47	50		2	3		404
宮崎	29			44	29				2	2	9	115
鹿児島			59						3	3		65
沖縄	8						22		3			33
小計	544	319	1,363	1,612	355	235	430	299	165	119	128	5,569
山口	1,050	22	664	428	60	185	77	73	73	38	30	2,700
合計	1,594	341	2,027	2,040	415	420	507	372	238	157	158	8,269

資 料

第7回全国高等学校総合

学 校 名	教 員				生 徒			計
	専門部員(冊)	運営委員	主管校役員	小 計	役 員	出演者・出品者	小 計	
久 賀		1		1		8	8	9
岩 国	1	2		3		14	14	17
岩 陽		2		2		4	4	6
岩 国 商 業						40	40	40
岩 国 工 業	1			1		61	61	62
広 瀬		1		1		3	3	4
高 森		1		1		57	57	58
柳 井		2		2		67	67	69
柳 井 工 業						1	1	1
熊 毛 南		2		2		1	1	3
熊 毛 光		2		2		46	46	48
熊 毛 北		1		1				1
下 松	1			1		20	20	21
下 松 工 業		1		1		1	1	2
徳 山	2	2		4		39	39	43
徳 山 北	1			1		2	2	3
徳 山 工 業						1	1	1
佐 波		1		1				1
防 府	4	8	8	20	128	153	281	301
防 府 西		1		1		3	3	4
防 府 商 業		1		1	52		52	53
山 口	7	14		21	320	54	374	395
山 口 中 央	8	16		24	213	54	267	291
山 口 農 業	1	1		2		4	4	6
宇 部	3	2	2	7	26		26	33
宇 部 中 央	1	3	1	5	24	55	79	84
宇 部 西		3		3	33	5	38	41
宇 部 商 業		1		1	10		10	11
宇 部 工 業	1	1		2	10	3	13	15
小 野 田		1		1		7	7	8
小 野 田 工 業	1			1		1	1	2
厚 狭	5	1		6	13	22	35	41
美 祢	1			1		10	10	11
大 嶺						1	1	1
田 部		1		1				1
西 市		1		1				1

文化祭県内学校別参加者数

学 校 名	教 員			生 徒			計	
	専門部員(冊)	運営委員	主管校役員	小 計	役 員	出演者・出品者		小 計
豊 浦		1		1		6	6	7
長 府		2		2				2
下 関 西	1	1		2		57	57	59
下 関 南	2			2		78	78	80
下 関 第 一	1	3		4		3	3	7
下 関 中 央 工 業		1		1		1	1	2
下 関 工 業	1	3		4		20	20	24
響		2		2		4	4	6
豊 北		1		1		7	7	8
大 津	1	1		2		16	16	18
水 産		1		1				1
萩		2		2		65	65	67
萩 商 業						1	1	1
萩 工 業	1	1		2		11	11	13
徳 佐		1		1		7	7	8
奈 古		1		1				1
下 関 商 業		3		3		2	2	5
高 水		2		2		2	2	4
柳 井 学 園						9	9	9
聖 光		1		1		22	22	23
山 口 県 桜 ケ 丘	1	1		2		11	11	13
三 田 尻 女 子	2	2		4		32	32	36
多 々 良 学 園		1		1	10	1	11	12
中 村 女 子	3	14		17	110	8	118	135
野 田 学 園	3	11	17	31	234	54	288	319
山 口 県 鴻 城	1	2		3	4		4	7
宇 部 鴻 城		2		2	4		4	6
宇 部 女 子	2			2	10	22	32	34
香 川		3	2	5	14	5	19	24
サ ビ エ ル		2		2	12		12	14
梅 光 女 学 院	1	1		2				2
早 鞆	1	2		3		21	21	24
下 関 女 子 短 期 大 学 付 属						7	7	7
萩 光 塩 学 院						2	2	2
総 計	59	141	30	230	1,227	1,211	2,438	2,668

第7回全国高等学校総合文化祭開催に当たっての基本的事項

(昭和57年5月7日) (昭和57年6月8日)
(教育長決裁) (一部改正)

1 目的

第7回全国高等学校総合文化祭(以下「高校総文」という)は、全国都道府県代表の高等学校生徒による高等学校文化部の発表会を総合的に開催し、創造活動の向上充実を図るとともに、相互の交流を深めることにより、高等学校における芸術文化活動の振興に資することを目的とする。

2 主催、後援及び協賛

高校総文の主催、後援及び協賛は、別紙1によるものとする。

3 開催期日及び開催地

高校総文は、夏期休業中山口・防府及び宇部市内において開催するものとする。

4 実施部門(開催種目)

- (1) 高校総文の実施部門は、全国の高等学校生徒の芸術文化活動状況を参考に、関係機関・団体と協議のうえ第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会に諮って決定するものとする。
- (2) 各実施部門の開催に先立ち、総合開会式等を実施するものとする。

5 開催日数

高校総文の開催日数は、1部門1日とする。ただし、演劇、美術・工芸、書道及び写真は3日間とする。

6 出演(品)者

高校総文の出演(品)者は、各都道府県教育委員会教育長が推薦するものとする。ただし、演劇は、地区代表校とする。

7 実行委員会の設置

高校総文を実施するに当たり、実行委員会を設置する。

8 大会テーマ等

高校総文についての理解を深め、参加意識を高めるために、大会テーマ・シンボルマーク、テーマソング及びポスターを制定する。

なお、制定に当たっては、県内の高等学校生徒を対象に公募するものとする。

9 その他

- (1) 高校総文の企画・運営に当たっては、高校総文が高等学校生徒の文化部・クラブ活動の発表の場であることを十分配慮し、教師、生徒が参加しやすいような条件の整備につとめるものとする。
- (2) 企画部門は、山口県教育委員会が、実施部門は実行委員会の専門部会が中心となってこれを運営する。

(別紙1)

- (1) 主催 山口県 山口県教育委員会 宇部市 山口市 防府市 宇部市教育委員会 山口市教育委員会 防府市教育委員会 山口県高等学校長協会 全国高等学校演劇協議会 全日本音楽教育研究会高等学校部会 全国高等学校美術工芸研究会 全日本高等学校書道教育研究会 全国高等学校箏曲連盟
- (2) 後援 文化庁 都道府県教育長協議会 全国高等学校長協会 山口県高等学校教育研究会 山口県合唱連盟 山口県吹奏楽連盟 山口県邦楽連盟 山口県吟剣詩舞総連盟 山口県文化連盟 日本放送協会
- (3) 協賛 全日本合唱連盟 全日本吹奏楽連盟 全日本マーチングバンド、バトントワーリング連盟 日本三曲協会 全日本アマチュア演劇協議会 全日本書写書道教育研究会 日本吟剣詩舞振興会 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 サンケイ新聞社 中国新聞社 西日本新聞社 時事通信社 共同通信社 日本教育新聞社 山口放送 テレビ山口 山口新聞社 広島鉄道管理局 山口市交通局 山口商工会議所

第7回全国高等学校総合文化祭開催要項

1 趣 旨

全国都道府県代表の高等学校生徒による高等学校文化部門の発表会を総合的に開催し、創造活動の向上充実を図るとともに、相互の交流を深めることにより、高等学校における芸術文化活動の振興に資する。

2 主 催・後 援・協 賛

(1) 主 催

山口県、山口県教育委員会、宇部市、山口市、防府市、宇部市教育委員会、山口市教育委員会、防府市教育委員会、山口県高等学校長協会、全国高等学校演劇協議会、全日本音楽教育研究会高等学校部会、全国高等学校美術工芸研究会、全日本高等学校書道教育研究会、全国高等学校箏曲連盟

(2) 後 援

文化庁、都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、日本放送協会、山口県高等学校教育研究会、山口県合唱連盟、山口県吹奏楽連盟、山口県邦楽連盟、山口県吟詠詩舞道総連盟、山口県文化連盟

(3) 協 賛

全日本合唱連盟、全日本吹奏楽連盟、全日本マーチングバンド・バトントワーリング連盟、日本三曲協会、全日本アマチュア演劇協議会、全日本書写書道教育研究会、日本吟詠詩舞振興会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、サンケイ新聞社、中国新聞社、西日本新聞社、時事通信社、共同通信社、日本教育新聞社、山口放送、テレビ山口、山口新聞社、広島鉄道管理局、山口市交通局、山口商工会議所

3 期 日

昭和58年8月2日（火）～8月4日（木）

4 会 場

- | | | |
|----------------|---------------------|-----------------|
| (1) 山口市民会館 | (〒753 山口市中央2-5-1) | ☎ 0839-23-1000) |
| (2) 宇部市渡辺翁記念会館 | (〒755 宇部市朝日町8-1) | ☎ 0836-31-7307) |
| (3) 防府市公会堂 | (〒747 防府市緑町1-9-1) | ☎ 0835-23-2211) |
| (4) 山口県立美術館 | (〒753 山口市亀山町3-1) | ☎ 0839-25-7788) |
| (5) 山口県立山口博物館 | (〒753 山口市春日町8-2) | ☎ 0839-22-0294) |
| (6) 山口県教育会館 | (〒753 山口市大手町2-1-30) | ☎ 0839-22-0383) |
| (7) 山口県体育館 | (〒753 山口市中国園町7-1) | ☎ 0839-22-2129) |

5 内 容

- (1) 演劇——地区代表校による演劇上演
- (2) 合唱、吹奏楽・管弦楽、マーチングバンド、バトントワーリング、邦楽、吟詠詩舞
——各都道府県・指定都市教育委員会から推薦された優秀校による演奏及び演技発表
- (3) 美術・工芸、書道、写真
——各都道府県・指定都市教育委員会から推薦された優秀作品の展示

6 実施組織

行政機関、教育機関、関係団体からなる実行委員会を設置し、この事務局を山口県教育庁文化課（〒753 山口市後河原松柄150-1）におく。

第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会設置要項

第1 設 置

第7回全国高等学校総合文化祭（以下「総合文化祭」という。）を実施するため、第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会（以下「実行委員会」という。）を設置する。

第2 任 務

実行委員会は、総合文化祭の事業を管理し、これを執行する。

第3 構 成

- 1 実行委員会は、別紙第1に掲げる者を委員及び監事をもって組織する。
- 2 委員及び監事は、実行委員長（以下「委員長」という。）が委嘱する。
- 3 実行委員会の組織は、別紙第2のとおりとする。

第4 役 員

- 1 実行委員会に、委員長及び副委員長を置く。
- 2 委員長は、山口県教育委員会教育長をもって充てる。
- 3 副委員長は、委員の中から委員長が委嘱する。

第5 部 会

- 1 実行委員会に、業務の具体的な処理を行うため、部会及び班を設置する。
- 2 部会に、部会長、副部会長及び部員並びに運営委員を、班に班長、副班長及び班員並びに運営委員を置く。
- 3 部会長、副部会長及び部員並びに運営委員、班長、副班長及び班員並びに運営委員は、委員長が委嘱する。

第6 会 議 の 招 集

会議は、委員長が招集する。

第7 設 置 の 期 間

実行委員会の設置期間は、この要項の実施の日から業務の終了する日までとする。

第8 会 計

本会の会計に関し必要な事項は、委員長が定める。

第9 事 務 局

実行委員会の業務を処理するために、山口県教育委員会文化課に事務局を置く。

第10 そ の 他

この要項に定めるもののほか、実行委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要項は、昭和57年6月1日から施行する。

この要項は、昭和58年4月1日から施行する。

(別紙略)

第7回全国高等学校総合文化祭実行員会事務局設置規程

第1 趣 旨

この規程は、第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会設置要項第9に基づき、全国高等学校総合文化祭実行委員会事務局（以下「事務局」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

第2 組 織

- 1 事務局に企画班及び指導班を置く。
- 2 班の分掌事務は、別表のとおりとする。(略)

第3 職 員

- 1 事務局に次の職員を置く。
 - (1) 事務局長
 - (2) 事務局次長
 - (3) 事務局員
- 2 事務局長、事務局次長及び事務局員は、第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会委員長が委嘱する。

第4 職 務

- 1 事務局長は、第7回全国高等学校総合文化祭（以下「総合文化祭」という。）の運営に関するすべての事項をつかさどる。
- 2 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長不在のときは、その職務を代理する。
- 3 事務局員は、第2に定める班に所属し、当該班の業務を処理する。

附 則

この規程は、昭和57年6月1日から施行する。

この規程は、昭和58年4月1日から施行する。

役員名簿

実行委員会委員

委員長	山口県教育委員会教育長	井上謙治
副委員長	山口県教育委員会教育次長	徳丸泰弘
	山口県高等学校長協会理事長オープニング班長 (山口高等学校長)	為貞千速
委員	全国高等学校長協会会長	増田信
	全国高等学校演劇協議会長	内木文英
	全日本音楽教育研究会高等学校部会長	清野澄夫
	全国高等学校美術工芸研究会会長	生田實(杉野正)
	全日本高等学校書道教育研究会会長	大河原三郎
	全国高等学校箏曲連盟理事長	三輪十次
	日本三曲協会常任理事	島原帆山
	全国都道府県・指定都市教育委員会文化 文化財行政立管課長協議会長	福恵璋
	山口県文化連盟会長	竹原哲史
	◇ 邦楽連盟会長	高取利雄
	◇ 吟剣詩舞道総連盟理事長	宮崎典風(西村重則)
	◇ 吹奏楽連盟理事長	浅原秀雄
	◇ 合唱連盟理事長	末廣正巳
	◇ 高等学校教育研究会会長	町田晃

役員名簿

総合文化祭演劇部会長 (厚狭高等学校長)	大石力生
総合文化祭合唱部会長 (山口中央高等学校長)	原 碩造
総合文化祭吹奏楽・管弦楽部会長 (防府高等学校長)	町田 晃
総合文化祭マーチングバンド・パトントワーリング部会長 (三田尻女子高等学校長)	小澤 友太郎
総合文化祭邦楽・吟詠部会長 (中村女子高等学校長)	津田 正人
総合文化祭美術工芸・書道・写真部会長 (野田学園高等学校長)	野村 和男
山口県警察本部交通部参事官兼交通企画課長	杉野 武夫(岡田 定)
◇ 警察本部交通部交通規制課長	山本 善信
◇ 山口警察署長	仲山 和夫(河野 公)
◇ 防府警察署長	早川 博(脇坂芳徳)
◇ 宇部警察署長	平 和生
◇ 総務部学事文書課長	田中 允
◇ 教育委員会総務課長	中原 昭治(志賀光雄)
◇ 教育委員会教職員課長	井上 洋
◇ 教育委員会指導課長	大井 政雄
山口市教育委員会教育長	山城 右二
防府市教育委員会教育長	新見 浩三
宇部市教育委員会教育長	長谷川 義彦
監 事 山口県高等学校長協会監事 (防府商業高等学校長)	桜井 勉
山口県高等学校長協会監事 (宇部商業高等学校長)	村川 齊

役員名簿

専 門 部 会 部 員 等

1 オープニング班

班	長	為 貞	千速 (山 口)				
副	班	長	原 碩造 (山口中央)	松原 弘 (山 口)	阿部邦二郎 (山口中央)		
係	(係長)	員					
	式 典	甲田 俊夫 (山口中央)	木村 愛昭 (山口中央)	山本 恒夫 (山口中央)	坂田 哲夫 (下関南)		
		松永 忠雄 (下関第一)					
	パレード	国嶋 洋治 (岩国工)	中島 俊泰 (山 口)	三光 慶治 (山 口)	縄田 正規 (美 祿)		
		友永 次郎 (下関西)					
	広 場	金子 唯親 (山 口)	紙村 謙 (山 口)	兼石 俊明 (山 口)	中井 征夫 (山口中央)		
		清水 秀之 (山口中央)					

運 営 委 員

	式 典	竹内百合人 (山口中央)	高木 重誠 (山口中央)	川島 玉恵 (山口中央)	川本 朋子 (山口中央)		
		江田 忠雄 (岩 国)	藤井 哲雄 (柳 井)	村上真哉子 (熊毛南)	藤井 至子 (光)		
		那須 康子 (徳 山)	富永 努 (山口中央)	岡澤 忠雄 (山口中央)	徳政 恒夫 (山口中央)		
		矢原 和文 (山口中央)	大久保信夫 (山口中央)	阿部 弘海 (山口中央)	藤野 幸子 (山口中央)		
		平井紀富美 (山口中央)	鍋井 恵子 (山口中央)	中尾 綾子 (小野田)	藤井 重孝 (長 府)		
		八木 資義 (大 津)	有富 美子 (萩)	池田 瑞江 (高 水)	石島 栄子 (野田学園)		
	パレード	徳田 保夫 (山 口)	亀山 俊弘 (山 口)	大上 育也 (山 口)	角中悦太郎 (久 賀)		
		福田 望 (熊毛北)	上田 秀実 (下松工)	椎木 浩二 (佐 波)	河合 清治 (山 口)		
		亦野 豊広 (山 口)	平中 観 (山 口)	久芳 善人 (山 口)	田辺トモ子 (山 口)		
		粟田 幸江 (山 口)	高見沢玲子 (山 口)	来嶋 邦雄 (西 市)	幡部 久江 (厚 狭)		
		権代 敏満 (三田尻女子)	永田 笙子 (三田尻女子)	山崎 嘉武 (早 瀬)			
	広 場	竹内 通弘 (山 口)	山下 亮 (山 口)	重藤 晃 (山口中央)	岡村 慎二 (山口中央)		
		金子いほ子 (山口中央)	吉松 忠夫 (山口農)	徳久 貢 (徳 佐)	木山 成芳 (野田学園)		
		名護屋孝純 (中村女子)	原田 幸政 (県鴻城)				

生 徒 役 員

山口高校	小野 弘明	金子 祐	河村 晃	竹田 浩史	片平 和伸
	保美 周志	山本 壮央	田中 康史	宝迫 一郎	浜本 満男
	井上 美香	大田 恵子	岡 陽子	木村 久見	小島 美穂
	空井 和子	津田 清子	山崎 恵子	岡本 まさみ	熊野 明美
	佐伯 裕美	作間 千珠	友永 雅美	中林 清美	西村 智美
	野口 文枝	野村 和子	原田 万紀子	渡辺 真由美	久保 澄恵
	白岩 多恵子	浜崎 邦子	宝迫 暁子	宮地 智子	宮成 素子
	山根 都	横尾 早織	渡辺 美紀	稲田 健一	藤井 宏美
	久保 憲史	佐伯 信治	山本 憲治	西村 恵夫	近藤 鉄浩

役員名簿

	近重 治	松田 孝二	村田 真昭	長谷川 恵一	藤井 素彦
	山田 次郎	小河 泰史	浦山 健二	岡村 健三	田中 厚稔
	山本 智	葉柳 津盛	徳田 修二	板谷 健司	新谷 雄二
	岩佐 健	沖田 典之	梶山 智昭	渡辺 邦吉	原 浩一郎
	有澤 英幸	濱崎 美幸	浅原 恵	木田 勝	宮本 一政
	白松 美恵子	田村 智子	中山 裕美子	長沼 弘子	藤原 摩美
	小田 章子	横尾 薫	麻生 陽子	飯尾 紀子	藤井 尚恵
	升田 智子	村上 晶子	重田 美里	木橋 孝子	林 理恵
	村田 佐智子	若村 明子	山田 隆司	尾上 晃一	林 隆生
	杉山 弘幸	中村 和洋	北田 健一	ラグビー部員	35名
	西村 明弘	山根 薫	金子 一江	三原 一夫	三村 憲聖
	梶山 智昭	磯野 泰丸	福富 健司	山本 保紀	浦山 健二
	田中 厚稔	徳田 修二	原 浩一郎	宮本 一政	浅原 恵
	木田 勝	重富 伸広	沖田 典之	濱崎 美幸	岩佐 健
	板谷 健司	葉柳 津盛	澄川 康雄	小河 泰史	山本 憲司
	藤井 素彦	近藤 鉄浩	長谷川 恵一		
山口中央高校	末永 幾子	山本 朱美	福武 恵	吉村 祥子	野村 香織
	伊藤 京子	井上 美紀	大畠 留美	青木 真理	大岡 雪絵
	石津 明子	石田 孝子	三好 清美	木村 富美子	宮本 由美子
	石川 早苗	田中 真理	口羽 佳珠	玉川 美和子	加藤 晴子
	櫻井 文恵	山本 美樹	濱田 奈保美	秋本 尚美	北村 千恵美
	長廣 洋子	渡邊 裕子	山本 みやび	木原 浩子	原田 美香
	杉 貴子	岸本 久美子	兼重 佳子	大庭 景子	山本 恵理子
	陶山 真美	河井 尚子	藤井 明美	池田 紀子	谷川 真由美
	柏村 洋子	中原 宏恵	杉本 昭子	大橋 玲子	岡本 圭子
	小杉 智子	坂井 亜希子	志賀 洋子	野村 珠子	河原 由美子
	津山 和恵	野村 知恵	若村 洋子	竹田 朋子	小万 由紀恵
	河原 由美子	上川 律子	清水 佳代子	武本 扶美江	小林 美智恵
	佐々木 陽子	鳥井 由紀子	鶴丸 華代	三輪 広美	河内 美砂
	西村 明子	増野 泉	伊野 直子	黒石 ツルエ	村田 久恵
	沖田 美湖	天川 順子	渡辺 悦子	山本 加奈子	福本 美鈴
	伊藤 由美	井上 郁子	伊賀 光恵	松浦 知子	小牟田 真澄
	田中 京子	森永 啓子	倉増 久美子	高杉 宏子	尾坂 百合子
	山見 綾子	森山 智子	片岡 志寿代	J、R、C部員	10名
山口農業高校	小野 一夫	前田 千鶴	笹川 明美	岡 輝	村田 弘市
徳佐高校	藤井 哲也	宮正 芳浩	上野 紅美	福島 朋子	田中 延枝
	重藤 政隆	山中 奈津子	岩井 智行	石川 勇	
中村女子高校	宮下 明美	三輪 陽子	長安 勝子	伊藤 和子	山内 千鶴子
	金子 智恵				

役員名簿

野田学園高校	伊藤久美子	荻野恵子	柿並亜津佐	白川由美子	杉山加代
	末永恵美	石井紀子	石川むつみ	石田さつき	伊藤真由美
	上田美津子	大上美佐子	奥平智美	柿並朝恵	河崎和子
	吉村直緒美	和田花織			
県鴻城高校	脇田真澄	赤井康彦	杉山美津代	八木秀雄	岩本新一
	栗田友子	吉山智晴	尾崎ひとみ	水野優子	藤尾和子
	渡辺泰子	山本恵子	綾木恭子	川村奈緒美	和田映子
	小谷信二	石川浩仁	清水友好	原裕一	竹内信義
	川崎時治	弥山浩紀	秋本一	水本茂樹	松井一久
	安永浩	難波達弘	西橋克也	清水尚紀	

2 演劇部会

部会長 大石力生(厚狭)

副部長 小野幸彦(宇部)

専門部員 芝田和臣(宇部) 築田英昭(宇部) 西村司(厚狭) 上田伸治(厚狭)

上田美智恵(厚狭) 花田喜美子(下関南) 山口武信(宇部女子) 浜名貞良(梅光女学院)

運営委員 倉田恵子(岩陽) 中林秀二(光) 池田省吾(宇部) 秋定ハマ子(宇部)

渡壁忠紀(宇部中央) 赤梨和則(宇部中央) 小林久昭(宇部西) 築田佐和枝(宇部商)

藤岡駿一郎(宇部工) 原口正子(田部) 野村清志(豊浦) 津嶋高德(長府)

生田照代(下関西) 緒方俊介(下関第一) 松尾幸治(下関第一) 吹屋哲夫(下関中央工)

杉山芳己(下関工) 石井末雄(下関商) 白石恵彦(県鴻城) 蔵富士允之(宇部鴻城)

久光啓一(香川) 伊藤信介(サビエル) 林雪枝(サビエル) 吉川嘉和(梅光女学院)

肥田有子(早鞆) 鎌田忠雄(宇部西)

主管校役員 山田孝(宇部) 権田憲子(宇部) 山内伊知子(宇部中央) 石川和子(香川)

木落隆子(香川)

生徒役員

宇部高校 蔵重智 中尾伸子 池田浩義 原健治 阿部佳正

梶原正則 山縣龍太郎 陣内文部 井上美幸 吉村徹

大橋世紀 杉山哲夫 栗林恭子 吉津香詠子 伊藤博史

渡辺満 村田直美 梶山郁子 田中香奈恵 殿河内寿子

中野慶子 弘中秀治 松永州英 原田壮一 中村美和

舛本啓子

宇部中央高校 木村隆志 島川小百合 小川明子 松永真都美 寺尾喜代美

森崎謙二 高橋幸恵 河野陽一郎 岡村美永子 西村圭子

村田明美 岡田義之 浜田匡子 大西明美 篠塚美奈子

役員名簿

	藤本 洋子	清水 恭子	三好 里美	田代 直子	高田 京子
	木屋 美奈子	札幌 由加里	中村 静代	森川 幸子	
宇部西高校	田村 薫	山本 優臣	花盛 英樹	植木 昭弘	原田 秀明
	松尾 賢二	村田 俊光	篠原 希彦	石丸 光津夫	繁 徹範
宇部商業高校	刀裨 文子	中村 里恵	縄田 洋子	永久 依子	尾辻 初子
	宮崎 環	村木 優子	上野 陽子	森若 国江	中沢 康子
宇部工業高校	小椋 浩	中川 政和	大西 武志	坂田 祥宏	樋口 則生
	中浦 栄蔵	竹元 浩助	松岡 巧	松田 隆弘	田中 忠治
厚狭高校	国川 悦子	松谷 由美子	阿部 由美恵	山根 明美	緒方 富貴枝
	西嶋 裕子	河野 朱美	篠原 みどり	名和田 佳子	山本 美穂子
	桜井 純子	中谷 尚子	中山 和美		
山口県鴻城高校	香川 知子	小野 好枝	生田 真由美	工藤 寛	
宇部鴻城高校	磯部 鼓澄	三浦 博奉	久野 真治	山田 浩紀	山田 元紀
	山田 直樹	佐々木 将徳	山本 輝夫	藤谷 幸司	中村 幸広
宇部女子高校	西村 多恵子	紀藤 恵美子	森 昌子	田村 敦子	戸田 喜子
	下駄 美智代	上原 桂子	黒田 智子	宮崎 寿美	平井 聡美
香川高校	吉藤 真由美	中務 妙子	花本 陽子	田中 育枝	宮川 由紀子
	三浦 一恵	内堀 美津恵	黒瀬 洋子	引藤 紀子	山田 ゆり
	桐田 宣平	上田 正彦	住浦 充	野木 隆史	増田 直子
	新谷 結花	岡 恵美子	定近 万里子	兼安 千春	藤本 敏恵
	竹本 裕子	西田 幸	金沢 由香	末広 靖子	
サピエル高校	稲村 恵美	吉本 馨	安部 愛子	松永 知子	横井 浩子
	藤田 英恵	小川 真理子	民谷 圭子	松重 淳子	渡辺 尚美
	赤木 香里	田辺 美代子			

3 合唱部会

部会長	原 碩造 (山口中央)			
副部長	甲田 俊夫 (山口中央)			
専門部員	木村 愛昭 (山口中央)	中井 征夫 (山口中央)	三隅 洋子 (宇部中央)	坂田 哲夫 (下関南)
	松永 忠雄 (下関第一)			
運営委員	江田 忠雄 (岩 国)	藤井 哲雄 (柳 井)	村上真哉子 (熊毛南)	藤井 至子 (光)
	那須 康子 (徳 山)	富永 努 (山口中央)	岡澤 忠雄 (山口中央)	徳政 恒夫 (山口中央)
	矢原 和文 (山口中央)	大久保信夫 (山口中央)	阿部 弘海 (山口中央)	藤野 幸子 (山口中央)
	平井妃富美 (山口中央)	鍋井 恵子 (山口中央)	中尾 綾子 (小野田)	藤井 重孝 (長府)
	八木 資義 (大 津)	有富 美子 (萩)	池田 瑞江 (高 水)	石島 栄子 (野田学園)

生徒役員

山口中央高校	武本扶美江	井上 智子	陶山 裕司	宮原 泉美	吉野 寛子
	大庭 景子	山本 恵理子	陶山 真実	池田 紀子	谷川 真由美
	柏村 洋子	中原 宏恵	杉本 昭子	末永 幾子	山本 朱美
	高松 夕紀子	福武 恵	岩谷 良恵	杉谷 真由美	常政 和代

役員名簿

原田美幸	吉村祥子	木原綾子	野村香織	竹内静代
水津文子	中原由起子	伊藤京子	井上美紀	大畠留美
青木真理	林秀子	大岡雪絵	伊藤教子	豊田月美
石津明子	石田孝子	三好清美	徳久敬子	藤井千津恵
小堤美由紀	福田めぐみ	堀田千恵	小牟田真澄	田中京子
森永啓子	倉増久美子	高杉宏子	尾坂百合子	山見綾子
浅川聡子	岡本崇恵	山本朱美	濱田奈保美	秋本尚美
北村千恵美	長廣洋子	渡邊裕子	縄本昭子	藤田香里
塩見晶子	繁富由美子	川口ひとみ	高山洋子	大谷恵子
國重智江	天野明美	富士本栄子	中川貴美子	益成恭子
上川律子	清水佳代子	木村富美子	宮本由美子	石川早苗
田中真理	口羽佳珠子	玉川美和子	加藤晴子	櫻井文恵
片岡志寿代	森山智子	河原由美子	杉恵子	杉山佳代
俵順子	徳本道子	田中由美子	本城嘉子	久富弘恵
渡辺真弓	河村幸恵	八木美雅子	河野典子	田中みのり
縄村美香	片山晴美	亀井亜矢子	亀井八重子	河村順子
福田恵子	山下明美	佐武美和子	竹田朋子	岡田明美
案野綾子	末村雅子	中嶋孝子	西村千賀子	久光美代子
野田学園高校 松田弘子	竹内美枝子	田中和枝	村田恵子	山根真由美
鈴川文弘	牛見伸之	沖田公一	末松学	竹岡誠
岩崎真佐信	福島徹	能野礼児	岡本義正	藤川健司
佐々木信也	高木雅之	松井敬史郎	築田隆仁	石橋一幸
谷村仁由	山田直樹	坂本勝直	大原崇	伊藤義和
野村亮輔	佐々木智子	藤本あゆみ	中村綾子	桑原町恵
縄田洋子	橘好美	児玉佳子	小野貴子	中村恭子
清水美智子	梅木邦枝	斉藤美保	篠原直美	田中利恵
松本延代	小池晃代	丸山裕美	長田真帆	桑原智子
山本鈴枝	横山三枝	上野恵子	兼光仁美	草場文子
高橋綾子	高木洋子	田口敦子	祐恒知子	

4 吹奏楽・管弦楽部会

部会長	町田 晃(防府)			
副部長	重広 昭雄(防府)			
専門部員	中井 勝 <small>(下松)</small>	北村 信 <small>(徳山北)</small>	吉富 武夫 <small>(防府)</small>	村上 知也 <small>(山口農)</small>
	岩崎 隆司 <small>(県鴻城)</small>			
運営委員	和田 道明 <small>(岩陽)</small>	宮本 義郎 <small>(広瀬)</small>	光井 操子 <small>(高森)</small>	河内山 勲 <small>(防府)</small>
	杉岡 信義 <small>(防府)</small>	山本 秀司 <small>(防府)</small>	須子 雅夫 <small>(防府)</small>	勝谷 寿人 <small>(防府)</small>
	中田 知子 <small>(防府)</small>	坂井 和子 <small>(防府)</small>	神鳥 泰彦 <small>(防府西)</small>	中原 紀道 <small>(防府商)</small>
	三好 五郎 <small>(下関工)</small>	百合野政美 <small>(響)</small>	横山 達也 <small>(豊北)</small>	矢田部一俊 <small>(水産)</small>
	古野 義晴 <small>(奈古)</small>	城 勝邦 <small>(山口県桜ヶ丘)</small>	濃口 満治 <small>(多々良学園)</small>	

役員名簿

主管校役員
防府高校

末富 宗一 岡田 正之 石村 幸子 西村 恒
桑原 邦彦 山崎 正夫 萩原知恵子

○モデルバンド
役 員

浅原 秀雄(下関西) 町田 晃(防府) 吉富 武夫(防府) 重広 昭雄(防府)
石村 幸子(防府) 村上 知也(山口農業) 岩崎 隆司(山口県鴻城) 北村 信(徳山北)
中井 勝(下松) 百合野政美(豊) 久津摩郁生(徳山) 宮本 義郎(広瀬)
広田 仁子(柳井学園) 城 勝邦(山口県桜ヶ丘) 栗田 幸江(山口) 中島 俊泰(山口)
野村 卓也(小野田) 志賀 守彦(美祿) 縄田 正規(美祿) 川野あきら(豊浦)
田村 政勝(下関中央工) 菊地 昇(下関工業) 三好 五郎(下関工業) 横山 達也(豊北)
山崎 嘉武(早瀬) 安部 美雄(徳佐)

生徒役員

防府高校

財間 英信	清水 良和	田村 正幸	永松 勉	末富 勝昭
藤田 泰芳	三浦 仁士	柳井 一郎	北村 史子	瀧川 真季
山口 朋子	松田美和子	池永 知代	梶山 智子	河内 厚子
河島由美子	河村 充恵	杉岡 里美	寺島 佳織	藤井 紀子
村田 育夫	石井 忠明	小川 記明	尾崎 太志	杉山 修一
荒瀬 悟	粟屋 元	富田 英一	中村 一心	安藤 史武
村上 知恵	中村 孝枝	江村 美季	大浜 道子	岡本真理子
田中 訓子	中村 優子	竹田 美香	本沢 裕子	藤井千恵子
里谷 恵子	平井 裕子	石丸 邦子	重本由美子	田中 紫保
西村 美香	吉武 玉枝	小林 英樹	河崎 浩行	広中 一秀
時繁 力	古賀 義浩	野村 浩司	木村 智延	村田 美紀
藤本美津子	村田香奈絵	原田 博子	木原 直美	脇村 伯美
新藤 理恵	上田 玲	武村 和幸	田中 周次	松山 克宏
金子 守正	河田 智成	尾野 輝明	藤永 隆文	梁瀬 悟司
山岡 勝善	藤野 潤子	藤井富美子	柳瀬久美子	山本 愛枝
野村 純子	田中 文代	山下 徳子	八波寿美子	中祖 美晴
中村亜希子	石丸 浩子	重田 弘子	水津 朋子	田中 美子
国村勢津子	末長 幸子	中野洋次郎	中原 謙二	勝間 康文
佐伯 法子	兼重 直美	白石 順子	安村 幸恵	大空理恵子
古谷 雅子	荒瀬 智子	浅野美佐子	角田 寿江	山根 広子
山根美加子	吉富 智子	佐戸 優子	有馬 朋子	砂田 紀子
庄 ゆかり	山野 佳子	武重 泰子	宮村 龍己	村武 美佳
三島 智之	菊田 雅美	土居田照雄	久保 教子	磯野 雅介
牛見 佳世	原田 庸三	鬼束 陽子	麻畑 哲郎	小川 真紀
村川 智弘	宇佐川誠実	栗田 泰之	沖田 勝利	中山 裕章
西村 健一	加藤 一郎	増原 一博		
防府商業高校	久楽 敦	中本 慎一	栗原 努	井上 俊夫
	多田浩一郎	平野 信二	田原 尚幸	滝口 靖博
	吉武 薫美	渋江 直美	三戸 和子	坪井真由美
				谷口 和隆
				滝山 容子
				米重真由美

役員名簿

	金子 雅代	内田真由美	末田 真理	安田 浩子	小林 則子
	山本 京美	山本 美香	西村真奈美	藤田 尚子	倉増 洋子
	片山由香里	本田 和枝	後藤 陽子	土橋 真理	桂 真佐美
	原田 里恵	山本 愛子	安村 純子	中蘭 淳子	磯村 勉
	飯田 龍広	小西 睦	福田 繁弘	阿部 真二	福江 純子
	伊東 知子	片山 直美	関谷美津代	伊藤 満	田中 整
	森 美紀	原田 和恵	松下 光和	白井 玲子	栗原 努
	田原 尚幸	多田浩一郎			
防府西高校	山時 孝則	米倉 晃起	伊藤 英治	岸本 俊治	渡辺 優子
	福本 剛士	大堀 泰一	岡村 和美	藤田 光代	家本千恵子
	藤井ひさ子	田中 洋子	吉屋まゆみ	山田 真実	内田美智子
	山下 陽子	原 真智子	白石 麻美	関本 貴恵	谷本 幸子
	新田 浩一	金岡 敏子	藤本 佳代		
多々良学園高校	種田 裕彦	斎藤 宏志	箕輪 克彦	相野 芳文	佐藤 隆宣
	松島 成治	高澤 博樹	田中 正人	岩城 和之	道下 謙輔

5 マーチングバンド・バトントワーリング部会

部 会 長	小澤友太郎(三田尻女子)				
副 部 会 長	松原 弘(山口)	中島 俊泰(山口)	磯部 瑤子(早 瀬)		
専 門 部 員	国嶋 洋治(岩国工)	三光 慶治(山口)	紙村 謙(山口)	兼石 俊明(山口)	
	縄田 正規(美 林)	友永 次郎(下関西)	友安 愛子(三田尻女子)	花村 慈照(学部女子)	
運 営 委 員	角中悦太郎(久 賀)	福田 望(熊毛北)	上田 秀実(下松工)	椎木 浩二(佐 波)	
	河合 清治(山口)	亦野 豊広(山口)	平中 観(山口)	久芳 善人(山口)	
	田辺トモ子(山口)	栗田 幸江(山口)	高見沢玲子(山口)	来島 邦雄(西市)	
	幡部 久江(厚 狭)	権代 敏満(三田尻女子)	永田 笙子(三田尻女子)	山崎 嘉武(早 瀬)	
生 徒 役 員					
山口高校	西村 明弘	山根 薫	酒井恵美子	藤原 陽子	古田 和子
	種田 朱美	寺本 治美	波多野智子	藤井 智子	入江 妙子
	岩田 典子	青木 順子	伊藤由美子	中野 寿美	升田 智子
	井口 まり	中沢 純子	松原 真弓	山下 博子	福田ゆかり
	升永 洋子	片山 由香	稲垣 美穂	石神 良彦	岩本 恵子
	岸田美智子	国吉美奈子	熊丸 文子	小林 由子	松屋 恭子
	吉安 明子	池田 美雪	大橋めぐみ	金子 一江	原 貴久恵
	増野 陽子	吉松 香	渡辺 素子	伊藤千恵子	小椋 智子
	川本 純子	下岡 和美	高橋 由香	藤村 直江	渊上紀代美
	山本 早美	岩田 佳子	野村 明美	江藤 明美	杉山美智江
	古屋佐知子	伊藤 智子	住田 久子	波多野美夏	有田真奈美
	河村 洋子	徳永 芳子	宗本 紀子	中野佳代子	久保田裕子
	高山 幸子	松岡 直子	湯田久美子	有吉 恵美	中村律修子
	林 克子	藤井 悦子	橋本 純子	山本 美和	河村 和恵

役員名簿

豊島 佳子	山本みゆき	古川 和奈	吉野 照代	石橋 純子
佐野さやか	山田みちる	竹重 朋子	大草 明美	大澤 典子
森 雅子	村山 浩二	大田 浩史	今井 宏二	佐々木 康
小須賀武士	高橋 真也	大嶋 孝友	田中 博	松永 明生
吉松 高敏	吉松 宏恭	谷川 幸治	木田 勝	江本 賢二
佐野 栄作				
ラグビー部員 20名	バスケット部員 20名			
山口高・下関西高シンフォニックバンド	104名			

6 邦楽・吟詠部会

部 会 長	津田 正人(中村女子)			
副 部 会 長	藤村 公彦(徳山)	児玉 明(萩工)		
専 門 部 員	松村 房子(厚狭)	辛島 茂樹(下関工)	河内 町之(山口県桜ヶ丘)	岩崎 稔生(中村女子)
	中野 靖子(中村女子)			
運 営 委 員	田中 貢造(下関工)	末富 信夫(萩工)	藤井美恵子(聖光)	伊川 哲玄(中村女子)
	吉原 克明(中村女子)	小畑 裕之(中村女子)	吉武 則夫(中村女子)	織田村哲男(中村女子)
	上野 忠臣(中村女子)	小松 昇(中村女子)	山本美智子(中村女子)	棟久 房枝(中村女子)
	富永 政子(中村女子)	堀 立子(中村女子)	田中 敏子(中村女子)	山下 葉子(中村女子)

生徒役員

中村女子高校

西嶋 益子	石光はるみ	村岡 敬子	江本 早苗	藤田 恵子
稲富 智子	坂本 佳子	佐内 佳子	末永 順子	伊藤 弘江
小吉 静枝	藤村 栄子	高山 里美	佐藤しのぶ	佐藤 優美
末成 早苗	徳永 享子	藤井美奈子	藤本喜世子	松田八千代
三輪 和子	安永 雅恵	縄田 早苗	田畑 涼子	中村 千恵
山中 真弓	岩田 博江	田中 智子	安田 秀子	河野 美香
浜中 利華	山下 博江	田中 良子	山本 陽子	吉富 良子
有間真由美	田中 裕子	上野 敬子	玉野 良子	佐々木千奈美
山県 由美	山根 瑠美	田中 静江	徳原佐江子	福永 由弥
吉井 清美	小野亜紀子	藤本 康枝	河村 博子	末富 三枝
平田智恵子	渡辺 裕子	赤塚 悦子	大橋 咲子	永井美和子
福重 伸子	溝部 葉子	山下 恵子	和田 知子	竹田 京子
土井 初美	中原 恵子	藤野 和美	金子 君枝	嶋地 文江
妹尾千栄子	高橋真由美	平田 利香	杉山 朱美	嵯山 昌代
永安 順子	前川 美紀	安光千恵美	矢富 真弓	金子 葉子
山本 千恵	松岡よしみ	米本 貞美	嶋岡 洋子	西田 裕子
前田 真弓	八木佐知子	山県 美香	山本小百合	上田 直美
岡屋 雅美	西坂 美和	藤井 鈴江	有福 記世	岡本紀美子
河野 智子	隅友里恵	山村 恵美	壺岐富佐子	内田真裕美

役員名簿

柏村 淑子	小林 和子	塩見 和子	林 みゆき	石井 雅子
浦島 知子	岡部 文江	川崎二三子	波多野恵美子	平田由美子
古屋 和子	松井 恵子	村山 晴美	宮下 明美	三輪 陽子

7 美術・工芸・書道・写真部会

部 会 長 野村 和男(野田学園)

副 部 会 長 藤川 章造(防 府) 桑野 忠勝(小野田工) 山本 巖(徳 山)

専 門 部 員 島津 宗隆(岩 国) 古屋 元子(山口中央) 岡 正哉(宇部工) 坂倉 秀典(大 津)

岸田源太郎(野田学園) 秋山 隆吉(野田学園)

運 営 委 員 竹田 安満(岩 国) 中巴 立夫(熊毛南) 藤永 正二(山 口) 白石 博(宇部中央)

美術・工芸 岸 勤(下関商) 杉本 善行(香 川) 山村 恭嗣(野田学園) 西村 英子(野田学園)

和田 郁香(野田学園)

書 道 木坂香津江(徳 山) 荒瀬 宏(防 府) 藤田 由美(山 口) 福川 道弘(下関第一)

田中 宏(下関商) 岩見屋 健(高 水) 加藤 善雄(宇部鴻城) 田中 忠雄(香 川)

鹿野 新一(野田学園)

写 真 好村 与(柳 井) 石光 勝(宇部西) 豊野松太郎(豊) 山賀 正彦(萩)

石田 正雄(野田学園) 石川 和明(野田学園) 杉山 昭郎(野田学園) 田原由美子(野田学園)

米本 峯子(野田学園)

主管校役員 野田学園高校

南 薫風 谷 宋閑 他15名

生徒役員 野田学園高校

岸本真太郎	見好あゆみ	田中 幸江	永見真由美	山本 悦子
重富 由佳	穴田久美子	河野喜代美	久保田雅子	中島 裕美
杉山 加代	高木 美和	片山 薫	吉岡真由美	植松ひろ子
藤井真由美	柴崎 真紀	長崎 美和	堀田 礼子	磯中 昭子
中川 頼子	村上 由美	重宗扶美子	中村 順子	原田 文代
黒田 陽子	法正 和子	渡辺 美穂	丸子早百合	三浦 京子
松井 規江	大田真由美	小倉 秀美	和田 花織	竹内 伸子
野上美佳子	吉田美智子	山本 厚子	吉村真緒美	桑原美和子
末永 裕恵	三浦 ゆり	玉井 恵子	木原 恵	藤村 純江
大原 真二	中尾 博之	米沢 賢一	末田 浩昭	松井敬史郎
安永 克彦	田上 博之	山見雄一郎	山本 肇	池部 陽子
村上奈緒美	鍛冶 英利	竹原 誠	原 恭子	宮本 早苗
藤田勇太郎	西村 努	藤本美穂子	中野 文	谷 好恵
竹島 郁子	宇多田久美子	上村 梅子	吉村まさ子	白松 和恵
高田 成子	山本 恭子	石井 揚子	田中 雅子	山下 晶子
中山 典子	久保田雅子	中山 康子	石光 紀子	隅 恵美子
西見 恵子	山根 央子	鈴木 澄香	金本 孝子	国森由美子
中村 智子	武田 州代	西山 直子	井手 靖子	亀山さつき

役員名簿

栗林真奈美	別府 優希	宇都宮鈴香	都地美登里	山本 緑
小椋美由紀	素村真由美	甲良 文子	中村 智子	渡辺 敦子
大田 洋子	村田由美子	後藤 恵子	山田 貴子	荒川 法子
金増 晴美	山本 礼子	寺内 澄江	田中 啓子	坂本 啓子
中村 美香	永久 訓子	大井 邦子	臼井 智之	浦部 一生
大山 顕	沖 祐見	片野 進一	河津 賢二	河野 英志
調 清二郎	恒次 克則	岡藤 悦子	河村 靖則	八木 和彦
若林 陽治	秋本 浩子	杉山 秀明	山田 博文	吉田 昌章
溝部 忠久	横島 直志	京尾 和子	石林 綾子	足立 泰子
植松 寛子	河村 靖則	美藤洋一郎	池田 昌世	大木 洋子
倉益 洋子	才野原真弓	杉田ゆかり	水野 雅江	矢野 幸子
高崎 智子	善岡 直子	本田 洋子	宮 明子	宮本 朋江
水野ひろみ	山本 直美	渡辺由紀子	伊藤 美加	島 美香
木村 英子	大石しのぶ	能谷美由紀	松永 陽子	原 友子
宮本ひろみ	高浜 愛	長田 真帆	生嶋久美子	高野 聖子
井藤 綾乃	高木 潤子	山崎 晴美	安田 有佐	宮本 裕子
太屋岡夕起	藤田 紀子	松尾 静子	松田小百合	鯨田 良重

準備委員会委員

委員長	山口県教育委員会教育次長	徳 丸 泰 弘
副委員長	山口県公立高等学校長会長 (山口高等学校長)	田 中 邦 芳
	山口県公立高等学校長会副会長 (防府高等学校長)	為 貞 千 速
	山口県私立高等学校協会校長部会部長 (三田尻女子高等学校長)	小 澤 友太郎
委員	山口県立厚狭高等学校教諭	西 村 司 (演 劇)
	梅光女学院高等学校教諭	浜 名 貞 良 (♪)
	宇部女子高等学校教諭	山 口 武 信 (♪)
	山口県立防府高等学校教諭	砂 田 坦 (合 唱)
	♪ 宇部中央高等学校教諭	三 隅 洋 子 (♪)
	♪ 美祢高等学校教諭	重 広 昭 雄 (吹 奏 楽)
	♪ 高森高等学校教諭	椎 木 浩 二 (♪)
	♪ 徳山高等学校教諭	藤 村 公 彦 (邦 楽)
	山口県桜ヶ丘高等学校教諭	河 内 町 之 (♪)
	山口県立萩工業高等学校教諭	児 玉 明 (吟 詠)

役員名簿

山口県立下関工業高等学校教諭	辛 島 茂 樹 (吟 詠)
早鞆高等学校教諭	磯 部 瑤 子 (バトントワーリング)
宇部女子高等学校教諭	花 村 慈 照 (〃)
山口県立山口高等学校教諭	山 崎 凱 千 (マーチングバンド)
〃 下関西高等学校教諭	友 永 次 郎 (〃)
〃 防府高等学校教諭	藤 川 章 造 (美術・工芸)
〃 大津高等学校教諭	坂 倉 秀 典 (〃)
〃 小野田工業高等学校教諭	桑 野 忠 勝 (書 道)
〃 宇部工業高等学校教諭	岡 正 哉 (〃)
〃 徳山高等学校教諭	山 本 巖 (写 真)
〃 岩国高等学校教諭	島 津 宗 隆 (〃)
山口県総務部 学事文書課長	藤 村 實
山口県教育委員会 総務課長	志 賀 光 雄
〃 教職員課長	井 上 洋
〃 指導課長	大 井 政 雄
〃 文化課長	小 林 末 次

実行委員会事務局員

事務局長	小林 末次
事務局次長(兼)	吉武 康昌
〃	中川健次郎
事務局員(兼)	東 章
〃	(兼)貞弘 勉
〃	梶村 保則
〃	山崎 凱千
〃	松田 政道
〃	(兼)熊谷 昭典(藤永寿敏)
〃	(兼)林 節郎
〃	(兼)小田 輝吉
〃	(兼)藤岡 昭博(田中健二)
事務補助員	佐々木政美
〃	松谷由美子
〃	松原万素子

開催準備室員

室 長	小林 末次
室長補佐	中川健次郎
〃	藤永 寿敏
室 員	吉村 光明
〃	梶村 保則
〃	中川猪太郎
〃	田中 健二
〃	林 節郎

全国高等学校総合文化祭年次別、種目別参加状況

種目別		回数	1	2	3	4	5	6	7
		開催県	千葉	兵庫	大分	石川	秋田	栃木	山口
		期間	昭和52年7月31日 ～8月3日	昭和53年8月2日 ～8月8日	昭和54年8月1日 ～8月7日	昭和55年8月5日 ～8月10日	昭和56年7月29日 ～8月2日	昭和57年7月29日 ～8月3日	昭和58年8月2日 ～8月4日
演劇	県	10	11	10	11	11	11	11	10
	学校数	11	11	11	11	11	11	11	11
合唱	県	14	14	20	29	23	28	25	
	学校数	15	18	25	32	26	32	37	
吹奏楽・管弦楽	県	9	20	21	23	26	24	24	
	学校数	12	27	24	43	30	30	53	
マーチングバンド パトントワーリング	県	7	8	13	14	12	15	13	
	学校数	7	18	18	22	24	28	25	
邦楽	県	11	17	17	19	15	16	17	
	学校数	41	40	37	48	27	38	45	
吟詠剣詩舞	県	5	8	14	10	9	10	10	
	学校数	7	16	40	32	21	32	35	
美術・工芸	県	—	31	39	41	43	43	44	
	学校数	—	143	154	164	147	168	169	
書道	県	—	30	41	38	41	42	40	
	学校数	—	128	128	133	109	137	137	
写真	県	—	—	—	6	12	15	21	
	学校数	—	—	—	46	64	84	100	
郷土芸能	県	—	—	—	—	6	9	—	
	学校数	—	—	—	—	16	29	—	
計	県								
	学校数	93	401	437	531	475	589	612	

(注) 総合開会式部門を除く

第4回全国都道府県高等学校文化連盟連絡協議会の報告

日 時 昭和58年8月3日(水) 13:30~15:00

会 場 山 泉 荘(山口市)

○ 次第

1 開会のあいさつ

2 あいさつ

第7回全国高等学校総合文化祭実行委員会
事務局長 小林 末次

3 祝 辞

文化庁文化普及課長 戸田 成一

4 日程・資料説明

5 協 議

- (1) 都道府県高等学校文化祭について
- (2) 全国高等学校文化祭について
- (3) その他



○ 協議

(1) 都道府県高等学校文化祭について

山口県から、演劇のみコンクール方式であり、他の部門と異なり、その運営にはかなりの配慮が必要ではないか。また、邦楽部門は流派の師匠がかなり強く指導権を発揮し、高校教育の枠を越える恐れがあるのではとの問題提起を行った。ついで宮崎県からは、高校文化祭の実施拡大は、国庫補助におうところが大きいにもかかわらず、これにかかる地方文化振興費は、昭和60年度までで打ち切りとの文化庁からの内示があったが、これに代わる対応策を講じられたいと提出された。文化庁文化普及課長は、「鋭意努力中である。」と回答された。

(2) 全国高等学校総合文化祭について

まず皮切りとして山口県から、山口大会の特徴及び運営状況が述べられた。ついで秋田県は、第5回秋田大会で新設の郷土芸能部門の取り止めの理由は何か、来年度からの復活を望むとの議を出した。これに対し、全国的に参加校が少なく、山口県高校には当該クラブ・部が未設置であり、特別な新設強化策はとらない方針であって取り止めたと述べられ、県外参加希望校は、邦楽部門に入れた旨が答えられた。

東京都からは、国及び都道府県からの開催費及び生徒派遣費の逐年増加を多とし、さらに御努力をと要請し、演劇部門について特に説明がなされた。高校総文は、全国高校演劇協議会を母胎として発足した経緯がある。約30年来の同会の講習会及びコンクールの歴史と特徴を尊重されたいとし、諸準備のため、高校総文開催県の決定は早めにするようにと希望が出された。これに賛同し、少なくとも3年前までの決定をと述べたのは、60年度開催県の岩手県であった。

大分、宮崎両県からは、山口大会について、第1日目観覧のみの見解であるとして、高校生の参観動員割り当て、展示部門図録作品集の無料配布の対象、記念パレードの時間等の問題について指摘があった。

(3) その他

(ア) 高文連の全国組織について

徳島県から、本協議会は、過去の経緯から、特に各都道府県高校文化連盟の結成及び全国組織の結成についてこそ、主要議題とすべきではないかと提案された。

これに対し、山口県は、父兄負担軽減の問題もあり下からの盛り上がりとの問題も述べ、岐阜県からは、会費ゼロ、受益者負担の参加者徴収で4年前結成と述べ、石川県からは、第4回高校総文石川大会時には、わずか14県都道県のみ設置であり、今は21都道県にのぼる。県高文連会議及び県大会にかかる勤務の扱い等、校長会の理解と協力を積極的に得る必要がある。現在の石川県の17部会活躍も県・校長会の協力の賜物と述べられた。

青森県は、結成準備中各県の現況の説明を求め、特に積極的に全国高校長協会への働きかけが緊急の課題であり、その機関紙への掲載を要望したのである。結成準備中の埼玉県は今秋中、広島、香川両県は来春、福島県は3年後の予定と報告された。

そして徳島県は、早急に各ブロックごとに準備委員会を結成し、59年度高校総文開催県の高文連会長は、準備委員会委員長となり、積極的に全国組織化へと進むべきであり、その結成は、高校総文の開催事業委託団体となり、補助金交付、あるいは開催の大綱を決め、推進母胎となるであろうと話し合われた。とにかく、各都道府県単位の高文連の結成、少なくとも過半数の24県までの結成は、早急にとの意見が強く述べられた。

○ 出席者

				栃 木	石下 勲夫	高文連事務局員
北海道	小柳 六郎	札幌開成高校長	埼 玉	小池 仁	社会教育課文化係長	
青 森	佐々木 豪	校 長		飯野 育雄	〃 社会教育主事	
	柴田 裕明	教 諭	千 葉	中山 吉秀	文化課文化財主事	
岩 手	勝 正孝	高文連会長	神奈川	二見 修次	指導部高校教育課長	
	千田 衛	〃 理事長		八戸 敏夫	〃 主査	
	池田 友敬	〃 事務局長	富 山	八木 光久	文化課主幹	
	阿部 一哉	文化課主事	石 川	津田 嘉信	高文連会長	
秋 田	佐藤 久	高文連会長		藤井 善三	〃 教諭	
	藤田 直人	〃 事務局長		村田 淳	〃 〃	
	進藤 史生	教育庁文化課主任学芸主事		塚本 誠一	〃 〃	
	川越 穰	〃 主任	山 梨	渡辺 力夫	文化課長	
	石塚 清光	〃 主事		北村 誠	文化芸術文化普及監	
山 形	宝崎 幸雄	高文連事務局		丹澤 隆雄	校 長	
福 島	早坂 享	文化課主事		手沢 宗信	教 諭	
茨 城	綿引 克次	〃 主事	長 野	小山 洋	松本深志高校長	
	鈴木 俊行	児童生徒芸術祭高校美術展実行委員会事務局長		浜 栄助	長野西高校長	
	飯野小八郎	〃 実行委員		小野 仁志	文化課指導主事	
栃 木	佐野 秀樹	高文連会長	岐 阜	武藤 暎忠	高文連会長	
	小林 猛雄	〃 事務局員		小林 勝巳	〃 事務局員	

岐 阜	大平 真澄	文化課主任学芸主事文化係長	高 知	西原 道雄	県高校芸術団体協議会事務局長
静 岡	飯田 英夫	〃 指導主事	福 岡	大坪 永三	公立高校長協会会長
三 重	藤井 昇	〃 課長補佐		中村 一世	文化課課長補佐
滋 賀	沓水 嘉彦	文化振興課主査	熊 本	田上 克己	文化係長
	一伊達 晃	〃 主事	大 分	佐藤 敏夫	高文連会長
	沢井 清	高芸連会長		渡辺 賢二	教 諭
兵 庫	釜江 侃	高校教育課参事		上好 温	〃
	田村 真人	高芸連会長		秋吉 辰郎	文化課長
奈 良	土家 利之	学校教育課指導主事	宮 崎	湯浅 哲治	高文連理事長
和歌山	北野 全美	主 幹	冲 縄	具志 清二	高文連会長
	杉原 治	教 諭	山 口	為貞 千速	高校総文実行委副委員長
	中村 裕	〃		津田 正人	〃 委員(校長)
岡 山	小野 正夫	文化課主任		小林 末次	〃 事務局長
広 島	倉橋 清方	文化財保護主事		中川健次郎	〃 事務局次長
徳 島	浅香 寿穂	社会教育主事		熊谷 昭典	〃 事務局員(課長補佐)
	讃岐 敏春	高文連理事長		山崎 凱千	〃 事務局員
香 川	林 茂	文化行政課主幹			
	前田 和也	〃 主事			
	石田 薫	丸亀高校長			

都道府県高等学校文化連盟等一覧

名 称	設 立 年	事 務 局 (担当)	電 話
北海道高等学校文化連盟	昭和31年	北海道札幌開成高校(納谷)	011-781-8171
青森県 〃	昭和54年	青森東高校(柴田)	0177-36-2444
岩手県 〃	昭和56年	盛岡第四高校(千田)	0196-36-0742
秋田県 〃	昭和58年	秋田北高校(藤田)	0188-34-1371
山形県 〃	昭和52年	山形西高校(宝崎)	0236-41-3504
栃木県 〃	昭和53年	宇都宮女子高校(池口)	0286-33-2315
東京都 〃	昭和52年	神代高校(水越)	03-300-8261
石川県 〃	昭和26年	金沢二水高校(藤井)	0762-41-3167
福井県 〃	昭和45年	羽水高校(高原)	0776-36-1678
山梨県 〃	昭和56年	巨摩高校(岡田)	05528-2-1163
岐阜県 〃	昭和54年	加納高校(加我)	0582-71-0431
滋賀県高等学校芸術連盟	昭和54年	大津高校(宇野)	0775-23-0386
兵庫県高等学校芸術文化連盟	昭和55年	神戸高校(山内)	078-861-0434
和歌山県高等学校芸術連盟	昭和57年	桐蔭高校(杉原)	0734-36-1366
島根県高等学校文化連盟	昭和26年	松江市立女子高校(北)	0852-39-0216
徳島県 〃	昭和56年	城東高校(讃岐)	0886-53-9111
高知県高等学校芸術団体協議会	昭和53年	高知小津高校(西原)	0888-72-5276
熊本県高等学校文化連盟	昭和56年	第二高校(竹内)	0963-68-4125
大分県 〃	昭和26年	大分舞鶴高校(渡辺)	0975-58-2268
宮崎県 〃	昭和54年	宮崎商業高校(湯浅)	0985-29-8560
沖縄県 〃	昭和54年	真和志高校(金城)	0988-33-0810

現在結成準備を進めている県 福島, 埼玉, 千葉, 富山, 広島, 香川

きょう県内3市で開幕

山口、宇部、防府7千人が集う

化祭

「友情 創造 かがやけ青春」をスローガンに第七回、が二百、山口市を主会場に宇部、防府の三市で開幕。の手で舞台装飾の点検や作品展示を終え、大会史上最高



午後三時、山総合開会式のため、一時間、県庁前パ、で記念パレード。全のバントワラズが、行進を繰り広げ、続いて

全国から約七千人の高校生が集う高校総文。その開会式でのあいさつという大役をおおせつかったのは六月末。開会式を担当する山

第7回全国高校総合文化祭の開会式で、県内高校生を代表して歓迎のあいさつをする



「きょう、直前の短考をきや、回、合同演、推進した

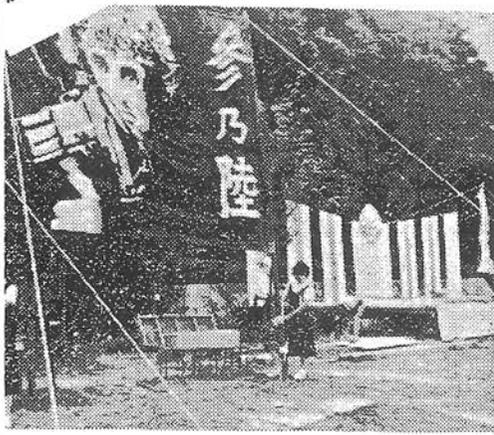
きょう盛大に開幕

創造・かがやけ青春を掲げて第七回祭が二日から宇部の三市、生にやる、門にか、音人、成

読売新聞社など協賛) 受け校の生徒たち待つばかりになつ

10部門に589校参加

きょうから全国高校総合文化祭



特設舞台の前には高校生らしい歓迎の横断幕

宇部市渡 午前十時か、県教育会館、詠剣詩舞の、示部門の美、術、書道、館でいずれ、一日は各、祭は二日、山口、防府、宇、あり、山口、部の三市を会場に始まる。

北から南から—— ぞくぞく山口入り

全国から八千五百人の高校生が集う「全国高校総合文化祭」は二日、山口、防府、宇部、の三市を会場に始まる。分を出発、午後一時すぎに山口へ到着、リハーサルを終えてホテル入りした後も「二日は必ず立派な吟詠をお聞かせします」ときょう練習。大分工業高引率の藤尾明弘・政論も「山口は自然に囲まれ、

第7回全国高等学校総合文化祭テーマソング

作詞 荒川泰信
(萩工業高等学校)

リズムにのって
♩ = 126

輝け 青春

作曲 中谷賢治
(山口高等学校)

The musical score is written in a single system with six staves. The key signature has two flats (Bb and Eb), and the time signature is 4/4. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings (mp, mf, f). Above the staves, chord symbols are provided: Eb mp, EbM7, Fm, Bb7, Fm, Bb7, Eb(onBb), Bb7, Eb, Eb, Ab, F7, Eb(onG), C7, Fm, Bb7, Eb, Eb7, Ab, Abm, Eb, C7, Fm, Bb7, Eb, Eb, Eb, Eb, Eb. The lyrics are written below the notes, with some lines containing musical directions like '3' or 'D.S.'.

1 ひろ げ よう ー ー ゆう じょう のーわをー すば
げ よう ー ー そう ぞ う のーひをー すば

ら しいー ぶんかー ー みんな で そだ て よ う こ
ら しいー ぶんかー ー みんな で そたか め よ う こ

こ いしんのまち やまぐち からー ひろ
みどりのまち やまぐち からー ひろ

い ち きゅう にー むけてー は
い う ちゅう にー まーでー は

ば ー た ー け ー せ い しゅん あし
ば ー た ー け ー せ い しゅん あし

た を め ぎ し て か が や け せ い しゅん 2 か が しゅんー
た を め ぎ し て か が や け せ い しゅんーD.S

二、かかげよう創造の灯を
すばらしい文化
みんなで高めよう
ここ緑のまち山口から
広い宇宙にまで
はばたけ青春
あしたをめざして
かがやけ青春

一、広げよう友情の輪を
すばらしい文化
みんなで育てよう
ここ維新のまち山口から
広い地球に向けて
はばたけ青春
あしたをめざして
かがやけ青春

輝け 青春
作詞 荒川泰信
(萩工業高等学校)
作曲 中谷賢治
(山口高等学校)

友 情

創 造

かがやけ青春

スローガン

妹 尾 千栄子

(中村女子高等学校2年)

全国の高校生の文化部の発表と交流の場にふさわしい、明快で広がりのある語感。

シンボルマーク

岸 本 真太郎

(野田学園高等学校2年)



山口の代表的工芸品大内人形をモデルとし、2人の若人が手を取り合って踊り、友情の輪を広げるイメージを、「文化」の「文」の文字で表現した。

ポスター

磯 部 伸 治

(山口県立大津高等学校3年)



「文化」で高校総文を、「両手」で「山口」を示すとともに友情と交流を、「萩焼」で山口県を表わした。



◀合唱プログラム(左)
PR用パンフレット(中)
邦楽プログラム(右)

美術・工芸・書道・写真
作品集(上)

▼吟詠詩文集(下)



▲マーチングバンド・バトントワーリング
プログラム(上)

歓迎ひろばちらし(左)

総合案内ちらし(右)



吹奏楽・管弦楽プロ▶

グラム(左)

演劇テキスト(中)

総合プログラム(右)



あ と が き

- 今、ここ西の京—山口の市街を南北に走るパークロードは、ケヤキヤクスの並木のもみじ葉が晩秋の日差しを浴びて美しい。
この木々の深緑に映えて、ここで、全国の高校生代表たちが、記念パレードにその青春を、そのおのがじし生命を燃えあがらせたのは、つい昨日のことのようである。
- 高校総文の記録を編むにあたっては、特に次の方針で臨んだ。
 - 1 読みやすいこと。そのために、写真・図版等を多く入れるように努めた。
 - 2 今後の参考に資するため、新たに次の3項目を設けた。
 - (1) 運営の基本と方針
 - (2) まとめ—高校総文を顧みて
 - (3) 生徒の声
- 各部門の講師諸先生から講評文をいただいた。心からお礼申しあげたい。各部会(班)の報告は、各専門部会及び班にお願いし、準備経過、本番の記録、反省、今後の課題を主体の記述とした。
- 地方の時代、文化の時代という。風土と歴史に根ざした80年代の創造の営みは、今こそ多感な若き高校生たちに期待される。
山口県出身の詩人たちは、そのふるさとをかなでうたう。
「これが私の古里だ さやかに風も吹いてる……」
(中原中也)
「雨ふるふるさとは はだして歩く」
(種田山頭火)
- なお、写真の一部提供の大久保家治氏及び(株)ユニオンプレスにお礼申しあげる。



第7回全国高等学校総合文化祭の記録

昭和58年12月10日発行

編集・発行

第7回全国高等学校総合文化祭
実行委員会事務局

山口県教育委員会 (文化課)

〒753 山口市 後河原松柄150-1
TEL 0839-22-3111 (内線) 3372

印刷 高田印刷

友情

